

心を耕す積極的な生徒指導を 推進する特別活動の取組事例

平成31年2月
広島県教育委員会

は じ め に

近年、生産年齢人口の減少、人工知能（A I）の飛躍的な進化、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は急速に変化し、将来の予測が困難な時代になっています。このような時代にあつて、学校教育には、子供たちに様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決できる資質・能力を育成することなどが求められています。

そのような中、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、多様な他者と協働する意義を理解し、行動の仕方を身に付けたりすることや、課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすること、自己実現を図ろうとする態度を養うことなどを目的とした特別活動がより一層、重要視されています。

生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校の実施要項には、各教科や特別活動等において、体験活動を充実させることで、社会性をはぐくみ、児童生徒間の絆を強め、望ましい集団を育成することを明記し、指導にあたっては、ねらいを明確にし、他の教育活動との関連を十分に図り、組織的、計画的に実施すると定めています。

この実施要項を踏まえ、各校において児童生徒自らが課題を発見、解決するといった主体的な活動を推進するとともに社会奉仕活動や異年齢交流等を通じて児童生徒の自己肯定感を育成する取組を実施していただいているところです。各指定校においては、本資料を活用していただき、今後の特別活動のより一層の充実に役立つことを願っています。

平成 31 年 2 月

豊かな心育成課

目 次

はじめに

目次

①一人一人のキャリア形成と 自己実現を目指した活動

- 尾道市立栗原北小学校
『ドリームマップの作成等による肯定的な自己意識の醸成』
- 尾道市立高須小学校
『行事ふり返りシート』

②いじめの未然防止につながる 自治的・自発的活動

- 東広島市立寺西小学校
『スマイルボックス』
- 熊野町立熊野第四小学校
『いじめ撲滅キャンペーン』
- 福山市立神辺中学校
『いじめ防止に向けての取組』
- 廿日市市立大野東中学校
『生命尊重～いじめ撲滅に向けて～』

③よりよい学級・学校づくりを 目指した活動

- 竹原市立竹原西小学校
『児童会活動の活性化～楽しくあたたかい学校にしよう～』
- 大竹市立大竹小学校
『委員会活動』
- 東広島市立三ツ城小学校
『凡事徹底』
- 廿日市市立廿日市小学校
『つながろう！レインボーツリー プロジェクト』
- 廿日市市立平良小学校
『児童が主体となった委員会活動を仕組み、自己有用感を育てる』
- 廿日市市立宮内小学校
『自己有用感を育てる～子どもが休まない学校づくり～』
- 府中町立府中南小学校
『主体性を育む児童会活動の実現を目指して6+3=9 への連携』
- 北広島町立壬生小学校
『児童が主体となる児童会活動の充実』
- 尾道市立久保小学校
『児童会活動』
- 尾道市立向島中央小学校
『感謝を形に 感動を共に』
- 尾道市立因島南小学校
『静と動を思考する児童の育成～児童会活動を通して～』
- 三次市立三次小学校
『花咲山・あんたが大賞』

- 1 ●三次市立十日市小学校
『主体的な児童会活動』
- 2 ●庄原市立庄原小学校
『児童会執行委員会』
- 福山市立東朋中学校
『ともに学び高め合おうとする集団づくり』
- 大竹市立大竹中学校
『いのち輝く学校をめざす生徒会活動』
- 4 ●廿日市市立七尾中学校
『あいさつ運動』
- 6 ●廿日市市立野坂中学校
『NOSAKA 運動』
- 熊野町立熊野中学校
『主体性を育成する生徒会活動』
- 安芸高田市立吉田中学校
『吉中学びの7か条』
- 尾道市立久保中学校
『生徒会主体の活動』
- 三次市立十日市中学校
『めざす学級とは？』

④児童生徒のリーダー性等を育む 異年齢集団活動

- 廿日市市立阿品台西小学校
『全校で取り組む たて割り班掃除』
- 廿日市市立大野東小学校
『縦班活動（縦班集会の活動を通して）』
- 三原市立田野浦小学校
『異学年交流』
- 尾道市立栗原小学校
『自分を大切に、他者を大切にする生徒指導』
- 尾道市立吉和小学校
『吉和チャレンジランキング大会』
- 竹原市立竹原中学校
『縦割り運動会・文化祭・掃除』
- 東広島市立中央中学校
『縦割り活動』
- 府中町立府中緑ヶ丘中学校
『望ましい集団活動』
- 三原市立第三中学校
『三中チャレンジカップ』

⑤児童生徒が主体的に活動する 体育的・文化的行事

- 安芸太田町立加計小学校
『児童が参画する学校行事～運動会での応援合戦～』
- 福山市立城東中学校
『生徒主体の体育大会』
- 呉市立阿賀中学校
『阿賀中学校ソーランプロジェクト ～ともに伸びる～』

- 海田町立海田中学校
『体育祭』
- 三原市立第五中学校
『運動会』
- 尾道市立吉和中学校
『吉中太鼓』
- 尾道市立高西中学校
『自主的な活動（体育大会）』
- 尾道市立向東中学校
『体育大会』
- 庄原市立庄原中学校
『合唱祭』
- 広島県立松永高等学校
『運動会』
- 広島県立沼南高等学校
『沼南祭でのクラス発表』
- 広島県立河内高等学校
『全校写真コンテスト』
- 広島県立福山商業高等学校
『体育祭』

⑥学校や地域への愛着を深める ボランティア活動

- 呉市立阿賀小学校
『阿賀小児童ボランティア隊（AJV）活動』
- 三原市立本郷中学校
『生徒会を中心としたボランティア活動の充実』
- 三次市立三次中学校
『一斉ボランティア活動』
- 広島県立大竹高等学校
『社会奉仕活動』
- 広島県立安西高等学校
『花いっぱい運動』

⑦高い志を育成する取組

- 廿日市市立阿品台中学校
『徳地宿泊体験学習の取組』
- 尾道市立栗原中学校
『良いものにふれ、心を耕す』
- 広島県立黒瀬高等学校
『70周年記念式典への取組』
- 広島県立府中東高等学校
『教職員講話』

⑧いのちの大切さを理解させる 防災教育

- 府中町立府中小学校
『5年生総合的な学習の時間と連動した取組』
- 廿日市市立廿日市中学校
『津波を想定した避難訓練』

一人一人のキャリア形成と
自己実現を目指した活動

指定校番号	30018	○	学級活動		児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	---	------	--	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長	津田 秀司	生徒指導主事	利田 政美
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『ドリームマップの作成等による肯定的な自己意識の醸成』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性・協働性」	2	「自己理解・自らへの自信」	1

取組のねらい『キーワード：肯定的な自己意識』

本校の児童の多くには、自分自身に十分な自信がもてず物事に消極的な態度がうかがえる。児童アンケート（5段階評定尺度）における評定平均値からも「つらい出来事があっても耐えられる」（3.02）「自分の未来にはきっといいことがある」（2.85）と、心の弱さが見受けられる。そこで、将来に希望を持たせる取組を行うことで、自己肯定感や主体性等、児童の肯定的な自己意識の醸成を図る。

取組の具体的内容『キーワード：ドリームマップ，二分の一成人式』

【ドリームマップの作成】

①自分の“好きなこと”を見つけよう！

好きなこと、好きなもの、やってみたいこと、あこがれの人等を見つける。

②夢をかなえた自分になりきろう！

夢をかなえた自分が持っている物とは、夢をかなえた自分はどんな人か、夢をかなえた自分が笑顔にしている人は、夢をかなえた自分が生きている社会は、等々を想像する。

③ドリームマップを作ろう！

①や②で考えたことを基に、こうなったらいいな！こんなことしたいな！こんな大人になりたいな！と、ワクワク思うことを写真や絵、文字で台紙に描く。



④自分の夢を発表しよう！

この夢を持ったきっかけ、ドリームマップの中で一番伝えたいところ、この夢をかなえるために頑張ること等を発表する。

【二分の一成人式2部】

①先輩から学ぼう！

先輩からの激励の言葉を聞く。

②自分の夢を伝えよう！

家族の前で自分が描いている夢を発表する。



<児童の感想より>

- ドリームマップを作って、自分の好きな色や好きな食べ物、得意なこと、興味があることなど、自分のことをもっと知ることができました。今まで自分には良いところがないなと思っていたけど、自分の良いところやがんばっている所を発見できて、自分のことが好きになりました。
- 私はドリームマップを作って、夢を持つことは楽しくて、元気が出ることがわかりました。夢をかなえた自分を考えるときがとても楽しかったです。自分の夢を追いかけるために、今の自分に何ができるか、これからも探していきます。
- ぼくは、ドリームマップを実際に作ったり発表したりして、自分の夢に少し近づいたなと思いました。これからも、ドリームマップをパワーアップさせていきたいです。
- 自分の夢を発表しているとき、みんなが、「すてき。」「できる。」「かなうよ。」「がんばって。」「最高。」と声をかけてくれたのでうれしかったです。夢を絶対になんかしてみせるぞと思いました。
- 二分の一成人式のときに、自分の夢を発表しました。その夢をみんなが応援してくれました。家に帰ってお母さんが、「すてきな夢だね。がんばって。応援しているよ。」と言ってくれました。ぼくは、がんばるぞと思いました。

取組の課題・創意工夫『キーワード：肯定的な自己意識』

<創意工夫>

- ・ドリームマップを一枚の台紙の上に、4つの視点（自分の物、自分の心、他者、社会）でデザインしていくことで、自分の夢は自分だけでなくみんなも幸せにすることであることを意識させた。
- ・お互いに自分の夢を語り合うことで、児童同士のコミュニケーション能力や協働性の向上を図った。また、他者からの肯定的な言葉がけや評価により、自身に対する理解、意識の向上を図った。
- ・自分の思いを素直に文章に表すことが難しい児童には、文章モデルを示す等の支援を行った。

<課題>

- ・自分の考えをしっかりと発表できるよう、継続してコミュニケーション能力の向上を図る必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード：自己理解、主体性・積極性』

- ・ドリームマップの作成を通して自己理解を深めることで、自分自身の良さに気づくことができた。
- ・他者に夢を聞いてもらったり応援してもらったりすることで、肯定的に自己を捉えられるようになった。
- ・自己肯定感を高めることで、心を強く持ち主体性や積極性が向上した。また、自分の将来に希望を見出す児童が増えた。

<つらい出来事があっても耐えられる>

事前	事後
3. 0 2	4. 1 5

<自分の未来にはきっといいことがある>

事前	事後
2. 8 5	4. 2 5

今 後 の 展 開『キーワード：児童同士のかかわり、感謝の心』

協働的な活動の場を多く設定し、その中で児童同士のかかわりや感謝の心を増やしていくことで、児童相互の信頼感を高めるとともに、他者に対する肯定的な意識や自己に対する自信を涵養していく。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード：総合的な学習、道徳、各教科』

特別活動での取組を要として総合的な学習の時間や道徳科の授業と関連させる。さらに、各教科の授業へも繋げていき、自己肯定感の醸成に対する取組を体系づける。

指定校番号	30021	○	学級活動		児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	---	------	--	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長	梶原 弘志	生徒指導主事	徳重 雄大
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名『行事ふり返りシート』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「集団向上力」	1	「社会貢献力」	3	「自己指導能力」	2

取組のねらいキーワード『自ら伸びる・共に伸びる』

○学校行事の参加に向けて、児童一人一人に明確な目標を持たせる（考えさせる）ことを通して、自己や集団を高めていこうとする意欲を持たせる。

【自己決定の場を与える・共感的人間関係を育成する】

○「行事ふり返りシート」の記入を通して、自己や集団における成長や目標に対する達成度を明確にし、児童の自己肯定感を高めるとともに、資質・能力の向上を図る。

【自己存在感を与える】

育てたい資質・能力について

- 自己指導能力・・・意欲を育てる，実行力を育てる，ふり返り力を育てる。
- 集団向上力・・・リーダーを育てる，つながりを育てる，空気を育てる。
- 社会貢献力・・・より良い社会をつくる意欲を持たせる，人のお役に立つ喜びを持たせる。

取組の具体的内容 キーワード『ふり返り，成長（高まり）を感じる』

行事実施前

○学校行事実施前に，各行事に応じた個人や学級，学年の目標を持たせる。集団（学級や学年）の目標については，教師と児童との間で共通認識を図る。

【自己決定の場を与える・共感的人間関係を育成する】

行事取組途中

○教師，児童がそれぞれ中間評価を行い，目標に対する達成度の確認や取組の方向性・児童の意識の修正を行う。

【自己決定の場を与える・共感的人間関係を育成する】

行事終了後

○行事終了後に，「行事ふり返りシート」を書かせ，自己の成長や集団としての高まりを感じさせる。

【自己存在感を与える】

行事ふり返りシート

行事名

年 組 番

①行事と学習の関わりを，もっとよくなる点を振り返ってみよう。

②学習と人との関わりや態度などを振り返って，良かったことを。

取組の課題・創意工夫 キーワード『中間評価の充実』

課題

- 「行事ふり返しシート」は行事終了後のふり返しに重点を置いているため、中間評価において、児童に自己評価を書かせることが十分にできていない。
- 中間評価においては、教師主体のふり返しになることが多い。
- 学校行事を通して身に付けた力について、日常との関連を図る。また、日常から見通しを持った活動・指導を行っていくことを目指す。

創意工夫

- 書く活動を通して、児童がしっかりとふり返し、じっくりと考えることができている。
- 「書く活動」ということで、国語科の学習と関連させている。

取組の成果（効果） キーワード『高まり』

- 自己の高まりや成長を感じている児童もそれに満足することなく、周りの児童（集団）を意識し、声掛けや手助けをすることができるようになった。（自己有用感や所属意識の高まり）
（例）音楽発表会の練習において、鍵盤ハーモニカの運指ができるようになった児童が友達をサポートするようになった。
- 集団としての力やリーダーの主体性が高まった。
（例）教師の肯定的な声掛けで、落ち着いた雰囲気をつくることができるようになった。
また、児童間で進んで空気づくりの声掛けができるようになった。

今 後 の 展 開 キーワード『形成的評価』

- シートの形式を「目標」「中間評価」「総括的ふり返し」の三段構えにし、シート1枚で児童が形成的評価と総括的評価の両面ができるようにする。

他教科との関わり キーワード『書く活動』

- 「書く活動」ということで、国語科の学習と関連させた。

いじめの未然防止につながる
自発的・自治的活動

指定校番号	30004		学級活動	☐ 児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	-----------------------------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立寺西小学校	校長	福場 克史	生徒指導主事	植野 勝也
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『スマイルボックス』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「協調性」	3	「自己理解・自己指導能力」	2

取組のねらい『キーワード 自己理解・自己指導能力』

児童会が中心となり、「いじめゼロ」に向けた取組を主体的に行うことを通して、いじめを許さない意識を高める。また、うれしかった言葉や行為を朝会や放送で紹介したり、児童に届けたりすることを通して、自己理解を深め、自己指導能力を高める。

取組の具体的内容

日常生活の中で、友達にしてもらってうれしかった言葉や行為を紙に書き、「スマイルボックス」に入れる。それを児童会執行部が回収し、一部を放送で紹介する。また、紹介された手紙は校内に掲示し、その言葉や行動を広める。



スマイルボックス

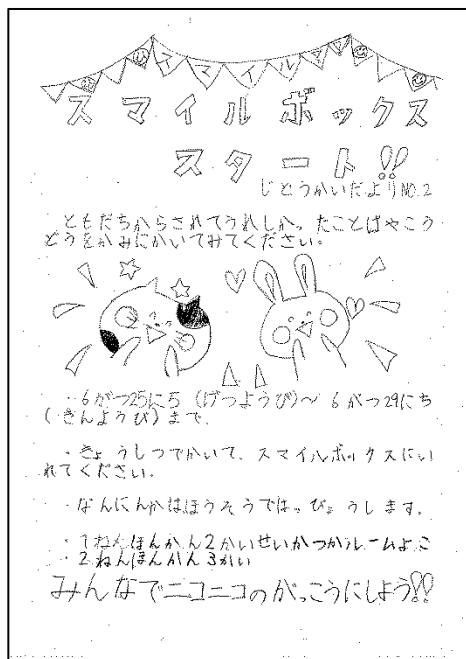


校内掲示

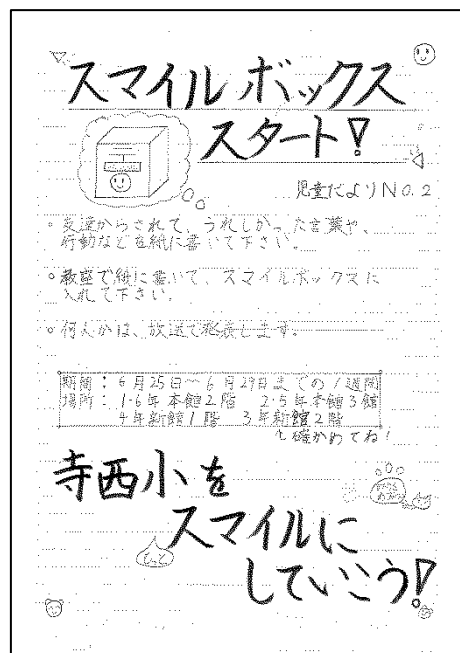
取組の課題・創意工夫『キーワード イメージの共有』

取組を始める前に、児童会が「児童会だより」を作成・配付し、全校放送で周知する。職員内では、紙に書く内容のイメージを共有する。また、いたずらを書いて入れないように、取組の目的を確認し、学級指導を行ってから開始する。

また、放送で紹介する内容については、昨年度の取組では友達に対するお手紙のようなものが多く投函されたという反省から、ねらいにあった内容を紹介するよう、児童会にアドバイスしたり、教職員が必ず目を通すようにした。



低学年用 児童会だより



高学年用 児童会だより

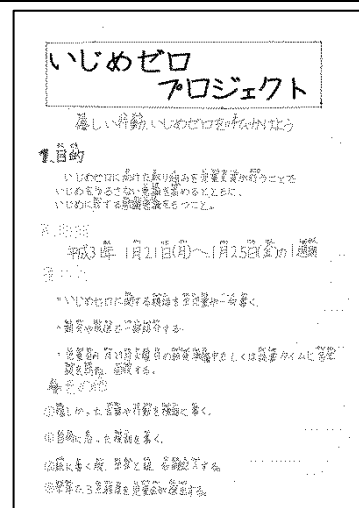
取組の成果（効果）『キーワード 学校があたたかい雰囲気』

給食時の放送で紹介するとき、学校全体が静かになり、自分の書いたことが読まれるかなというワクワク感でいっぱいになり、紹介されると笑顔があふれ、あたたかい雰囲気に包まれる。紹介された児童の自己有用感が高まり、聞いているまわりの児童は、よい行いとはどのようなことかを学び、それを実践しようという意欲が高まった。

今 後 の 展 開『キーワード 全員が参加』

スマイルボックスの取組を毎年続けてきたが、全校児童が活動に参加しているとは言い難いという反省があった。

今年度の後期は、「いじめゼロプロジェクト」の第2弾として、いじめゼロに関する標語を全児童が一句書くという活動に取組んでいる。現在は、標語の作成が終わり、児童会が回収しているという段階である。今後、各クラスで選ばれた標語を放送で紹介したり、児童会が選出して表彰をしたりという活動をしていく予定である。



他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 良さを見つける、みとめる 個性の伸長』

特別の教科「道徳」で内容項目「A－（4）個性の伸長」の授業の際、この取組で届いた紙の内容が、自分の長所について考える際の参考になったり、友達のよさを見つける活動が抵抗なく行えるようになったりしている。

指定校番号	30013	○	学級活動		児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	---	------	--	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野第四小学校	校長	吉田浩一	生徒指導主事	神信正彦
-----	-------------	----	------	--------	------

取組事例名 『いじめ撲滅キャンペーン』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「課題発見・解決力」	2	「自己決定・主体性」	1	「自己理解」	3
取組のねらい 『キーワード 未然防止』					
いじめ未然防止の取組を行い、いじめのない学校をめざす。					
取組の具体的内容 『キーワード 思いを受け止め、思いを発信』					
本校のいじめ防止等に関わる基本方針を基に、担任が各学級でいじめの定義について伝えることで、児童と共に定義について再確認する。 次に、県教委からのいじめに関する緊急メッセージを読み、メッセージに込められた思いを受け止める。 その後、一人一人がいじめをなくすためにできることを考え、自分の手形の中に宣言を書く。各学級で宣言を集め、パブリックスペース（廊下等）に掲示し、互いの宣言を知る。					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 児童発信・自己決定』					
人権週間に合わせ、児童委員会が朝会で、全校児童にいじめ撲滅を呼び掛けることで取組をスタートする。 一人一人の考えを集約するのではなく、一人一人の考えを大切にすると共に宣言に責任をもつ。					
取組の成果（効果） 『キーワード 自尊・他尊』					
学校評価アンケート（児童10月 肯定的回答の割合） 学校行事やたてわり班の中で周りの人を大切にすることができた。93.5%（5月89.2%） 学校行事やたてわり班の中で自分の役割をがんばることができた。95.3%（5月90.5%）					
今後の展開 『キーワード 繋ぐ』					
一人一人の宣言を、掲示することで、他学年・他学級の思いを知ることができる。 手形の宣言文と同一のものをキャリアファイルに綴ることで、自己の成長・変容を知ることができる。					
他教科との関わり 『キーワード 自分事として考える』					
道徳科では、自分事として考えることを学習過程において大切に授業展開を行っている。 この取組においても、いじめについて自分事として考えさせ、一人一人の思いを大切にしたい。					



指定校番号	30027	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立神辺中学校	校長	西川 紫	生徒指導主事	丸尾 亮太
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『いじめ防止に向けての取組』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		協調性		多様性に対する適応力	
「コミュニケーション能力」	1	「思いやり・感謝」	2	「自己コントロール」	3

取組のねらい『キーワード 傍観者にならない』

- 生徒会本部が主体となり「いじめ」について考える集会を企画し、神辺中学校からいじめをなくす。
- 生徒が「いじめの4層構造」を理解し「傍観者にならない」「傍観者をつくらない」ためにどう行動すればよいかを考える活動を行うことで、仲裁者を育てる。

取組の具体的内容『キーワード いじめSTOP集会』

- 生徒会本部役員が、昨年度の成果と課題を踏まえ、主体的に企画を立案した。
- 生徒会本部役員が、「いじめの4層構造」についてパワーポイントを使用して全校生徒に説明し、「傍観者にならない」ことを確認した。
- 集会後、生徒一人一人が「振り返り」と「いじめSTOP宣言」を書いた。

取組の課題・創意工夫『キーワード 当事者意識』

- 生徒実態を考慮し、「LINE」を介してのいじめをテーマとした。
- いじめの場面の動画を、全体・加害者・被害者・傍観者の4つの視点から撮影した。
- いじめの解決策として、例を3つ提示した。

取組の成果（効果）『キーワード 考える』

- 全校生徒が、生徒会本部役員のプレゼンを集中して聴き、真剣に集会に臨んでいた。
- 事後の振り返りでは、多くの生徒が「傍観者も許されない」等と記入しており、神辺中学校からいじめをなくすという意識が高まった。



今後の展開『キーワード 継続』

- 生徒が主体となって企画・立案・実行する「いじめSTOP集会」は、来年度も実施する。
- 生徒会本部の生徒を中心に「あいさつ運動」を継続し、共感的人間関係の向上を図り、いじめの未然防止につなげる。
- 生徒会活動と学級活動をつなぎ、それぞれの個性、考え方や思いを大切にしようとする意識を高める。

他教科との関わり『キーワード 継続』

- 1学期には、学級活動の中で、生徒一人一人が「いじめ防止標語」を考えた。標語は全校で集約し、表彰を行った。
- 1月26日（土）の「全国いじめ問題子どもサミット」に参加し、活動の成果を生徒会本部役員の代表が発表した。
- 日々の教科等の授業においても、生徒が自分で課題を見つけ、仲間と話し合いながら解決を図るような活動を行うことで、いじめも含めた学校生活の課題の解決に主体的に関わることができる力を育てていく。





神辺中学校生徒会のいじめ防止策は、 傍観者にならないこと。 そして、仲裁者になること。



私達は、このことを考えるために「いじめSTOP集会」を開きました。私達の身近な出来事
を描いた動画を作成して問題提起をしました。起こっている事実をしっかりと見つめることが
大切です。場面は、LINEの中。裏のLINEグループでFさんの悪口と仲間はずれの言葉が・・・

グループLINEにて

- ・A 加害者
- ・B&C Aさんの仲間
- ・D&E 傍観者
- ・F 被害者

ライングループ「生徒会」

明日の時間割教えてー

国、体、社、
数、理、英

うわっ、
数学あるじゃんかー

数学苦手なんだよねー

私ちへー

期末テストの直前の期
間はずかしかったな。
正解したけど。

ライングループ「裏生徒会」

あいつ悪すぎだよな

確かに・・・

自慢かなー?

自慢だったら
うざいなー

それなwww

あいつ悪すぎさー
ハブろうぜ

LINEのトークの翌日、約束通りに仲間はずれが始まりました。

4つの視点から、この場面を描いた。

全体

仲間はずれが始まる!!

加害者

昨日の約束通りに無視

被害者

どうして?!!
無視される理由が分からない!!

傍観者

私には関係ない!!
周りは見ているだけ

解決策1

改善策1

LINEの中で注意する!!

**見ているだけの傍観者から、
一歩踏み出してみませんか?**

あなたが勇気を出して「傍観者」から一歩進むことで、
助けられる人がいるかもしれません!!

解決策3

見逃さず注意に行く!!

- いじめSTOP集会**
- パワーポイントのスライドを使って「いじめの4層構造」を確認した。「傍観者にならないこと」を訴えた
 - 動画で身近ないじめの場面を4つ視点から提示した
 - 動画で解決策として3つの例を提示した

- 工夫したこと**
- 私たちの身近に起こっているいじめを、全体から見ただけでなく、「加害者からの視点」「被害者からの視点」「傍観者の視点」から見ようとしたこと
 - 傍観者にならないための行動例を示したこと

4層構造は、わかりやすい!



集会では、福山地区更生保護協会理事長賞を受賞した3年 中井香さんの「自ら行動する勇気」を紹介しました。

「世の中「いじめはしてはいけない」と言う。もちろんいじめは私も反対だ。決してやってはいけないことだと分かっている。では質問。

「あなたは人をいじめたことはないですか。」と質問されたらどのように答えるだろうか。

そう、多くの人は「はい」と答えるだろう。では質問の仕方を考えてみよう。

「あなたはいじめられている人がいたら必ず助けることはできますか。」

「はい」と答えられる人は少ないのではないだろうか。さらにもう一度聞く。

「あなたは人をいじめたことがないと言えますか。」

いじめを実行している中心のグループでなくとも「見て見ぬふりをする。」「自分がいじめられたくないから知らないふり。」これらも立派ないじめの一つだ。

「いじめ」は立派な犯罪だ。

日常で何気なく言っている悪口は侮辱罪となり、ふざけて蹴ったり叩いたりしたことも暴行罪となり、暴力をふるった結果、相手がケガをすれば傷害罪となる。

社会ではこれだけ犯罪となることが「子どもだから」「学校だから」という理由で許されるわけがない。

どうか、いじめに気づいてほしい。

そして手を差し伸べることのできるヒーローに私はなりたい。

BULLYING STOPS HERE!

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名 廿日市市立大野東中学校

校長 田浦 由紀夫

生徒指導主事

中次 伸彦

取組事例名 『生命尊重～いじめ撲滅に向けて～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成

社会参画

自己実現

「コミュニケーション能力」

1

「課題発見・解決力」

2

「自己理解力」

3

取組のねらい『キーワード いじめの未然防止』

自他の生命を尊重する心を育むとともに、いじめのない学校、安心して生活のできる学校を目指して、一人一人ができることを考え、やるべきことを自覚する。また、一人一人がかかけがえのない存在であることを理解して、仲間と協力し、助け合うことで、「つながり」を大切にする。

取組の具体的内容『キーワード 心に訴える』

◇「命の大切さについて考える日」の集会

生徒会からの「いじめ撲滅宣言」や『「いのち」って何だろう』の読み聞かせを通して、「命を大切にする」とは、どういうことか一人一人が考えた。その後の学活では、それぞれのクラスにおいて、お互いを大切にしていくためには何をを目指すのかを話し合い、クラススローガンや具体的な取組を考えた。



◇「平和」について考える集会

平和学習、生徒会からの平和メッセージの発表、田中祐子さんに被爆体験の講話を通して、広島の中学生として被爆地「ヒロシマ」の歴史から、命の尊さや「生きる」ということを学んだ。



◇「いじめ防止」について考える集会

各学級で話し合ったクラススローガン達成に向けての振り返り発表や、つながりを深めるためのグループワークなどを通して、いじめのない学校をつくるために一人一人が考えた。



取組の課題・創意工夫『キーワード 生徒の主体的な取組』

発表や講話だけではなく、実際に生徒同士が関わり合い、コミュニケーションをとることで「つながり」を深める活動を入れたいという生徒会の発案により、グループワークを入れた集会を実施した。

具体的には、無言のまま誕生日順に並び替える「バースデイライン」や、すべてをつなげると歌詞になる「伝言ゲーム」が行われた。生徒からも「みんなで協力し、助け合うことが大切だと感じた」「相手に適切に伝わるように普段からも意識したい」などの感想があった。

また、各学級において、クラススローガン達成に向けて取り組み、毎学期末に自己評価を行ったり、クラスで見つけた温かい言葉や行動を紹介する「ハッピータイム」というお昼の放送を流したりするなど、年間を通じて継続的な取り組みを行った。

取組の成果（効果）『キーワード 心に響く』

1学期では、暴力行為3件、いじめ認知7件であったが、2学期以降は暴力行為0件、いじめ認知2件と大きく減少した。また、学校生活・いじめアンケートにおいて、「学校が楽しい」と回答をした生徒が91%、「現在いじめを受けている」と回答した生徒は0%であった。

生徒一人一人の中にも「相手が傷つく行為はいじめである」「相手の気持ちを考えて行動しよう」というような心が根付いてきた。

今後の展開『キーワード つなげる』

自己有用感の低い生徒や自死のほめかしをする生徒が多い現状から、生徒のレジリエンス（心の回復力）をより養っていく必要がある。今年度取り組んだ集会を軸に、体育祭や文化祭、修学旅行や集団宿泊研修などの学校行事をつなげ、「やればできる」という成功体験を積んだり、「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えたりする活動を取り入れていきたい。また、学級単位での関わり合いを増やすことで、信頼できる仲間づくりや互いを尊重する心を養っていきたい。



軸としている集会や学校行事の内容を断片的に捉える生徒が多い現状もあるため、学んだことを自分の生活に置き換え、「なにができるのか」「どうあるべきなのか」をしっかりと考えさせていきたい。

他教科との関わり『キーワード 道徳教育』

集会の前に合わせて道徳の時間を設定し、価値項目D（19）生命の尊さ「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。」についての教材を扱って、生命尊厳に対する生徒の心情や態度を養った。

また、学期末では、いじめ撲滅（一人ひとりが大切にされる学級・学年・学校の実現）」に向けて、各学級でどのように取り組んできたか、できていることや成長したことはなにか、これからの課題はなにかなどを話し合い、次の集会につなげていった。

よりよい学級・学校づくりを
目指した活動

指定校番号	30002	学級活動	○ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原西小学校	校長	藤野 恵子	生徒指導主事	高橋 倫子
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童会活動の活性化～楽しくあたたかい学校にしよう～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成	社会参画	自己実現
「人間関係形成能力・社会形成能力」 1	「課題対応能力」 3	「自己理解・自己管理能力」 2

取組のねらい 『自律的に行動できる児童の育成』

- 児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
- 子供たちの力でよりよい学校にしていくための活動をしていく風土を作る。
- 【高学年】児童会活動を通して、達成感、自己肯定感を高めさせる。
- 【低学年】高学年と共に活動を行うことで、模範的態度や自分の理想像を具体的にもたせる。

取組の具体的内容『自分たちが楽しくあたたかい学校生活をつくる』という実践意欲の喚起

運営委員会

(1)「みんなを大切にする学校にしよう」

委員会の子供たちは、自分たちの任期があと僅かとなった頃、「竹原西小学校のみんなが楽しく学校生活を送るためにできること」を全校に提案したいとの思いをもった。そこで、担当職員や生徒指導部も参加し、子供たちと取組内容について話し合う機会をもった。「みんなを大切にする学校にしたい。そのために、友達について見直してみてもどうか。」と意見が出されたので、話し合って次のことを行うことになった。

①全校朝会による取組の説明。(自分たちの気持ちを伝える。協力をお願いする。)

- 低学年にも分かりやすいように、寸劇を見せる。(自分のわがままから人に嫌がることをしてしまうことや、悪気はなくても傷つけている場合がないかどうか、投げかける。)
- 相手の気持ちを考え、思いやりをもって人を大切にする学校にしていきたいという思いや、いじめをなくして笑顔いっぱいの学校にしたいという自分たちの気持ちを伝える。



～寸劇「こんなことはないですか?」～

②掲示できるものをつくり、それを見て友達を大切にすることを意識してもらう。

- 学級で「友達って○○○○○」の言葉を考えてもらい、学校全体で一つの詩にする。委員会が、墨で書いて校内に掲示する。

③「ほっかほかメッセージ」を全体に紹介する。

- 全校にカードを配布し、学年に関係なくうれしかったことや感謝していること等を書いた「ほっかほかメッセージ」を全校から募る。伝えたい気持ちを放送や全校朝会で紹介する。

(2)「みんなでいっしょに遊ボード」

「学年を問わずみんなで遊ぶ時間を作りたい」というメンバーの意見を具体化することになった。時折、運営委員が全員遊びを計画し、職員も一緒に全員遊びを楽しんできている。今回は、もっと気軽に同じ遊びをしたい人が集まることのできる機会を作ろうと企画した。

①まずは、多くの人が参加できるように、紹介ビデオを作る。

(キャラクターを設定し、自分たちが演じる。)



～活動の紹介ビデオ作成～

②全校朝会でビデオを使って、自分たちの気持ちや今回の企画の内容を周知する。

③ボードを設置し、日時・内容等を知らせる。

④遊びに関する準備や進行を行う。

「今日はおにご!」



生き物委員会

○生き物イラストコンテスト:「生き物に触れ、命の大切さを感じてほしい」との

思いをもち、活動内容を計画した。とくに、雨の日の休憩時間には「イラストコンテスト」を計画し、学校で飼育している生き物を描いて楽しむことができた。生き物委員が○○賞を決めて校内掲示し、放

送で紹介したり賞状やメダルを渡したりした。

ベルマーク委員会

○**全校による作業の体験**：ベルマークの仕分け作業を縦わり班で体験する機会を企画した。委員会朝会で、いただいた一輪車を紹介し、協力に対するお礼の言葉を伝えた。

図書委員会

○**ポスター川柳コンテスト**：読書の感想を川柳に表し、イラストを添えたポスターを募った。ポスターは校内に掲示し、全校で投票して各作品に賞状を作って渡した。

○**読み語り**：朝の読書タイムに、1～4年生の教室で読み語りを行っている。図書委員が、各担任から聞いたおすすめの本や、季節や学年に応じた本を選んでいく。



～各委員会によるコンテストの実施～

取組の課題・創意工夫 『ねらいを明確に』

◎ねらいを明確にして、取組を考えさせる。

特別活動について校内研修を実施し、全教職員が委員会活動のねらいや活動の方向性についての理解を図った。また、担当教員だけでなく全体で取組の参考例を出し合い、実践に生かしていった。

取組の成果（効果） 『取組児童と参加児童の達成感』

○企画し実践した児童は、「自分たちで新しい取組を行うことができた。」「下級生がたくさん来てくれて嬉しかった。」「みんなが楽しんでくれてよかった。」「喜んでくれたので、また計画したい。」と充実感達成感を味わえることができた。また、仲間と話し合って計画したり実行したりする中で、自分の意見をしっかりと出すことや折り合いをつけていくこと、目的を共有し仲間と協力することの大切さを感じ取ることができたと思われる。充実感も味わうことができた。

【児童のふり返りより】

～仲間や先生と協力して取り組めて楽しかった。(6年)～

～上手いかないなあと悩んだこともあった。でも、意見を出し合い、5年と協力できることが増えた。(6年)～

～来年度も、委員会で工夫して楽しい学校にしてほしい。今年度のよかった活動をぜひ引き継いでほしい。(6年)～

～書く時も放送する時も、いつも下級生のことを意識するようになった。(5年)～

～みんなのために役に立っていると感じ、うれしい。6年になってもみんなが喜んでくれることをしたい。(5年)～

～上手いかなかった活動があった。みんなで話し合ってもっとよい活動になるよう改善していきたい。(5年)～

○参加した児童は、活動を楽しむとともに「自分たちも高学年になったら、下級生のために何かやってみたい」という意欲や「高学年が自分たちのために楽しいことを考えてくれて嬉しい」という感謝の気持ちをもつことができていた。

○外遊びや図書室を利用する児童が増え、休憩時間の楽しみの幅が広がった。

委員会活動のふり返り（肯定的評価）1月実施

(%)

項 目	5 年	6 年
1 積極的に活動に取り組もうとしている。	100	100.0
2 仲間と協力しながら活動している。	97.7	81.0
3 委員会活動がなぜ大切なのかを理解している。	95.3	100.0
4 下級生の事を考えて活動内容を工夫している。	95.3	94.6
5 委員会活動は楽しくやりがいがある。	97.7	94.6

今 後 の 展 開 『ねらいを忘れず、よりよい取組に』

○今年度行った取組を児童とともにふり返り、上手いといった取組はよりよい取組にするにはどうすればよいのか、上手いかなかった取組はどう改善していくのか、来年度に引き継げるようにしていく。

○新しい取組をすることを目的とせず、自分たちの委員会のねらいを明確にして、そのためにできる取組は何か考え計画していくようにする。

○当番的・お手伝的な活動のみにならないよう、楽しく豊かな学校生活に繋がるという視点でも活動を考えさせる。児童主体の活動や取組を行うことができるよう、担当職員は道筋をつけたり児童の動きに対する支援を行ったりする。

他 教 科 と の 関 わ り 『有機的な関連付けを意識して』

○各教科の学習内容を特別活動に生かす。

（基礎基本の定着、思考力・判断力・表現力等、進んで学習する意欲、コミュニケーション能力）

○特別活動の経験を、教科の学習活動に生かす。

（話し合い活動、協力的・実践的な態度）

○道徳的実践の中心的な学習活動の場として特別活動を位置づけ、各活動の目標に含まれる道徳的価値を意識し指導する。また、児童会活動と道徳科授業を横断的に扱うことで、道徳的実践力の育成を促進させる。

指定校番号	30003		学級活動	☐	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	-----------------------	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長	小西 啓二	生徒指導主事	箱田 知子
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『委員会活動』
-------	---------

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思考力・判断力・表現力」	3	「意欲的・主体的」	1	「自己理解・自らの自信」	2

取組のねらい『キーワード 自分たちで学校をつくる自覚』

本校の学校目標は、「みんなで伸びる」である。そのために、「しっかり考え 心やさしく たくましく 児童の育成」に取り組んでいる。生徒指導面では、「心やさしく」を中期経営目標とし、「感謝する 人を想う」を短期（今年度）経営目標として具体的には無言掃除と挨拶に取り組んだ。

その方策として、「竹小ナビ」（指導マニュアル）に基づいた指導の徹底、無言掃除・挨拶・言葉遣いの具体的な指導、率先垂範、児童が創る児童会活動を挙げ、特に今年度は、主体的な児童会活動を重点として取り組んだ。

今までも掃除リーダーや運動会の行事等でリーダーとして6年生の活躍する場面はあったが、今年度は、児童会活動（委員会活動）でも6年生が活躍できるようにと考えた。「やらされる」委員会活動ではなく、自分たちが学校をつくっていくという自覚のもと自分たちで「やる」委員会活動にしていきたいという思いをもてるように指導していった。

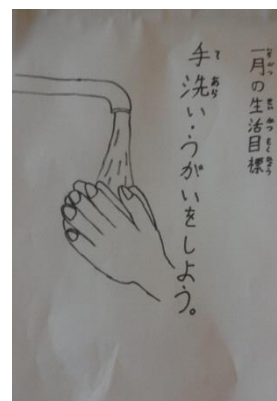
取組の具体的内容『キーワード 主体的な委員会活動』

毎月の生活目標を各委員会で考え、代表委員会で提案し、具体的な取り組みを行った。

【平成30年度 生活目標】

- 4月 気持ちのよいあいさつをしよう（運営委員会）
- 5月 ていねいにそうじをしよう（生活・美化委員会）
- 6月 1時までに給食を食べきろう（給食委員会）
- 7月 雨の日の過ごし方に気を付けよう（運営委員会）
- 9月 放送を静かに聞こう（放送委員会）
- 10月 掲示物を大切にしよう（新聞・掲示委員会）
- 11月 本をたくさん読もう（図書委員会）
- 12月 ベルマーク・テトラパックをたくさん集めよう（ベルマーク委員会）
- 1月 手洗い・うがいをしよう（保健委員会）
- 2月 病気にならない体をつくろう（体育委員会）
- 3月 人のために行動しよう（運営委員会）

以前は、「ろうかを走らない」「ベル着をしよう」「正しい服装をしよう」など、きまりを守るためのものが多かったが、今年度は、よりよい学校にという児童の気持ちが反映したものとなった。目標も、運営委員会が手書きで書き、各教室に児童が配付し、呼びかけるという形にした。



取組の課題・創意工夫『キーワード よりよい学校を目指して』

昨年度の踏襲ばかりでなく、自分たちでできるさらによいことはないかと話し合い、それを取り組んでいこうとしていた。

放送委員会では、毎日の昼の放送では、先生の紹介、学年に応じたクイズなどの企画を考え、全校児童に喜んでもらえるように工夫している。給食委員会とタイアップして、昼の放送時間は「もぐもぐタイム」とし、静かに放送を聞きながらしっかり食べるようにしている。

図書委員会では、11月の生活目標を達成するために、本により親しみをもってもらおうと、自分たちで分担して各学年にあった紙芝居を選び、読書タイムの時間に読み聞かせに行ったり、昼休憩に本のクイズラリーをしたりした。お兄さんお姉さんが読んでくれるということで、とても喜んでもらえたようだ。

取組の成果（効果）『キーワード 自信を持つ』

委員会活動で、新しいアイデアを出すだけでなく、その取り組みをやりきることによって、児童の自信につながっている。児童によっては、授業ではなかなか活躍できない児童も、全校の前で上手に話をしたり、放送したりすることで他学年の児童からも憧れられたり、多くの先生から肯定的評価を受けたりもした。

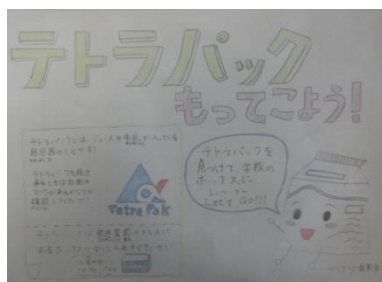
今後の展開『キーワード 学校の良さをつなぐ』

学校目標の「みんなで伸びる」ためには、委員会活動でも成果となったところを、次の学年につなげていく必要がある。2月是一緒に委員会活動をするようになっていくので、その中で、6年生がよりよい学校にしていくのだという思いとどのように取り組めばいいかという具体的な活動をしっかり話し合っていくように指導していく必要がある。

他教科との関わり『キーワード 学びを生かす』

国語科や図画工作科等で学んだことを、委員会活動で生かしている。

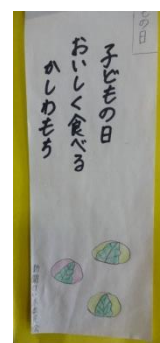
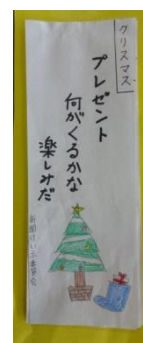
例えば、ベルマーク委員会ではポスター、新聞掲示委員会ではポスター、俳句、新聞を作成する時に、言葉選びやデザイン構成など学んだことを生かしている。



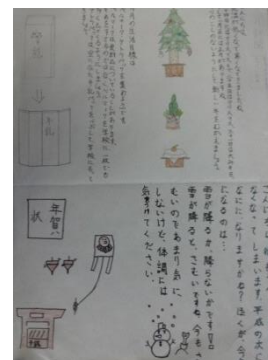
呼びかけ（ベルマーク委員会）



生活目標（新聞掲示委員会）



毎月の俳句と新聞（新聞掲示委員会）



指定校番号	30005	○	学級活動		児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	---	------	--	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立三ツ城小学校	校長	林 健一郎	生徒指導主事	山名 慶幸
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『凡事徹底』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「連帯感・相手意識」	2	「主体性・責任感」	1	「自己指導能力」	3

取組のねらい『キーワード：主体性・自己指導能力』

本校の児童は「決められたことは守る」「言われたことはやる」というような受動的な面がある。そこで、児童自身が学校生活を見つめ直し、学校や学級の課題を考え、よりよい学校生活を送るために必要なことを見出し取り組んでいく活動を通して、主体性を育み、自己指導能力を高める。

取組の具体的内容『キーワード：凡事徹底で学校生活をより良くしよう』

昨年度から「凡事徹底」を掲げ、身の回りの様子を考えて、学年単位で話し合い、目標（取り組む内容）を決めて取り組んでいる。今年度は、より児童の主体性を重視して、取組を行っていくことにした。

今年度の各学年の「凡事徹底」についての取組は、6年生「挨拶のレベルアップ」、5年生「廊下歩行の徹底」、4年生「全員参加の外遊び（体力向上に向けて）」、3年生「発表・返事は最後まで、はっきりと」、2年生「静かに、黙って集合」、1年生「さ・し・す・せ・そうじ」となった。1～4年生は学年だけの取組だが、5、6年生は、学年はもちろん、全校へも呼びかけ、取組を行っている。

6年生は、4月のチャレンジ（生活目標）「気持ちのよい挨拶をします」に合わせて、挨拶の向上を全校に呼びかけた。手作りのタスキをかけた6年生が毎朝正門で、登校してくる児童に大きな声で挨拶をしていた。そして、その挨拶運動は4月だけに終わらず、毎朝交代しながら、現在も続いている。



5年生は6月のチャレンジ「歩いて静かに行動します」に合わせて、廊下歩行の徹底を全校に呼びかけた。大休憩と昼休憩に手作りのタスキをかけ「廊下歩行見守り隊」として廊下歩行を呼びかけながら、校舎内を見回った。そして、安全に歩行できていた学年を校内放送で紹介し、廊下歩行の意識を高めた。6月以降、廊下を走る児童が増えた場合、5年生に働きかけると、自主的に「廊下歩行見守り隊」の活動を行った。

取組の課題・創意工夫『キーワード：生活委員会を生かす』

これまで、毎月のチャレンジは教職員（生徒指導部）が提案して取り組んでいたが、今年度から、生活委員会の活動の一つとすることにした。これも児童の主体的活動に繋げるものであるが、毎月のチャレンジ（月ごとに挨拶・返事、無言掃除、廊下歩行、履物整頓を繰り返している）について、どう取り組んでいくのかを考えたり、全校への発表を行ったりして、取組を進めた。

5，6年生の「凡事徹底」の取組も時間が経てくると「慣れ」や「マンネリ化」から、効果が薄まってきた。そこで、生活委員会としての取組を提案することにより、「慣れ」や「マンネリ化」を防ぐようにした。「挨拶」については、9月と1月のチャレンジに合わせ、挨拶のよい児童に、生活委員、教職員、管理職が名札にシール（三者で違った色）を貼ってやり、その児童は「挨拶大使」として「よい挨拶を広める」という「挨拶大使」の取組を提案して実行した。また、「廊下歩行」については、11月のチャレンジに合わせ、「廊下や階段、教室、ワークスペースを走っていて注意されたら、立ち止まって30数える」という「ストップ30運動」を提案して取り組んだ。



取組の成果（効果）『キーワード：主体的な活動で課題解決』

6年生が毎朝正門で挨拶運動を始めた頃、挨拶の声が大きくなり、進んで挨拶をする児童も増えてきた。しかし、よい時と悪い時があり、慣れてくると少しずつ悪くなってくる場合もあった。こうした時に生活委員会が「挨拶大使」の取組を行ったことで、「挨拶をしよう」という気持ちを再度喚起することができた。この双方の取組により挨拶への意識が少しずつ高まっていると考えられる。

「廊下歩行」も5年生の「廊下歩行見守り隊」と生活委員会の「ストップ30運動」の両方の取組を通して、年度当初に比べて、廊下を走る児童が減った。

今年度の取組を通して、5，6年生は「学校を良くしていくために、自分たちの役割を最後まで果たすことができた」「自分たちが取り組んで、学校の課題を改善できた」という思いを日記等を書いており、より主体的な活動になってきたと考える。1～4年生も「自分たちの課題に継続して取り組むことができた」という思いをもつことができた。

今後の展開『キーワード：自分たちの学校は自分たちの手で』

このように、「自分たちの課題を見付け、改善していく」活動や「自分の役割を自覚し、最後までやり遂げる」取組等を継続し、広げていくことにより、「学校をより良くしていくのは自分たちである」という意識をさらに高めていくことができると考える。

今回取り上げた取組の他にも、昨年度から、「いじめゼロ」に向けて、児童と担任が話し合い、学年ごとに「学年いじめゼロ宣言」をつくったり、児童会としていじめ防止の取組を行ったりしてきている。今年度の児童会の取組は「いじめゼロ川柳をつくろう」となり、全校で取り組んだ。最終的に選ばれた川柳「いじめゼロ 仲間と築き 笑顔さく」を横断幕にして校内に掲げることになっている。

どの取組もまだまだ教職員が関わる場面が多いが、継続していく中で、徐々に児童が行うことを増やしていき、名実ともに「児童主体の取組」としていきたい。

他教科との関わり『キーワード：主体性・自己指導能力』

特別の教科 道徳とは全般的に関わりがあるが、特に【善悪の判断、自律、自由と責任】、【規則の尊重】、【よりよい学校生活、集団生活の充実】との関わりは非常に大きい。また、本校は算数科において、主体的な学びを生み出す単元開発やペアトーク、グループトークを活用した対話的な学びの工夫等の研究・実践を行っている。こうした学習も「児童の主体的な活動」と関わると考える。

指定校番号	30006	学級活動	○	児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---	-------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長	生田 徳廉	生徒指導主事	瀬尾 啓子
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『つながろう！レインボーツリー プロジェクト！』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思考力・表現力」	3	「主体性」	2	「自己有用感」	1

取組のねらい『キーワード：主体性・自己有用感を育む』

- 委員会の活動を通して、児童の主体的に取り組む力・自己有用感を高める。
- ①他者とコミュニケーションをとり、協力しながら作品をつくる。→自己有用感
 - ②自分の役割を主体的に見出し、活動することができる。→自主性
 - ③自分の存在意義を感じることができる。→自己有用感
 - ④作品ができたときの達成感を感じる。→自己効力感



取組の具体的内容『キーワード：つながり』

★廿日市市学校教育の「つながり支援プロジェクト」の一環として、本校では、各委員会において、学校を良くするために何ができるかを児童に考えさせ、主体的に取り組むことを推進している。

その中で、保健委員会では、廿日市小学校のみんなの心を元気にするために何ができるかを考え、今回の取組を行うこととなった。保健委員会が中心となり、児童・教職員全員が折り紙を折ることに参加し、約800枚の折り紙のパーツをつなげて、1本の巨大な「レインボーツリー」を完成させるという共同製作に取り組んだ。

- ①保健委員会で、「廿日市小学校のみんながつながって、笑顔いっぱいの学校をつくっていこう！」を合言葉に活動を進めることを確認し、委員の意欲を高める。【保健委員の児童どうしのつながり】
- ②今回は、1人1人が折った折り紙のこびと（低学年も折りやすい）をつなげて、全校でビッグツリーを作成するプロジェクトに取り組むことに決定する。
(日頃から保健室では、養護教諭による折り紙を用いた活動により、児童の心の安定につなげている。)
- ③保健委員会で、今回使用する折り紙の色を考え、校長先生に相談して、レインボーになるよう21のクラスカラーを決める。【校長先生と児童とのつながり】
- ④プロジェクト名は、保健委員会の児童がアイデアを出し合い、話し合って、「つながろう！レインボーツリー プロジェクト！」に決定。
- ⑤このプロジェクトについて、放送で全校児童にPR。(PR文は児童が考える。)
- ⑥保健委員が朝の会に各クラスに出向いて、折り紙の折り方を教える。顔と名前も書いてもらう。(1年生にも分かるように教えるにはどう説明したらよいかを考え、資料を作成し、何度も練習して本番に備えた。)
【児童どうしのつながり】
- ⑦担任以外の教職員にも、自主的に説明し作成してもらう。【教職員と児童とのつながり】
- ⑧委員会で分担して、折り紙のこびとの数の確認・点検を行い、台紙にテープで貼っていく。
- ⑨台紙の空いているスペースに装飾する。(装飾用の折り紙作成…保健委員以外の児童も協力・参加)
- ⑩終業式後に体育館で、レインボーツリーの披露を行い、全校児童に完成を報告する。(委員長・副委員長が報告する文章を自主的に考えた。)



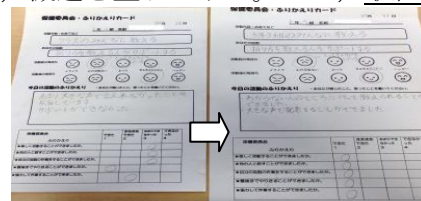
【全校のつながり】

- ⑪保健委員会で取組のふり返しを行う。



取組の課題・創意工夫『キーワード：つながりを広げる』

- ・昨年度、『「みんなの甘小」をもっと魅力ある学校にするための大作戦』の取組を児童と教職員が工夫して進めていった。それを引き継ぐ取組を各委員会で考えた。
- ・委員会で話し合っ取組を進める際、できる限り児童の考えや主体的な活動を尊重した。
- ・この保健委員会主催の取組は、全校での共同製作にすることにより、機運を盛り上げた。また、取組を進める過程で数回、ふり返りを行い、意欲の継続につなげた。
- ・学校に登校できない児童にも主旨を話し、家で折ってもらった。
- ・本校に関わり応援してくださる外部の方々（教育委員会、S C、ゲストティーチャーなど）にも参加していただいた。
- ・完成した作品を児童・教職員一同に披露する場を設定（終業式後）し、学校便り等で広く紹介した。



取組の成果（効果）『キーワード：主体性・自己有用感の向上』

- ・委員会等で児童が積極的に意見を出し合ったり、各学級での説明の仕方を各自で何度も練習したり、全校で披露するときの報告文を自主的に書いてきたりするなど、児童が主体的に活動する場面が多く見られた。
- ・不登校児童や長期欠席児童も参加することができ、全校での取組となった。
- ・台紙の装飾作りでは、保健委員以外の児童も次々手伝うなど、学年を超えて取組の輪が広がった。保健室登校児童も、自主的に参加した。
- ・体育館で作品を披露した時、児童が思わず「わーっあ！！」と歓声をあげ、みんなが笑顔になり、達成感を味わうことができた。体育館から退場するときも、立ち止まって見ていた。
- ・保健委員会で1人1人ふり返り文を書いたが、全員がしっかりと書くことができた。多くの人が力を合わせて完成できたことに対する感謝の気持ちをもった児童も多い。
- ・他の取組とも合わせ、自己有用感が高まった。



H28年度79%→H29年度84%→H30年度91%

私は、このプロジェクトを通してみんながつながれたと思います。

私が廊下を通ると、「お姉さん、こんにちは」と言われることが度々あり、私達保健委員と教えた人達とのつながりができたと思います。私達も、下級生に教えることで、もっと下級生のことを知ることができました。校長先生との関わりも深くなったと思います。また、各クラスに教えに行ったとき、「こうだよ」など、日頃、親しくしていない人に教えている人もいて、クラスの中でも輪が広がったと思います。

台紙に貼る作業の時は、間に合わないのではと思い心配しましたが、いろいろな人が保健室に来て、足の踏み場がなくなるまで人がいっぱい集まったときもありました。私達の取組を分かって協力してくれたのだと思いました。

保健委員1人1人が責任感をもてたのも良かったと思います。完成して、みんなに見てもらったとき、「やっとなんかできた」と思い、本当に多くの人がつながっているんだなと、とても感動しました。

これからも、保健委員のことをもっと知ってもらえるように、委員会活動をがんばりたいです。（5年保健委員）

今後の展開『キーワード：ふり返り・次へつなげる』

- ・「甘笑応援団」（地域支援団体）の方々にも、来校いただいた時に、折り紙のこびとに顔と名前を書いていただき、完成したレインボーツリーにさらにつなげている。今後も、本校を応援してくださる方々がたくさんおられることを児童に実感させることができる。【地域とのつながり】
- ・保健委員会では、心の健康について自分達ができることを今後も考え、次年度につなげる。
- ・他の委員会でも、取組の成果を児童に伝え、今年度の取組のふり返りを丁寧に行い、今後の生活に生かし、次年度につなげるようにする。

他教科との関わり『キーワード：次年度への期待』

- ・5年生は3学期、国語の学習で自分が所属している委員会を4年生に紹介するパンフレットを作成している。5年生児童は、自分達の委員会活動が、全校の役に立っていることを再確認でき、4年生児童は、来年度は自分達の番であり、高学年になる期待と自覚をもつことができると考えられる。

指定校番号	30007		学級活動	○	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	---	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長	谷本 直子	生徒指導主事	中本 智和
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童が主体となった委員会活動を仕組み、自己有用感を育てる』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「課題発見・解決力」	1	「主体性」	3	「自己有用感」	2

取組のねらい『キーワード 児童が主役になる委員会活動で自己有用感を育てる』

各委員会の児童が学校の課題を見付け、それを改善するためのアイデアを出し合い、取組を進めた。児童が主体的に企画運営し、学校や他の児童のためになるような取組の場を設定することで児童の主体性や課題発見・解決力を育みたい。また、児童同士で評価をし合いながら自己有用感を高めたい。

取組の具体的内容『キーワード 児童が考え実践する委員会活動を通してよりよい平良小学校に』

各委員会活動の取組から2つの例を紹介する。

児童運営委員会「トイレのスリッパを揃える取組」

校内の全部のトイレのスリッパがそろい、次の人が使いやすいように考えて行動できる平良っ子になるために、自分達ができることはないかと知恵を絞り行動に移した。スリッパが揃っているかどうか見張るのではなく、トイレから出てくるときに揃えよう！と思えるような言葉を選び、揃えてくれた人に思いを寄せスリッパにメッセージを付けたことが、トイレのスリッパが揃うきっかけにつながった。

「そろったね」「ありがとう」
「うれしいな」などのメッセージ



保健委員会「立腰を進める取組」

どうしたら全校児童の姿勢がよくなるのか、姿勢がよくなるとどんないいことがあるのか児童が中心になって調べた。「字をきれいに書ける。音読の声が大きくなる。背中が鍛えられて疲れが少なくなるので、運動や勉強によい。集中力がアップする。成長にもよい影響がある。」等の事実を掴んだ。さらに、全校児童はどのくらいできているのか実態把握をした。全校児童が立腰を意識できるようにするためには、どんな発表をすると分かりやすいか考え、話し合い、朝会で全校児童に向けて発表した。



他の委員会も同様に、各役割を踏まえた取組を主体的に考え、進めている。

取組の課題・創意工夫『キーワード 児童のアイデアを生かした取組で学校の課題を解決』

【取組の課題】

- ・昨年度までは、委員会活動がどちらかというと教員主導になっていた。児童が主体となって動く経験があまりなかった。そのため、活動が軌道に乗るまでは時間を要した。
- ・児童が主体的に活動に取り組んだ点は良かったが、十分な活動時間を確保することができなかった。休憩時間を使って活動することが多かったので、次年度の計画に役立てたい。

【創意工夫】

- ・委員会の取組を校内に掲示することで、各委員会が取り組んでいることを視覚化し、再認識することができた。下学年の児童は自分たちが何を頑張ればいいのか視覚的にも理解できた。学校教育目標から今年度の重点的な取組、各委員会活動のテーマがつながっていることが分かるように掲示することで、自分たちの取組が学校教育目標を達成するための力になっていることを意識させた。
- ・児童が主体となって、平良小学校をよりよくするためのアイデアを出し委員会活動を進めた。
 - 児童運営委員会 → トイレのスリッパをそろえて出てくれた人に向けて、「そろったね」「ありがとう」「うれしいな」「よろしくね」などのメッセージをスリッパに貼った。左右両方のスリッパを揃え、つなげて読むと、メッセージになるように児童が考え、工夫した。
 - 保健委員会 → 児童のアイデアで「月曜立腰がんばるデー」というキャッチコピーをつくり、月曜日は特に意識してもらえるように放送や掲示をした。「立腰の花を咲かせよう」の掲示物を作り、できていたらシールを貼ることで取組の成果を視覚的にもよく分かるように工夫した。

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感アップ!』

学校評価児童アンケート「委員会活動やふだんの生活の中で人のためになることを進んで行っています」

【5, 6年生児童アンケート結果】 前期 89% → 後期 92%

- ・アンケート結果のように、前期と比べ、「人のためになることを進んで行っている」と答えた児童が3%増えた。取組の成果が出るにつれ、さらに意欲的に取り組む姿が見られ、児童の意識も高まった。
- ・委員会活動で様々な企画を考え、実行している高学年の姿を下学年の児童はしっかり見て学び取り、学級での生活をよりよいものにしていくための工夫を考え、実行することができた。具体例を紹介する。平良っ子ふれあいフェスティバルで、各委員会が全校児童に楽しんでもらいながら平良小を良くするためのコーナーをそれぞれ設けた。その様子から、2年生の児童が学び、生活科のおもちゃランドで、みんなに楽しんでもらうためには何が必要か企画し、高学年が委員会コーナーでやったことを手本にしながら実践し、成功につなげた。



今 後 の 展 開『キーワード お互いに評価し合う・学級でも取組を進める』

- ・お互いの活動を評価し合ったり、下学年の児童から感謝の気持ちを表すメッセージをもらったりすることで、さらに自己有用感を高められるようにする。
- ・各委員会が取り組んだ姿を見て、現在、各学級でも自分たちの学級の課題を出し、児童のアイデアを生かして解決する取組を進めている。



他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 課題発見解決学習』

今年度、各委員会が取り組んだ活動の流れは課題発見解決学習といえる。その取組は、特別活動での各学級の目標に対する課題解決につながり、自分たちの生活改善に結び付けられている。この取組を現在、各教科等の学習で推進している課題発見・解決学習と連動して行うことで、学習面・生活面双方での児童の主体性が育まれていると考えている。

指定校番号	30010		学級活動		児童会活動		クラブ活動	○	学校行事
-------	-------	--	------	--	-------	--	-------	---	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立宮内小学校	校長	佐々木 泰治	生徒指導主事	和田 清穂
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『自己有用感を育てる～子どもが休まない学校づくり～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「表現力」	1	「主体性」	2	「自らへの自信」	3

取組のねらい『キーワード 学校みんなでつながろう』

学校全体で同じ取組を行うことで、子ども同士が友だち、先生とのつながりを感じることができ、安心して学校に通うことができるようにする。

取組の具体的内容『キーワード 1年間を通して』

○異学年交流

- ・運動会（5月）、学習発表会（10月）の練習時にはペア学年（1年生⇔6年生 3年生⇔5年生 2年生⇔4年生）同士で練習を見合う取組を行い、行事終了後にお互いのよかったところ、素晴らしかったところ等を手紙に書き、送り合った。
- ・2年生⇔5年生でペア児童を決め、九九を聞いてもらい、合格したらサインをもらう取組を行った。



○「ほめほめの木」

- ・年間を通して教職員が児童のよかったところ、素敵などころ等をカードに書いて伝えた。
- ・学習発表会後に同学年だけでなく、他学年のよかったところを児童がカードに書いて伝えた。また、保護者にもよびかけ、書いていただいた。

○「命の大切さについて考える日」「いじめ防止月間」

- ・「命の大切さについて考える日」（5月）には、児童朝会で運営委員会児童が全校でのいじめ防止スローガンを掲げ、各学級でのスローガン作りを呼びかけた。
- ・「いじめ防止月間」（12月）には、児童一人一人がいじめをなくすためにできることを考え、カードに宣言を書き、それを全児童が見えるところに掲示し、互いの宣言を知る取組を行った。また、一人一人が宣言に基づいた行動をとるよう運営委員会児童が呼びかけるとともに、お互いにされてうれしいことや感謝したいことを見つけ合いカードに書く「ほめほめ作戦」を行った。



○「6年生を送る会」

- ・6年生を送る会（2月）に向けて「6年生ありがとうの木」を3学期に掲示し、1～5年生児童が6年生にメッセージをカードに書き、掲示し、感謝の気持ちを伝える。

○児童朝会の設定

- ・今年度、児童朝会を月1回行い、各委員会が取組を発表する等、児童の活躍の場を広げるようにした。

○掃除の取組

- ・全校朝会で掃除の仕方を映像を使って全児童で再度確認し、全教職員で見回り指導を行った。掃除終了後に「掃除の神様メッセージカード」を渡し、評価を行っていった。
- ・「だまって掃除週間」を設定し、各掃除場所に掲示されている掃除評価表に毎回掃除担当職員がだまって掃除ができていたらシールを貼り、声かけをするなどして児童の頑張りを評価していった。



取組の課題・創意工夫『キーワード 気づく・気づき合う』

- ・お互いのいいところを伝え合うことで、児童自身が自分のいいところに気づかせるようにした。また、自分が気づいていなかった内面を知ることができるようにした。
- ・「〇〇さんにはこんないいところがあるのだ。」と他の児童が書いたカードからいろいろな人のいいところを見つけることができた。
- ・アセス（学校環境適応感尺度）の非侵害的関係の結果において1学期61から2学期60と少し数値が下がった。児童が安心して登校できる取組を引き続き行っていく必要がある。
- ・今後は児童が主体となっていいところを発信していける取組を行っていく必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感・自己有用感の育み』

「自分にはこんないいところがあるのだ。」「自分はこんなところで役に立っていたのだ。」と児童が気づき、書いてもらってうれしかったと言う児童もいた。児童の自己肯定感・自己有用感を育むことにつながった。

今 後 の 展 開『キーワード 学校全体で評価していく』

取組を行っていく中で「他の学年の先生にほめてもらってうれしかった。」「もっとほめてもらいたいから掃除を頑張る。」という児童の声が聞かれた。「友だちがあなたのいいところを知っているよ。」「宮内小学校にいる全ての先生があなたの頑張りを見ているよ。」と児童に実感させる取組を続けていきたい。

他教科との関わり『キーワード よかったところをその場でほめる』

各授業時間は児童にとって学校生活を送る中で長い時間を占めている。その中で、児童はキラリと光る言葉、行動を見せることも多い。それを見逃さずその場ですかさずほめていく。

指定校番号	30011		学級活動	☐	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	-----------------------	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中南小学校	校長	中坊 京子	生徒指導主事	高田 博之
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『主体性を育む児童会活動の実現を目指して6+3=9 への連携』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「他者理解」	3	「自主性・主体性」	1	「自己理解」	2

取組のねらい『キーワード ～ 小中連携 ～ 』

本校の委員会活動の課題は、児童主体の活動になっていないこと、中学校との連携が図れていないことが挙げられる。そこで今年度は、府中緑ヶ丘中学校区小中連携事業の一貫として、9年間を見通して具体的なゴールを明確にし、委員会活動を活性化させることを通して、児童の自主的・実践的な態度を養う。

取組の具体的内容『キーワード ～ 委員会活動の見直し（合あわせる） ～ 』

① 委員会の改定

中学校入学後の学校生活を円滑にするために、本校の委員会活動と府中緑ヶ丘中学校の委員会活動を合わせた。これまでの「栽培委員会」を「美化委員会」と改名した。また、中学校の風紀委員会の役割を児童会執行部が担うことで、小学校と中学校の委員会活動を揃えた。

② 児童会執行部、各委員会委員長の選考方法の改定

- ・執行部は、これまで各学級から男女1名ずつ計2名の選出であったが、学年選挙で8名を選出することとした。
- ・各委員会の委員長は、5年生の3学期に各委員会児童による話し合いで選出し、次年度の委員長として活動し、6年生進級時にもその委員会の委員長として継続して所属することとした。

③ 組織改編

- ・執行部は委員会の一つとして活動するが、児童会全体を視野に入れ、総括的活動（各委員会のサポート、代表委員会の調整など）をする
- ・委員会総会の位置づけ、各委員長の役割を確立する。

取組の課題・創意工夫『キーワード ～ 活動の見える化 ～ 』

- 課題
- ・委員会同士の連携が弱く、活動状況に差がある。
 - ・5年生への活動内容などの引継ぎが弱く、活動が停滞する。

創意工夫

- ・委員会の活動を1年生から5年生までに知ってもらったり、委員会の横のつながりを強化したりするために、各委員会が「委員会ステップアップ計画書」作成し、日々の活動の様子の写真とともに校内3箇所に掲示した。

取組の成果（効果）『キーワード ～ 見通し ～』

- ・委員会の改定では、中学校と委員会活動を合わせたことにより、児童は中学校進学後の見通しをもつことができ、進学に対する不安を減少させることができた。
- ・選出方法を改定したことで、執行部役員に立候補する機会が大幅に広がった。学年選挙の形式にしたために、児童の思いや願いを反映できるようになった。委員長については、5年生3学期に次年度の見通しをもち、自覚と責任をもって活動できるようになった。来年度、各委員会で活動が円滑に進むものと期待できる。
- ・組織改編については、現在検討中である。
- ・各委員会のステップアップ計画書を策定することで、各委員会の目標や活動内容が明確になり、見通しをもつことができ、活動に対する目的意識が高まった。
- ・活動の様子を全校児童に知らせたことにより、委員会に対する興味・関心が高まった。また、大掃除週間には、執行部と美化委員会が協力して掃除場所を回り、掃除の仕方を教えたり、評価したりするなど新しい動きが生まれ、活性化につながった。

今 後 の 展 開『キーワード ～ 「合」から「繋」「動」「推」へ ～ 』

委員会活動を通して、中学生のリーダーシップのもと「志」につながる小中合同活動を計画し、実施する。

平成31年度 キーワード「繋」

- ・定期的に中学生と話し合う。（児童会執行部と生徒会執行部）
- ・中学生の活動内容を参考にして小学生の活動内容を検討する。

平成32年度 キーワード 「動」

- ・活動の進捗状況、成果と課題について計画的に連携する。
- ・小中の実態や課題を踏まえた取組を計画・実施する。

平成33年度 キーワード「推」

- ・平成32年度の活動を振り返り、発展させる。
- ・これまでの活動の見直しと評価。
- ・今後の構想を練る。



他 教 科 と の 関 わ り『キーワード ～ そして「広」へ ～ 』

委員会活動の活性化や中学生になった時に小学生を巻き込んで活動するような企画力・実践力を発揮するためには、学級活動が基盤となる。各学年の実態に応じて充実した学級活動が実施されると、学年が上がるにつれて自分の所属する学級集団をよりよい集団にしようとする活動が活発になる。そうすることで、視野が広がり学校集団を、地域集団をよりよくしようとする態度を養うことができる。そのような、自主性・主体性が各教科での課題発見、問題解決能力を育むと考える。

指定校番号	30015		学級活動	○	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	---	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立壬生小学校	校長	板倉 寿恵美	生徒指導主事	中藪 隆行
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『児童が主体となる児童会活動の充実』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「想像力」	3	「安全・安心をつくる力」	2	「協働する力」	1

取組のねらい『キーワード 自治的能力の育成』

児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 自分達で解決策を考える』

学校生活の中で課題である部分を提示し、その解決策を児童会活動を中心に、児童による自治的活動で解決していく取組を行った。具体的には、『廊下を走る人が多い』、『廊下や階段の右側通行が徹底されておらず危険』、『無言移動が徹底されていない』、『気持ちのよい挨拶をする児童が少ない』といった課題を解決する方策を考えさせた。

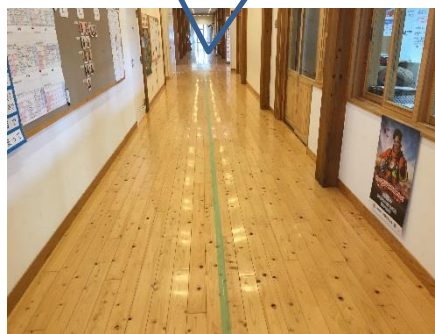
【廊下・階段について】

- 標識を各階の廊下に設置し、注意喚起する。
- 廊下や階段に中央線を設置する。
- 進行方向（右側通行）が分かるような掲示を設置する。



標識は職員が用意し、設置を児童が行いました。

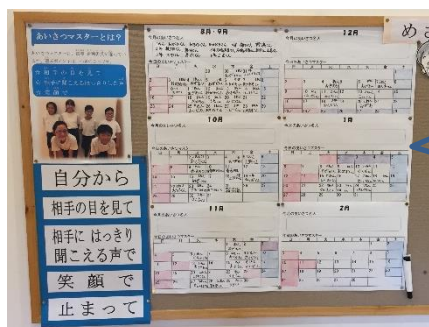
中央線は、休憩時間を使って児童がテープを貼りました。



【挨拶について】

- 毎朝、児童会役員によるあいさつ運動を実施する。
- 毎日1名ずつあいさつのよかった子を児童会役員が選び、『あいさつマスター』として朝の放送で紹介する。紹介した子の学年と名前を職員室前のカレンダーに掲示していく。
- 児童会選出の『あいさつマスター』とは別に、毎月職員が、日々のあいさつの様子をから

『あいさつ名人』を認定し、表彰している。



児童会役員があいさつマスターを選ぶ基準は、「自分から」「相手の目を見て」「相手にはっきり聞こえる声で」「止まって」の4点です。

あいさつマスターに選ばれた児童は、朝の放送で紹介され、カレンダーにも名前を書いてもらいます。全校児童の意欲付けに役立っています。



毎月職員が日々の様子から「あいさつ名人」を選んでいます。選ばれた児童には、あいさつ名人のメダルを贈呈し、メダルを持った顔写真を1ヶ月職員室前に掲示しています。

取組の課題・創意工夫『キーワード：自主的活動と時間の確保』

- ▼ 委員会の時間だけでは話し合いや準備、実施の時間が確保できなかったため、休憩時間を使って活動を進めた。時間の確保や、効率化に課題がある。
- ▼ 見通しを持って計画的に物事を進める力に課題があることが分かった。
- マークや標語など視覚的に訴える方法を考えた。

取組の成果（効果）『キーワード：生活態度の向上』

- ほとんどの児童が、右側通行を意識して生活するようになった。
- 廊下を走る児童が少なくなった。
- あいさつマスターやあいさつ名人に選ばれることが励みになり、気持ちのよい挨拶を日常的にする児童が増えた。
- 地域の登下校見守り隊の方から、子ども達のあいさつがよくなったと評価していただけるようになった。
- 児童会役員の児童から学校をよりよくするための方策を児童から提案を受けることが増えた。（夏休み、冬休みの生活のきまりを手書きからパソコン入力に切り替え、次年度の児童会役員の仕事量の緩和につなげる提案や毎日の一斉下校時に改善を呼びかける内容など）

今後の展開『キーワード 継続とレベルアップ』

- 定期的に意識喚起をしていかないと児童が守ろうとする意欲が低下するため、継続した啓発運動が必要である。今年度は、啓発活動を生徒指導部の職員が主導で行うことが多かったが、徐々に啓発活動も児童会活動の中に位置づけ、児童が主体となって活動する場を増やしていきたい。
- 今年度は、「あいさつ」と「廊下の右側通行」「廊下を走らない」に絞って活動を進めてきた。来年度以降、学校生活の中にある課題を解決していく活動の量や種類を増やし、自治的活動が活発になることで、自分たちの学校がよくなっていく喜びや達成感を味わわせていきたい。

他教科との関わり『キーワード 想像力と多面・多角的な見方、考え方』

- 児童会活動、委員会活動で児童が主体的に活動する場を意図的に増やし、児童が主体となりさまざまな課題を解決していく中で、多様性を認めていくことや柔軟な考えを持つことの大切さを感じる場となった。これは、すべての教科の授業を行う上で必要な受容的な学級風土づくりにつながっていると考えられる。

指定校番号	30019		学級活動	☐ 児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	-----------------------------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保小学校	校長	村上 みどり	生徒指導主事	内田 哲雄
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『児童会活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感的な人間関係の形成」	1	「協調性」	3	「自己肯定感の育成」	2

取組のねらい『キーワード 自他を思いやる心の育成』

全児童が相手意識を持って学校生活を送ることができるようになるために、協力して諸問題を解決しようとする共感的な人間関係を育成する。

取組の具体的内容『キーワード つながり』

よいこと運動

- ・各学級に「よいことカード・よいことボックス」を設置し、児童が、友達のよいこと（されて嬉しかったことや助かったこと）を「よいことカード」に記入し、「よいことボックス」に投函する。
- ・各月の最終週に児童会が「よいことボックス」を回収し、集計する。
- ・集計したカードの中から、全校に知らせたい内容を選び、児童玄関に掲示する。さらに、各学年1枚ずつ、給食放送で紹介する。



よいことカード



児童玄関の掲示



児童会による放送の様子

学級委員会

○代表委員会

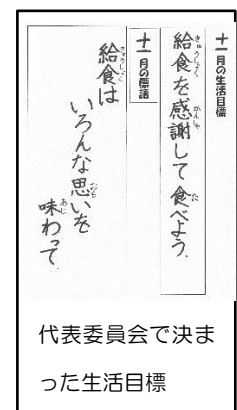
共感的な人間関係の育成をするとともに、児童の主体性、自主性を高めることを目指し、児童会の自治活動や各学年のクラスの話合い活動の充実及び活性化を図るために代表委員会を開く。

(各学年で話し合ってくる内容)

- ・毎月の生活目標を守れたかの反省と次月の生活目標
- ・学校生活の中でよかったと思うことや困っていること
- ・児童会や他の学年にお願いしたいこと（緊急の場合は随時児童会に連絡する）

※事後の取組

- ・児童会だよりを全教職員と各クラスに配布し、教室に掲示しておく。
- ・よかったことや気になっていること、困っていることは、全校集会で話し共有することで、課題に対しての意識化を図る。
- ・児童会から各クラスに連絡したり、啓発ポスターなどを掲示したりして問題解決をしていく。



取組の課題・創意工夫『キーワード 個人差・学級差』

よいこと運動

△積極的に「よいことカード」に記入する児童と、関心のない児童とに分かれている。(学級差)

⇒児童が「よいこと運動」へ意識を向けられるように、各学級、各月の第3週(月～金曜日の間に1回以上)に「よいことカード」に記入する時間を設ける。

学級委員会

△代表委員会で決まった生活目標を意識して生活する児童はいたが、一過性の取組になってしまい、月が変わって生活目標が変わると、再びできなくなってしまう傾向があった。

⇒機会がある毎に、各学級担任から、学校生活の中でできていることとできていないことを振り返る時間を設ける。場合によっては、全校集会で、生徒指導主事から生活の様子について指導する。

取組の成果(効果)『キーワード 共感的な人間関係の育成』

よいこと運動

○「よいことカード」に記入する機会を設けることで、友達のよいところを見つけ、認め合う姿が見られるようになってきた。

○児童玄関にある掲示板に目を向け、自分や友達のメッセージを探したり、「ぼくも載せてほしい。」と話したりする児童が増えてきた。

学級委員会

○学級代表や児童会役員が、責任を持って代表委員会に参加し、意見を出し合うことができていた。

○クラスによっては、学級代表が学級会の司会者になり、クラスの意見をまとめる姿が見られた。また、代表委員会で決定したことや全体に周知したいこと等を、クラスに伝える姿も見られた。

今 後 の 展 開『キーワード 活性化』

よいこと運動

・「よいこと運動」を来年度も継続する予定。その際、マンネリ化を防ぐために、「カードの種類を変える」「よいことを紹介する放送回数を増やす」「全校集会などよいことを紹介する場を増やす」「道徳や特別活動全体を通して、カードへ記入する機会を増やす」等の取組を行っていく。

学級委員会

・定期的に行われる代表委員会だけではなく、臨時に代表委員会を開くことができることを全体に周知することで、子供達で学校のルールを創っていける雰囲気づくりをする。

他教科との関わり『キーワード 一般化』

・「特別の教科道徳」や「学級活動」のソーシャルスキルトレーニング等を利用して、よいことカードの紹介をしたり、書く活動を仕組んだりする。教師や児童が肯定的に評価することで、共感的な人間関係を育てるとともに、自己肯定感を高められるようにする。

・よいことカードを書くことが目的になるのではなく、最終的には、自然とよいことができるように、学校生活の中で、肯定的な評価をする等して、日常化を図る。

指定校番号	30022		学級活動	○	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	---	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立向島中央小学校	校長	本藤 展康	生徒指導主事	上野 貴司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名『感謝を形に 感動を共に』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性」	1	「自己理解・共感力」	2
取組のねらい『キーワード 新校舎への感謝』					
清掃活動に無言で隅々までを意識して取り組むことを通して、新校舎（4年目）で学習できることや支えてくださる多くの方々への感謝の心を育てる。					
取組の具体的内容『キーワード 無言で隅々ピカピカクリーン』					
【ピカピカクリーン活動】 ・毎月第2週（月曜日～金曜日）を基本とした5日間の掃除時間を、ピカピカクリーン活動週間とする。 ・「無言で・隅々まで」掃除ができているかどうか、振り返りの視点に沿って教師評価とグループ評価を行う。よく頑張っているグループにはシールを渡す。 ・よくできていたグループを全校集会で表彰（「感謝を形に」ありがとう）する。					
					
【生活委員会による呼びかけ】 ・生活委員会が丁寧な掃除の仕方について、学期に1回全校集会で発表した。掃除時間の課題を自分達で見付け、掃除の模範を具体的に示したり、クイズや劇にしたりしてあるべき姿を考えさせたりした。					
 雑巾をジグザグに動かして、後ろに進みながら拭き取ります。		 先生に見られていなくても、無言で掃除に取り組みましょう。			
【保護者と一緒に活動】 ・8月にPTA環境整備作業を行った。高学年児童も参加して普段できにくい箇所の掃除に取り組んだ。 ・自分達の住む地域を大切にしようとする態度を養うため、10月に地域清掃活動を実施した。					
（児童の感想） きれいになって気持ちもすっきりした。 地域の人から、「ありがとう」と言われてうれしかった。		 			

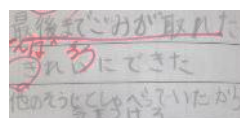
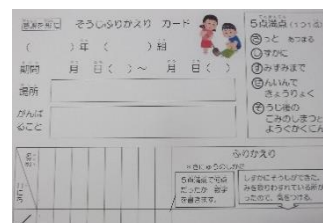
取組の課題・創意工夫『キーワード 異学年とのかかわり』

・学級で掃除分担しているため異学年とのかかわりが薄いことが課題である。高学年が下学年の掃除場所に入って一緒に掃除を行う機会を設けるなど活動を工夫することで、高学年をお手本に、学年に応じた役割の自覚や学年を超えた仲間意識の醸成につなげていく必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード 見える化による意欲向上』

・児童の頑張りの過程をグラフで「見える化」したり、全校で統一した振り返りカードを活用し、自己評価やグループ評価の充実を図ったりすることで、「自分達できれいにしていこう」とする意欲向上につながった。

・ピカピカクリーン活動期間中だけでなく、日常的に無言掃除に取り組む姿となって表れてきている。



児童自己評価

無言で隅々まで掃除に取り組んでいる。	9月	1月
	76.3%	83.4%



今後の展開『キーワード 広げよう 環境美化の輪』

・始業前や放課後に、自主的に児童玄関を掃いたり、落ち葉集めを行ったりしている高学年児童がいる。保護者、地域の方にも気持ちよく来校していただきたいという思いで、進んで環境美化に努めている。そのような姿が、人に感動を与え、みんなのために役立ったという満足感や充実感つながっていくことを実感させ、主体的に掃除に取り組もうとする児童の輪を広げていく。



他教科との関わり『キーワード 清掃の意義の理解 自己肯定感の向上』

・道徳科や特別活動の時間に「感謝」「勤労」「公共の精神」や「協力」「思いやり」などの価値項目と関連付けて、日常の清掃活動の意義を自分なりに見出させ、自己肯定感の向上を図っていく。

指定校番号	30023	学級活動	○	児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---	-------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南小学校	校長	宇根本 久志	生徒指導主事	兼田 和佳
-----	------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『静と動を思考する児童の育成～児童会活動を通して～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・積極性」	3	「課題発見・課題力」	1

取組のねらい『課題解決システムの充実と高学年のリーダーシップ』

- ・児童会が主体的に問題を吸い上げ、それに取り組み解決するシステムを充実させる。
- ・高学年のリーダー性を育て、それを下級生に伝えるなかで自校の校風の一つとする。

取組の具体的内容『話し合いの充実～問題解決の方向性や解決方法の明確化～』

○学校教育目標「人間力を高める因島南小教育～静と動の融合が生み出す学びの充実～」

→教職員：自己評価とリンク，具現化を目指す 児童会：区別を付けることができる学校（公約）

○児童会の取組：「移動の5段階のレベル」の取組

①児童会が5段階のレベルを設定（前年度の成果と課題の分析を通して）



- ・レベル1：「声の大きさ2以下」（授業中に班で話し合いをするぐらいの声の大きさ）
- ・レベル2：「声の大きさ1以下」（授業中になりの人と話をしている声の大きさ）
- ・レベル3：「無言」（だれとも話をしない）
- ・レベル4：「足音無し」（話をしないことに加えて，足音も立てない）
- ・レベル5：「無音で右側通行」（話もせず，足音も立てず，右側を歩く）



②解決に向けての話し合い→解決方法の決定→実践

- ・代表委員会を通して取組の意義，目的及び取組方法の周知（共通理解，知識の習得）
- ・日常の授業で（グループ討議，ペアトーク等）獲得・習得した技能を活用し，行動様式を身に付ける。

【代表委員会での様子】

【解決方法の決定：各学級】



取組の意義：「移動中は他の学級の邪魔をしない」，「静かに掃除をする」→

「時や場を判断して行動する」

（○○だから○○すると思える児童）

解決方法の決定：統一した協議用シートを活用，学級会のスタイルを全学級で統一し話し合い活動を展開

【行動様式を身に付ける工夫：習得した技能の活用】

〈レベル1・2の習得〉

〈時を判断①：毎時間の黙想〉

〈時を判断②：凜とした互礼〉



グループトークでレベル1を
ペアトークでレベル2を体感

授業毎に黙想をし、集中すべき
時を体感

凜とした互礼で授業を始め
同様に終える。(授業での行動様式)

【決めたことの実践】

【振 り 返 り】



本部役員の取組



各学級の取組



ボランティアの出現

※合意形成を図る
※課題解決に向かう力
※協働する力



〈児童朝会で学期の取組を振り返る〉
※現時点の実態を共通認識
※成果と課題を共通認識し、新たな
課題の発見に繋げる。
→本質的な問題の解決、次の課題へ

取組の課題・創意工夫『行動様式のイメージを持たす』

- ・児童はレベル1（声のものさし2以下）と言われても、イメージは湧かない。日常の授業（グループ討議、ペアトーク等）で徹底させることにより獲得・習得できた技能（黙想や凜とした互礼の中で時や場によって区別を付ける力）を活用し、行動様式をイメージ化させたことは取組に有効的に作用した。
- ・課題意識を明確に持たせる工夫として、①実態を把握させること②それを改善させることの意義を自分との関わりの中で整理させることを全学級で取り組んだ。そうすることにより、話し合い活動が活発化した。

取組の成果（効果）『定期的な振り返り～結果の分析と新たな問題提起～』

- ・児童と課題を共有し、実行のための計画（方策の思考）、振り返りを意識付けることを大切にした。このことは児童の主体性をより高めていくことに繋がった。
- ・児童会の取組として、月間生活目標としても取り上げた。各学級は実践や取組を定期的に振り返ることにより意識を高めた。その結果、ボランティアが主体的に活動し、課題解決に向かう機運が高まった。

今 後 の 展 開『合意の形成の工夫』

- ・議題に対して協議する場面では、賛成や反対意見を出し合い懸命に協議する態度は観られるようになったが、納得がいけない児童がいた時にどのように折り合いを付けて、合意を形成していくのか明確にする必要がある。

他 教 科 と の 関 わ り『学んだ知識や技能の活用し、問題を解決』

- ・体験したことや国語科及び道徳科の時間に深めた価値を基に自分の意見や考えを発信することで話し合い活動の充実が図られた。SSTを意図的、計画的に実施することで人間関係形成能力が向上した。

指定校番号	30024		学級活動	☐ 児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	-----------------------------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	長手 麻美	生徒指導主事	吉羽 芳晴
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『花咲山・あんたが大賞』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「相互理解」	2	「主体性・積極性」	3	「自己肯定感の向上」	1

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の向上』

児童会執行部が中心となり、うれしかった言葉や行為を朝会で紹介したり、児童玄関に掲示したりすることを通して自己指導能力を高める。

また、教師が児童の素晴らしい行動を評価し、掲示することで児童の自己肯定感を高める。

取組の具体的内容

『花咲山』

①校内に箱を設置し、用紙に、嬉しかったこと、ありがとう
言いたいことを書いて入れる。

②入れてもらった手紙の中から、児童会が朝会で紹介する。



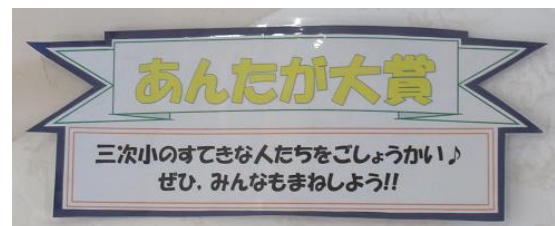
③紹介したものを、児童玄関に掲示してある模造紙に貼っていく。

『あんたが大賞』

①校内で好ましい行動をしている児童の姿を教師が
写真に撮る。

②『あんたが大賞』という賞状を作成し、掲示する。

③1学期間掲示後、その児童に渡したり、教室に掲示したり
する。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 機会の増大』

『花咲山』

- 気軽に投書ができ、他学年の児童に対しても「ありがとう。」と気持ちを伝えることができた。
→自分の知っている人に手紙を贈ることが多いので、知らない人の行動にも目を向けて、
より広い見方で手紙を書けたらよかった。

『あんたが大賞』

- 児童に対する肯定的評価の機会を増やすことができ、より多くの児童を取り上げることができた。
目立たない行動等も取り上げ、児童に周知することができた。
→教師主体で行っているが、児童会等で児童主体で取り組めるようにシフトしていきたい。

取組の成果（効果）『キーワード 児童の相互評価』

- 児童がお互いの行動に目を向けることで、児童が相互に評価することができた。また、他学年からの手紙があり、何気ない行動を評価してもらえることで、自己肯定感を高めることができた。

また、全校朝会で読まれたときにその児童が注目され、他の児童から称賛されたり、掲示物の前を通りかかった時に、児童が注目することで話題に上がったりすることで、他の児童が読まれた児童の行動をまねていく姿が見られた。

今 後 の 展 開『キーワード 明るい学校に向けて』

- 学校の雰囲気をよくすることがとても大切だと考える。
今後も、よい言葉や行為をクラスや学校で伝えていくことや、名札やスリッパのチェックなど全校で行う取組を設定し、児童相互や教師からほめられること、認められる肯定的評価を増やしていくことで気持ちよく生活できる学校をつくっていきたい。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 学校全体での意識化』

道徳科：内容項目『感謝』『集団生活の充実』『よりよく生きる喜び』等と関連。

導入段階で日常の生活との関連を取り上げるとともに、授業後に道徳科で学んだことを実践できるように意識した指導を行う。



教師も普段から児童の望ましい姿を意識して、指導できる。
学校生活全体を通して、道徳的指導を意識的に行える。

取組の課題・創意工夫『キーワード 教師の関わり方』

【創意工夫】

- 委員会活動発足時は教師が積極的に関わり、委員会活動の目的を説明したり児童がどんなことをやりたいのか引き出したりする。
- 児童が何か取組を考える際、できることとできないことの条件（期間、場所、使えるもの等）をあらかじめ教師が伝えておく。

【課題】

- 様々な取組を開始した当初は委員会担当の児童も低・中学年の児童も共に意欲的ではあるものの、時間が経つにつれてマンネリ化していき、意欲が薄れてしまった。その結果、教師主導で取組を進めてしまうことがあった。
- 「何か新しい取組をしたい」「みんなの興味を引くことをしたい」など方法論に走ってしまい、「どんな学校にしたいのか」「何のためにするのか」という取組の目的がブレてしまうことがあった。

取組の成果（効果）『キーワード 児童の意欲向上』

- 児童同士で話し合いを重ね、合意形成を図って取組を実践することができた。
- 児童会活動で取り組んだことを表彰したことで、児童の自己肯定感が高まった。
学校評価に関わる保護者アンケート
「わが子は楽しい学校生活を送っている」 7月 93% → 12月 94%
- 月目標を具体的な姿で示したことで、教師も児童も何を重点的に取り組めばよいのか明確になり、達成率を上げることができた。 月目標達成率 1学期…81.6% → 2学期…87%

今 後 の 展 開『キーワード 児童主体でも道筋は教師が』

今後も児童主体で児童会活動の取組を進めていくが、全て児童に丸投げするのではなく、常に教師が活動のねらいを確認しながら道筋を示していく。

他教科との関わり『キーワード 相互作用』

主体的に児童会活動に取り組むことを通して、児童会活動で経験したことが日々の学級生活に生かされ、学級や学校の生活をより一層充実したものにすることができる。また、学級活動や国語科等での話し合い活動を通して育成した力を、児童会活動での話し合いの場で生かすこともできる。

指定校番号	30026		学級活動	○	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	---	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長	西田 早苗	生徒指導主事	坂田 雅則
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童会執行委員会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共に学びをつなげる力」	3	「課題を見つけ、追究する力」	1	「学びへの自信」	2

取組のねらい『キーワード 主体的』

児童会執行部と各委員会の委員長が庄原小学校の気になることについて共有し合い、それぞれの委員会でどんな取組ができるのか協議する時間を設ける（児童会執行委員会）ことで、委員会活動をより児童の主体的な取組にさせる。

取組の具体的内容『キーワード 課題追究』

年度初め、児童会執行部の6人が、「あたり前のことをあたり前に行い、みんなが安心して過ごせる学校にしよう」という年間児童会目標を考えた。そこで、今までの生活アンケートの項目を見直し、学校生活において児童があたり前にできるようになってほしいと思うことを10項目選び、児童の自己評価の変容を指導に生かしていこうと考えた。

児童会目標の達成に向けた取組の1つとして、委員会活動前日の昼休憩に、児童会執行部の6名と各委員会の委員長6名が集まり、児童会執行委員会を実施することにした。児童主体の取組となるよう、児童会執行部が司会を務めている。

年間児童会目標、月の児童会目標、学校生活で気になっていること等を確認した後、各委員長は「常時活動」と「今月新たに取り組んでいきたいこと」をワークシートに記入する。記入後、順に「今月新たに取り組んでいきたいこと」を発表していく。児童会執行委員は、それぞれの発表に対して質問をしたり、アドバイスをしたりすることで取組内容を練り合っていく。各委員長は、児童会執行委員会で考えた新たな取組を翌日の委員会活動で提案している。

第7回児童会執行委員会

児童会目標
「あたり前のことを、あたり前に行い、みんなが安心して、学校生活を送れるようにしよう」

1月の児童会目標
「安全に気をつけて、落ちついた生活をしよう」
◎ろう下・階段を歩く ◎スロープを歩く
◎教室やろう下では、落ちついた行動をする

気になること
「
「

	常時活動	1月に取り組んでみたいこと
執行部		
放送		
保健・体育		
美化		
給食		
図書		
環境		

ワークシート

取組の課題・創意工夫『キーワード 比較』

見通しをもった助言・指導ができるように、児童会執行委員が考えた新しい取組は、事前に各委員会の担当先生方に伝えておくようにした。

一人一人が児童会の一員であることを意識させるために、生活アンケートの結果は、全校朝会時に児童会執行部が全校に紹介するようにした。3学期の始めには、1学期の終わりと2学期の終わりの数値の変容を紹介した。数値を比較させることで、一人一人が学校の課題について考えることができた。

**あたり前のことを
あたり前に行い、
みんなが安心して
すごせる学校に
しよう。**

7. ろうかや階段を
歩いている
あてはまる
46% → 53%

1月の児童会目標
**安全に気をつけて、
落ちついた生活をしよう**
◎ろう下・かいだんを歩く
◎スロープを歩く
◎教室やろう下では、落ちついた行動をする

全校朝会での発表資料の一部

取組の成果（効果）『キーワード 自信』

以前までは、担当の先生が主導で委員会活動を行ったり、委員長や副委員長がすぐに先生を頼ったりすることが多かったが、児童会執行委員会を行うことで、児童主体の取組になってきた。また、取組が主体的になってきたことで、高学年のきまりを守る意識が向上し、下級生の手本となる行動をとれる児童が増えてきた。

先生に言われてするのではなく、学校の課題をもとに自分たちで新たな取組を考え実践しているので、責任感をもって活動する児童が増えた。また、全校朝会等で取組を紹介したり、取り組んだ結果、生活アンケートの数値が向上したりしたことで、大きな自信をもつようになった児童も多い。

【1，2学期に行った生活アンケートの結果】

4段階評定

【4 あてはまる 3 どちらかというにあてはまる 2 どちらかというにあてはまらない 1 あてはまらない】

4の【あてはまる】を選択した児童の割合

生活アンケートの項目	7月	12月	増減
レベル3以上のあいさつをしている。	44%	55%	11
髪型や服装が整っている。	75%	78%	3
チャイムの合図を守っている。	58%	68%	10
レベル2以上のそうじをしている。	59%	43%	▲16
静かに朝読書をしている。	72%	70%	▲2
給食準備中静かに読書をしている。	54%	61%	7
ろうかや階段を歩いている。	46%	53%	7
グラウンドに行く途中のスロープを歩いている。	55%	81%	26
下校時静かに体育館前に並んでいる。	54%	57%	3
悪ふざけや面白半分で友達を傷つけないように気をつけている。	77%	88%	11

今 後 の 展 開『キーワード 意識 学びをつなげる』

児童会活動に対する高学年児童の意識，児童会の一員としての下級生の意識，先生方の意識。この3つの意識が変化したことによって，より自治的で主体的な児童会活動になってきている。この意識の変化が下級生に受け継がれ，庄原小学校の伝統となるよう，新児童会役員認証式や児童総会のもち方も工夫していく。

他教科との関わり『キーワード 第6学年国語科 話す・聞く』

単元名「問題を解決するために話し合おう」

ねらい「自分の意見を的確に伝え，相手の発言の意図を考えながら話し合うことができる。」

単元名「場面に応じた言葉を使おう」

ねらい「相手や場面に応じた言葉遣いを理解し，適した言葉を選んで使うことができる。」

指定校番号	30029	○	学級活動		生徒会活動		学校行事	別紙様式
-------	-------	---	------	--	-------	--	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東朋中学校	校長	胃甲 登	生徒指導主事	山手 寄喜宏
-----	-----------	----	------	--------	--------

取組事例名 『ともに学び高め合おうとする集団づくり』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・チャレンジ精神」	3	「課題発見・解決能力」	1

取組のねらい『キーワード 安心・安全な学校生活へ』

平成29年度の東朋中学校は3年生を中心に落ち着きがなく、授業中の私語や徘徊、消火栓や防火シャッターへのいたずら、器物破損などの問題行動が多発した。発達上の課題のある生徒が繰り返し問題行動を起こし、対応に苦慮することもあった。その結果、安心して登校できない生徒が増えるだけでなく、生徒アンケート（平成29年度12月実施）では、「学校行事や生徒会活動で、仲間と一緒に頑張って充実するようにしています」に肯定的に回答した生徒は66.7%、「自分には良いところがある」は79.4%となっており、生徒が仲間との関わりを大切にしながら学校生活を送れていない状況であった。

これらのことから、対話を通して互いを理解し合い、自ら課題に気づき、解決するための方策を考え行動することができる生徒集団の育成を図ることをねらいとして、学活の充実を図る取組を行うこととした。

平成29年度の状況					
	第1学年	第2学年	第3学年	合計	前年比
暴力行為発生件数（件）	1	0	2	3	±0
いじめ認知件数（件）	0	3	6	9	-2
不登校生徒数（人）	4	2	11	17	-1

取組の具体的内容『キーワード 課題発見・解決の場』

学活では、生徒が係活動や委員会活動を通して、学校生活の気づきを報告した。この報告をもとに、クラスの全員が課題を意識し、解決策を考えることができた。また、学活を生活改善の場として位置付け、意見を交流することを充実させることで、生徒は1日の生活のポイントとして学活を重要視するようになった。

さらに、4月の体育大会で結成した縦割り集団を活用し、他学年の学活を参観、意見交流を行った。異年齢間の意見交流は、より充実した学活の在り方について考える機会となっただけでなく、コミュニケーション能力を高めることにもつながった。

生徒会の各種委員会の新しい企画について各学級で議論を行うことにより、生徒会活動も活発になるという相乗効果が生まれた。

取組の課題・創意工夫『キーワード 交流』

生徒が学校生活を送るうえで重要なポイントとして学活を意識し、学活の質が向上するように、学年間の学活交流会を2回実施した。

【第1回 3年生の学活公開】

年度当初に3年生が学活を公開し、1年生全員が参観した。

1年生は3年生の学活から学んだことを発表した。

公開後、各学級では学活を活性化させるための方策について話し



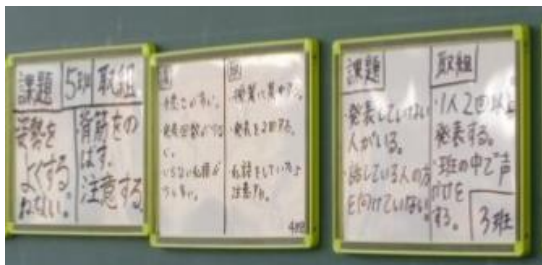
合い、目標を立てた。

【第2回 1年生の学活公開】

2学期に1年生が学活を公開し、2年生全員が参観した。

2年生は交流の仕方、伝え方などのポイントを助言した。

また、学活公開後、Q-Uアンケートの結果を活用して、学級集団づくりと特別支援教育の考え方を踏まえた生徒とのかかわりについて、職員研修を行った。



取組の成果（効果）『キーワード 主体的な活動』

暴力行為発生件数が今年度12月末現在で0件である等、問題行動は減少している。

生徒アンケート「学校行事や生徒会活動で、仲間と一緒に頑張って充実するようにしています」に肯定的に回答した生徒は、前年度66.7%から90.7%に増加した。

学活を、教師主導の取組から生徒を主体とした取組に転換したことにより、生徒の声が学級活動、学校行事に反映されやすくなり、多くの生徒が安心して学校生活を送り、充実した活動を行っていると感じている。



生徒アンケートの肯定的回答（%）			
質問項目	平成29年12月	平成30年7月	平成30年度12月
学校行事や生徒会活動で、仲間と一緒に頑張って充実するようにしています。	66.7	89.0	90.7

今後の展開『キーワード 自己有用感』

学活における意見の交流は行われているが、生徒一人一人の考えが十分深まっているとは言えない。特に、肯定的な意見の交流が少なく、生徒アンケート「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います」に肯定的に回答した生徒は76.1%にとどまっている。

また、今年度12月末現在で1、2年のいじめ認知件数は6件、不登校生徒は10名となっている。その理由として、「人の話がよくわからない、伝えられない」、「違う小学校出身の生徒との対人関係がうまくできない」ことがあげられており。今後は、校区内の小学校と連携しながら、他者との関わりを通して互いの違いや特性を理解する場をさらに充実させる必要があると考える。

平成30年度の状況 ※12月末					
	第1学年	第2学年	第3学年	合計	前年差
暴力行為発生件数（件）	0	0	0	0	-3
いじめ認知件数（件）	5	1	3	9	±0
不登校生徒数（人）	6	4	4	14	-3

他教科との関わり『キーワード コミュニケーション能力』

全ての教科で、学んだことや考えたことを相手にわかりやすい表現で伝える活動や、相手の考えを丁寧に受け止めながら自分の考えも深めていく活動を仕組む。

各教科等での活動を通して気付いたお互いの良さを学活で交流することで、お互いの違いを認め合える集団にしていく。

指定校番号	30032	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長	小田 大介	生徒指導主事	井手 正典
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『いのち輝く学校をめざす生徒会活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・積極性」	1	「自己理解・自らへの自信」	3

取組のねらい『自治的能力』

○よりよい学校生活を主体的に築くための話し合い活動や集団への寄与など自主的能力の育成を重視する。

取組の具体的内容『当たり前のことを当たり前に』

○UNITYプロジェクト…委員会活動や日頃当たり前でなければならないことについて6つの委員会で取り組み、日頃が充実するクラスを表彰する。

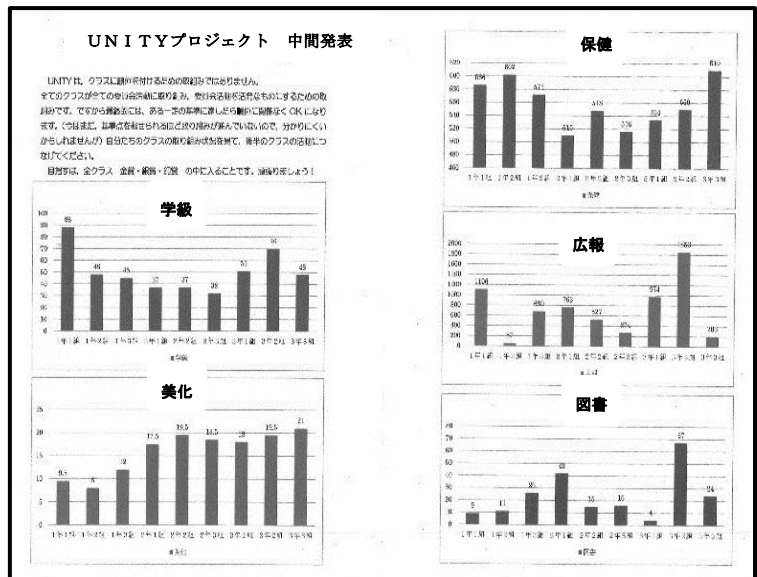
○「ヤリキリ清掃+α」「イチガン挨拶」…7年前から始まり、今では大竹中学校の代名詞になった2つの取組である。教師は素晴らしい取組をしている生徒にシールを渡し、生徒は配付された台紙に貼る。生徒は台紙がいっぱいになったら、次の色のカードがもらえ、3色のカードがいっぱいになったら、イチガン、ヤリキリバッチがもらえる。さらに、3色のカードがいっぱいになったら、プライドバッチがもらえる。



取組の課題・創意工夫『クラス間、委員間の温度差があるので、委員も表彰』

○5年前から始まった「UNITYプロジェクト」だが、学年や学級によって取組に差があり、委員の活動にもばらつきがあるので、中間報告を行い、クラスの状況を周知し、後半の取組に生かした。また、優秀な委員を評価し、表彰することで、委員の意識を高めた。

○大竹中の伝統の「清掃」「挨拶」を一人ひとりが高い意識を持って引き継いでいくために、生徒会が具体的な基準を示し取り組んだ。また、挨拶に関しては個人表彰も行った。



取組の成果（効果）『生徒たちの肯定的評価で検証』

- 「UNITYプロジェクト（生徒会各委員会）を頑張っている。」
「よくあてはまる」63.7% 「ややあてはまる」29.8% 「肯定的評価」93.5%
- 「私は掃除を頑張っている。」
「よくあてはまる」80.9% 「ややあてはまる」16.0% 「肯定的評価」96.9%
- 「私は、あいさつがしっかりできる」
「よくあてはまる」50.7% 「ややあてはまる」40.0% 「肯定的評価」90.7%

今 後 の 展 開『「よくあてはまる」が80%以上』

- どの取組も「肯定的評価」は90%をこえているが、「よくあてはまる」（最も高い評価）を選んだ生徒の割合は清掃のみが目標を達成した。学年や学級によっても取組に差があった。今後、さらに質の高い取組になるよう委員会を中心に考え取組ませ、「主体性・積極性」を育成する。
- 小中連携や縦割り活動をさらに充実させることで、新入生にもこれまでの本校の取組を伝え、「コミュニケーション能力」を育成する。
- 教職員が変わっても活動が継承される様に組織的に取り組み、教職員一人ひとりが適時的確に評価することで、生徒たちの「自己理解」を深め、「自らへの自信」を持たせる。

他 教 科 と の 関 わ り『つながり』

- 生徒会活動を通して身に付けた「主体性・積極性」が各教科・領域で学習意欲につながり、「自らの自信」となっている。各学級の委員は、委員会の目標を達成するために、クラスメイトに呼びかけ、関わる中でコミュニケーション能力を高めている。また、それが各教科のグループ活動等で生かされている。

指定校番号	30035		学級活動	○	生徒会活動		学校行事	別紙様式
-------	-------	--	------	---	-------	--	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立七尾中学校	校長	藤井 哲也	生徒指導主事	渡邊 悦久
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『あいさつ運動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「主体性・積極性」	2	「自己理解・自らの自信」	3

取組のねらい『キーワード 自主性』

生徒会の学級委員会で自分たちの挨拶の課題を解決するために後述するこれらをねらって主体的に取り組んでいる。

- ・あいさつの活性化を目指すため。
 - ・正しい挨拶とは何か、目指す挨拶の姿とは何か、理解してもらうために実施する。
 - ・目指す挨拶の姿①～⑥を達成するために行う。
- 〈①笑顔で②大きな声で③元気よく④語尾を延ばさずはっきりと⑤立ち止まって⑥会釈をして〉

取組の具体的内容『キーワード 全員で 』

生徒会の学級委員会で取り組み内容の把握し学級への情報提供をする。

日 程：5月6月1年生，9月10月3年生，11月12月2年生

場 所：体育館前等 1回の人数：20人程度 時間：7：45～8：10（15分間）

参加者：全学年（学級単位で実施し各学級出席番号の前後で2日に渡って実施する）

あくまでもボランティアですが，学級ごとに呼びかけをして実施する。

取組の課題・創意工夫『キーワード 当たり前のことを当たり前以上に』

平成30年度の1学期の学校評価アンケートでは，95.5%と生徒の自己評価は高いが，教職員の生徒の挨拶に対する評価は，63.1%と教職員の評価と差がある。そのため，本校の学校経営方針の七つの宣言に含まれる「当たり前のことを当たり前以上に」を徹底して行うために生徒会から提案して実施した。

取組の成果（効果）『キーワード 正しい挨拶の定着』

取組後アンケート調査を実施し，後述のとおりとなった。「正しい，目指すべき挨拶の姿が分かった」肯定的な評価をした生徒95.5%「また参加したい」肯定的な評価をした生徒88.6%と今回の挨拶運動が一定程度の成果を上げたといえる。今後，教職員の評価を実施し生徒と教職員の評価の差が縮まることを期待する。（2月実施）

今後の展開『キーワード 七尾中ABC』

七尾中ABCとは，「当たり前のことをびっくりするくらいちゃんとする」です。生徒自身が挨拶の重要性を理解し，グローバル化社会でも通用する挨拶を身に付けるためにコミュニケーションの基本である挨拶ができるよう生徒会執行部の力を活用して自ら取組みを強化していきたい。

他教科との関わり『キーワード 学校生活，教科を横断した取組』

挨拶は、道徳の価値項目でも、1-(1),(5) 2-(1),(2) 3-(2),(3),(4)等と関連があり多岐にわたっている。また、社会（学校）生活を送る上でも相手と関わる力が必要であり、高等学校では就職活動をする上でも重要視されている。そのため、授業の挨拶，生徒間の挨拶，異年齢の挨拶，教員への挨拶や様々な場面で適切な挨拶ができるよう全ての教科で授業規律の一つとして指導を行っている。

指定校番号	30038		学級活動	○	生徒会活動		学校行事	別紙様式
-------	-------	--	------	---	-------	--	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立野坂中学校	校長	井村 誠治	生徒指導主事	才野 力
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『NOSAKA 運動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性」	2	「自己有用感」	1

取組のねらい『NOSAKA 運動』

「N」…仲間を「O」…思いやろう「S」…支えあおう「A」…相手に言おう「K」…感謝の気持ちを「A」…ありがとう というスローガンの下、各委員会で様々な取り組みを行ってきた。

取組の具体的内容『チャレンジクラスマッチ』

「チャレンジクラスマッチ」と題し、委員会の取組を各クラス単位で競い評価していく。
学級委員会…「グリーティングカード（あいさつ）」、保健体育委員会…「ハンカチ・水筒チェック」
美化委員会…「教室整備」、文化委員会…「給食中の放送による学校クイズ」、図書委員会…「朝読書チェック」、給食委員会…「配膳チェック」

取組の課題・創意工夫『外発的動機付けから内発的動機付け』

「チャレンジクラスマッチ」の期間は、生徒も意識をして取組むことができるが、取組が終わると意識が低下する傾向がある。基本的な習慣を身につける為の外発的動機付けは必要であるが、そこから道徳的価値感を高め、内発的動機付けに移行するための取組みの工夫が必要である。

取組の成果（効果）『めざす生徒像を意識したはたらきかけ』

今年で「NOSAKA 運動」も3年目になるが、「学習や体験を通して互いに学びあう生徒像」が、定着してきたように感じる。期間限定の感は否めないが、生徒は素直に取組み、意欲を持って頑張っていた。これからは、この「NOSAKA 運動」を進化させていく必要があると感じる。その為には教員が「めざす生徒像」を意識した取組を意図的・計画的に実行していく必要がある。

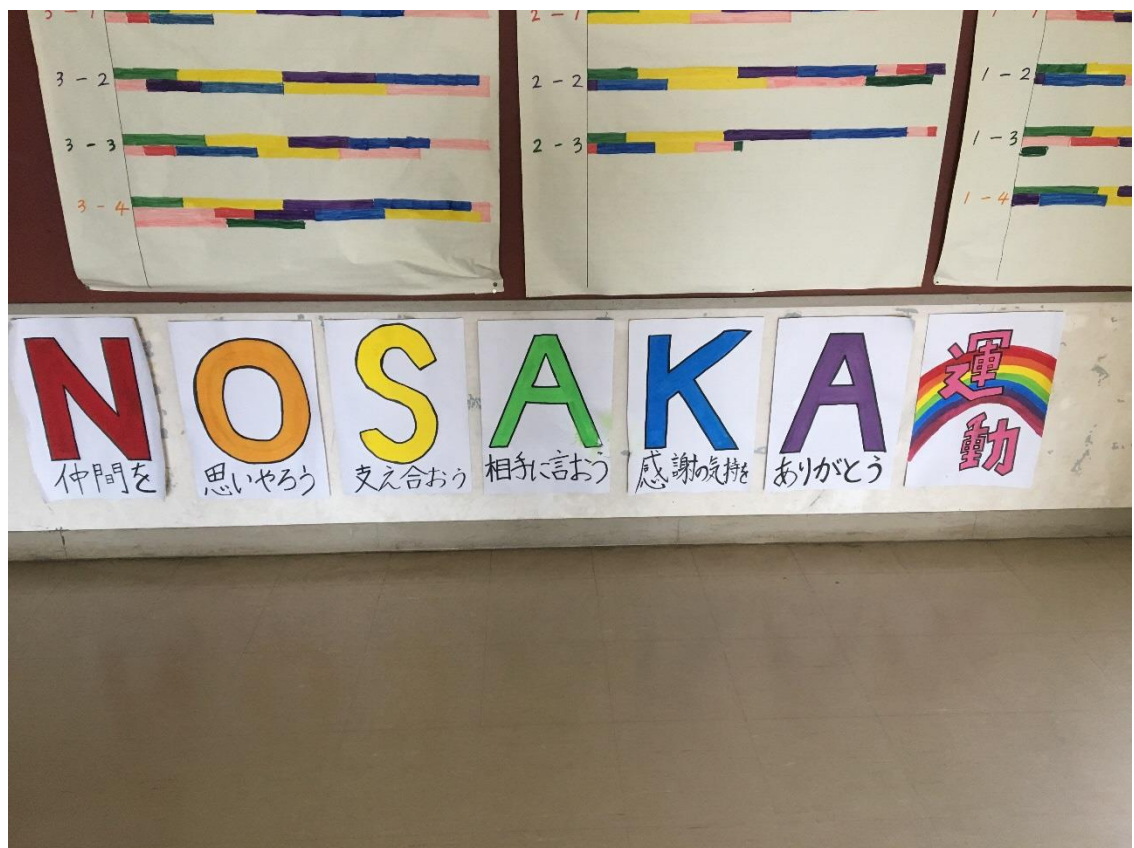
今後の展開『縦割り活動』

今まで体育大会や文化祭などの行事の中でも「縦割り活動」は行ってきたが、それが普段の学校生活に生かされる場面が少なかった。本校は、3学期から「縦割り清掃」に取組む。異学年のグループでリーダーを中心に3学期の期間同じ場所を清掃することになるが、「縦割り清掃」の取組を通して「自己有用感」や「主体性」、「コミュニケーション能力」も向上し、人間関係が密になると考える。

他教科との関わり『スパイラルアップ』

どの教科においても「教え合い」などのグループ活動が取り入れられているが、さらに上記の取組を実施することで「自己有用感」「主体性」「コミュニケーション能力」が向上し、「教え合い」「グループ活動」もさらに深化してスパイラルアップしていくと考える。

【NOSAKA 運動】



指定校番号	30041	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野中学校	校長	米谷 剛	生徒指導主事	平岡 健太郎
-----	-----------	----	------	--------	--------

取組事例名 『主体性を育成する生徒会活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性」	1	「自ら考え判断する力」	2

取組のねらい『キーワード 前向き Be Positive』

- ① 生徒の活動を肯定的に評価することで、よりよい生活習慣を身につけることに意欲をもたせる。
- ② 生徒一人一人の意見を学校の運営や取組に反映することで、自己存在感を育成する。
- ③ 異年齢集団による活動を通して、コミュニケーション能力やリーダー性、思いやりの精神を育む。

取組の具体的内容『キーワード 主体性』

- ① ○○強化週間「掃ベル・清掃強化週間」「号令強化週間」
「着ベル強化週間」「自転車かざかけ3days」
「読書ウィーク」「歯磨きセット調べ」
「勝手に牛乳パックコンテスト」など
- ② 目安箱の設置と校内環境の整備
- ③ 縦割り班活動「心の交流会」
「縦割り遠足」
- ④ 体育祭における生徒会種目「新・借り人競走」



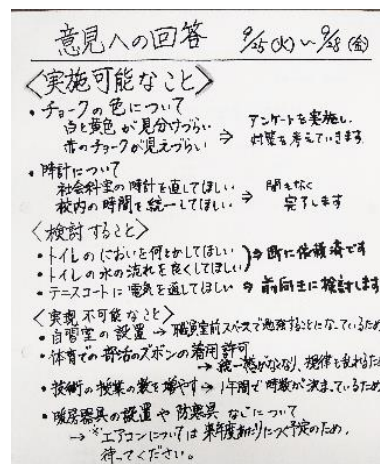
取組の課題・創意工夫『キーワード 自己存在感』

- ① 正しい生活習慣や規律を身につけさせるために、できていないことを注意したり反省させたりするだけでなく、できていることに着目して肯定的に評価するようにした。また、教師主導ではなく、生徒主体で取り組ませ、互いに声をかけ合うことのできる雰囲気づくりを進めた。
- ② 取組の目的を全校にはっきりと説明し、なるべく前向きな意見を出してもらえるような呼びかけをした。また、実現できる、できないにかかわらず、意見に対してはできる限り答えを返した。そうすることで、生徒一人一人に、生徒会の一員であると自覚できるようにした。
- ③ 3年生は「おもてなし」を合言葉に、リーダーシップを発揮する。その姿から、1・2年生にも「おもてなしの心」を学ばせ、伝統として引き継いでいけるようにする。
- ④ 生徒会執行部が企画し運営する競技を、体育祭のプログラムの中に組み込む。なるべく大勢の生徒が参加でき、地域の方や保護者も参加できるようなルールにして、「地域を愛し、地域から愛される学校」づくりを目指す。



取組の成果（効果）『キーワード 良いところが目立つように』

- ① 正しい生活習慣や規律を「やらされる」ではなく、「自らすすんでやる」ものとして、とらえる生徒が増えた。結果は、校内掲示や校内放送で発表するが、良い部分が強調されるようにすることで、生徒も意欲的に取り組んでいる。
- ② 様々な意見が寄せられたが、中でも「チョークの色が見えづらい」というものが複数あった。そこで、養護教諭と連携し、全校生徒に対し「見え方アンケート」を実施。どの場面で、どの色が見えにくいかということを調査し、改善策を講じることができた。
- ③ 縦割り活動は、3年生にとっては大きく成長できる機会となる。日頃は積極性に欠ける生徒も、率先して動いたり後輩とコミュニケーションをとって場を盛り上げようとしたりする場面が見られた。
- ④ 仲間と協力し、地域の方々と協力し、大人も子どもも和やかな雰囲気の中で体育祭の競技を楽しむことができた。



今 後 の 展 開『キーワード 基準は前向き』

どの取組についても、マンネリ化することが無いよう、成果と課題を整理しながら改善を図っていく。本校の学校教育目標は、「前向き Be Positive」であるため、「生徒が前向きに取り組むことができる内容になっているか」ということを、毎週開催する生徒指導部会、月に2回開催する執行部会などで模索していく。



他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 自信をもたせる』

〇〇強化週間は、学習規律に関するものが多い。そのため、取組に力を入れる生徒が増えることは、落ち着いて学習に取り組む生徒が増えることにつながる。

また、各教科で「主体的・対話的で深い学び」を実践していくためには、失敗を恐れず行動することや、生徒同士または教師と生徒との信頼関係が重要になる。その点で、これらの取組を通して、生徒一人一人が自信をつけることや、様々な関わりにおいてコミュニケーションを充実させることは、各教科の学習につながっていくと考える。



指定校番号	30042	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長	松本 貴文	生徒指導主事	桑田 浩二
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『吉中学びの7か条』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・次を見通す力」	1	「協調性・継続する力」	2

取組のねらい『生活規律の定着』

今年度、本校は授業を通して子どもを変えるために授業改善に取り組んでいる。その内の一つの柱が「授業規律の徹底」である。

従来から吉田中学校の生活信条として掲げてあった「吉中三訓」（時間厳守・挨拶励行・傾聴姿勢）に「整理整頓」を加え、生活規律の定着を図った。

そのために生徒会の学習文化委員会が「吉中学びの7か条」を作成し、具体性を持たせた。また、他の委員会や部長会と協働して内容の充実を図った。



取組の具体的内容『生徒主体の協働』

生徒会執行部が組閣された時に吉田中学校の現状と課題を出し合った。その時、生活信条である「吉中三訓」は本校の伝統であり、誇りでもあるが、時間の経過と共に意識が弱まり形骸化しつつあるという意見が出た。そこで、学習文化委員を中心に「吉中三訓」に新たに整理整頓を加えて具体性を持たせることで定着を図ることとなった。そういった中で出来上がったのが「吉中学びの7か条」である。

生徒朝会で生徒会執行部がパワーポイントを使って全校生徒に披露し、「吉中学びの7か条」を拡大した用紙を各学級に配付・掲示している。また、校舎内の掲示板にも掲示している。7か条の中の、時間前集合（着席）・授業準備・挨拶は学級委員、整理整頓は部長会が中心となって取組を進めている。



取組の課題・創意工夫『継続と創造』

取組の課題 個々によっても学年によっても意識と定着度に差異がある。今年度から始めた取組であるので、今年度入学した1年生は「中学校はこういうものだ」と守ろうとする意識が高いが、2・3年生はこれまで無かった取組のため、意識も定着度も1年生と比較するとなかなか向上しない。

創意工夫 挨拶を活性化させるための手法として、学級



吉中学びの7か条
時間厳守
 1. 2分前には集合しよう。
 2. 忘れ物は事前に届けよう。
 3. 次の授業の準備をして休まずしよう。
挨拶励行
 4. 相手をしながら、挨拶を込めて挨拶しよう。
傾聴姿勢
 5. 話を聴くときは、良い姿勢を意図しよう。
 6. 相手の気持ちを感じながら傾聴しよう。
整理整頓
 7. カバンや道具はいつでも整理整頓しよう。

委員会を中心に挨拶コンクールを行い、毎週トロフィーと賞状を授与した。また、クラスの団結力を高めるためにクラスカラーを決めて、その色のシールをネームに貼った。また、学期毎に学校生活オリエンテーションを行い、その都度「吉中学びの7カ条」を確認した。

取組の成果（効果）『主体性への変化』

生徒会の各委員会や部長会を中心に取組んでいる中で、生徒の中に主体性が芽生え始めてきた。挨拶では生徒会執行部が「立ち止まって」することにこだわりを持ち、掲示物を作って掲示したり、生徒朝会でパフォーマンスを見せたりする中で徐々に定着し始めている。また、授業始めと終わりの号令も3年生のあるクラスが進化させた形を考え、それを全校生徒の前で披露した。現在、新生徒会が組閣されているが、新生徒会執行部も全校生徒の前でパフォーマンスをし、授業に関する号令は3年生が考えた号令で全校統一することとした。



生徒アンケートでは、「学びの7か条を守っています。」は91.7%であった。「吉中三訓＋整理整頓」の肯定的評価は93.3%であった。中でも、「挨拶励行」の項目は96.5%であった。

今後の展開『意識の向上と発展』

「吉中学びの7か条」は今年度始めた取組である。一定の成果は得られたものの、まだ途上である。他校の先進的な取組を学んだりする機会を持たせると共に質の向上にこだわる。成果と課題を明らかにして、「吉中学びの7カ条」の文言の見直しを図る。継続をするだけでは停滞し、やがては衰退していく。常に生徒が向上心を持ち、新しい取組・仕掛けを考えることができるよう、指導者も創造することに努め、発展を促す。

他教科との関わり『全教科で取組む』

「吉中学びの7か条」は全ての教科に関わるものである。指導者も妥協することなくこだわりを持って授業や日常生活に臨む。そのために、非常勤講師も同様に取組むことができるように趣旨を伝え、密な連携を行う。

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長	米本 紀子	生徒指導主事	富田 竹則
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒会主体の活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「挨拶」	3	「主体性・積極性」	2	「自己肯定感の向上」	1

取組のねらい『キーワード自己肯定感』

自己肯定感の向上をめざして「咲かせよう個性の蕾」を生徒会スローガンとして、授業・部活動・掃除・服装に重点を置き取組を行なっていく。それらの活動を通じて、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード承認活動』

- 「一週間遅刻ゼロ忘れ物ゼロ」
- 「先生に挨拶」
- 1日30回挨拶表彰
- アルミ缶回収のクラス表彰と個人表彰等

生徒会執行部が今取り組むべき内容を考え、取り組んだその日の結果を放送やHRで伝達し動機付けを行なった。生徒朝会等で結果を報告し表彰する。



一週間遅刻ゼロ忘れ物ゼロ



先生に挨拶



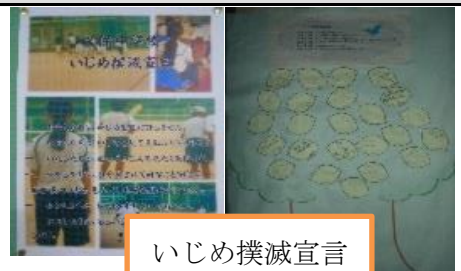
挨拶表彰



アルミ缶回収表彰

取組の課題・創意工夫『キーワードいじめ撲滅宣言』

お互いを認めあうという視点から承認活動だけでなくいじめに對しての取組を行なった。いじめ防止に関わる道徳を行い、その感想文を書きそれぞれのクラスの代表がいじめは許さないという思いを全校の場で発表した。また、生徒会長が久保中学校いじめ撲滅宣言を行い、全校に周知や意識付けを行なった。さらにいじめ撲滅宣言をうけての決意を記入しそれを各クラス、廊下に掲示した。



いじめ撲滅宣言

取組の成果（効果）『キーワード授業規律』

生徒会主体の活動を通じて学校評価から「授業開始時刻をきちんと守っている」はH30.7月と12月との比較で5.4%の向上、「立腰・黙想・礼をきちんと行っている」4.6%の向上、「縦割り掃除は時間いっぱいに取り組んでいる」0.5%の向上が見られた。

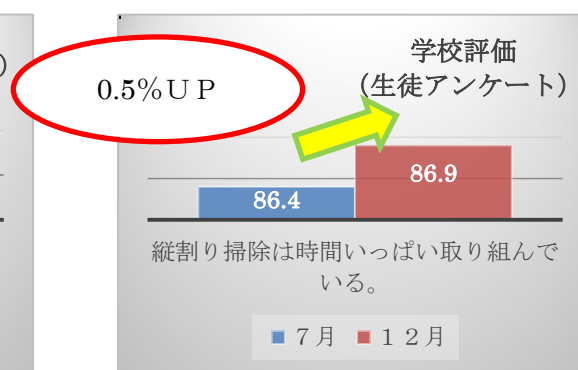
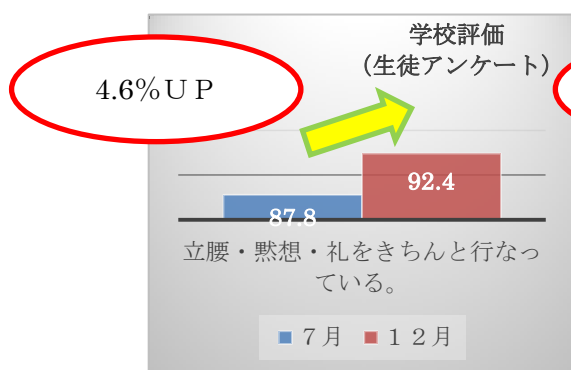
学校評価(生徒アンケート)	7月	12月
授業開始時刻をきちんと守っている。	89.8	95.2
立腰・黙想・礼をきちんと行っている。	87.8	92.4
縦割り掃除は時間いっぱい取り組んでいる。	86.4	86.9

5.4%UP

学校評価
(生徒アンケート)

89.8 95.2
授業開始時刻をきちんと守っている。

7月 12月



自己肯定感に伸びは見えなかったが、集会で集まった時に、誰かが発表した後自然に拍手が起こる等、他者の頑張りを認めようとする場面は増えてきた。

今 後 の 展 開『キーワード生徒会主体』

生徒会の取組結果として、時間の意識や授業準備、休憩時間から授業への切り替え等授業規律は向上した。今後学級からも生徒の意見を求め、生徒同士が結びつきを深め活躍できる場や機会をつくり、さまざまな視点から評価し承認していくよう取り組む。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード褒めること』

学校生活の中で生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、生徒に伝えるなど積極的に評価し、自己肯定感や自信につなげていく。

指定校番号	30052	○	学級活動		生徒会活動		学校行事	別紙様式
-------	-------	---	------	--	-------	--	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	大原 俊哉	生徒指導主事	金田 耕治
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『めざす学級とは？』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感的人間関係」	2	「主体性・積極性」	3	「自己有用感・自己決定」	1

取組のねらい『キーワード 思いやり 』

本校では、知・徳・体の土台となる「挨拶・姿勢・一生懸命・思いやり」の精神を大切に、「さわやか十中」をキャッチフレーズに取り組んでいる。本年度は、2学期に学級活動を通して、めざす学級像について考えさせた。学級の中で身近な課題に気づいたり、人を茶化したりする思いやりに欠ける行動等を改めていく風土を醸成し、互いに認め合う関係づくりの育成を目的として取り組んだ。

取組の具体的内容『キーワード 自律・自己調整 』

- ・学年の総務委員会で「めざす学級」に関わる取組の目的と活動内容について確認し、総務委員を中心に取り組み、班活動等を通して各学級の「めざす学級」について定義する。

<活動内容>

(班活動)

- ① 「めざす学級とはこんなものだ！」とイメージできるようなイラストを紙の中心に書く。
- ② 「めざす学級を実現するために自分ができる行動」等をイラストの内側に書き込む。
イラストの外側には、「ふさわしくない行動」「あってほしくない行動」等を書き込む。
(※全員イラストを囲み、順番に書く。)
- ③ 各班で、書いたイラストをもとに「めざす学級」について協議し、決定した内容に価値づけをし、理由も用紙に書く。

(全体交流)

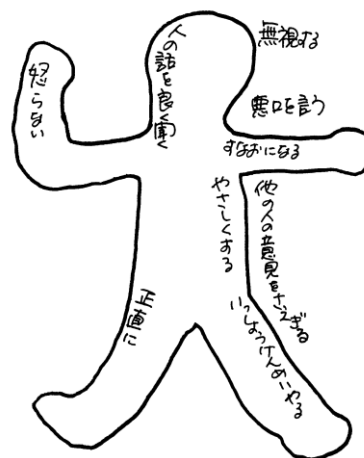
- ④ 各班の意見を発表し、全体で意見交流を行う。
- ⑤ 学級の「めざす学級」を協議し決定する。



- ・生徒一人ひとりが日頃から自分や周りの人の頑張る姿に気づき、互いに認め合う関係を築く。
- ・一生懸命に取り組むことを茶化すなど行動を改め、生徒の自己調整の指針とする。

イラストの例

「こんな学級にしたい！」



取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を通して「日常化」 』

- ・今後は、この取組を通して、生徒たちが気づいたことや考えたことを、自らの学校生活に日常化していける取組の継続性と、さらに、取組の内容を教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感の向上 』
・生徒たちが日頃から「めざす学級」に立ち返り，自らの気持ちを切り替えたり，自らの言動を振り返る自己調整できる場面も徐々にみられるようになった。 ＜生徒アンケート（i-check）の結果＞ ・「今のクラスは好きですか」の項目の目標値 80%に対して，肯定的評価の割合は 88.6%（１年 88.2%，２年 86.3%，３年 91.3%）であった。 ・「あなたが頑張った時，友だちから認められていると思いますか」の項目の目標値 80%に対して，肯定的評価の割合は 89.6%（１年 89.6%，２年 85.5%，３年 93.8%）であった。
今 後 の 展 開『キーワード 居場所づくり，絆づくり 』
・各学級での「めざす学級」像を，今後とも学級活動の指針の一つとする。 ・学級でのこの取組を，さらに生徒会活動と連動した取組につなげていく。
他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 横断的な取組 』
・今回の取組の内容を，授業の中で生徒指導の三機能と連動させた学習活動（協同学習等）となることをめざして取り組んでいる。 ・今後，さらに教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。

児童生徒のリーダー性等を
育む異年齢集団活動

指定校番号	30008	○	学級活動		児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	---	------	--	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台西小学校	校長	松江 都志美	生徒指導主事	大久保 真人
-----	--------------	----	--------	--------	--------

取組事例名 『全校で取り組む たて割り班そうじ』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・積極性」	1	「自己の生き方・自らの自信」	3

取組のねらい『キーワード 6年生みんながリーダー』

- (1) 清掃活動を通して、人を大事にすること、物を大事にすることを実践的に学ぶ。
- (2) 担任以外の教職員も直接児童と関わる場とし、児童と教職員が一緒に学校をきれいにする。
- (3) 異年齢集団で「思いやり」「導き合い」など、日常的に関わりの中をもつことで、縦割り班を使った集団作りとリーダーの育成を実践する。
- (4) 掃除道具の扱い方、手順の基本を学び、工夫して作業できるようにする

取組の具体的内容『キーワード 子どものよさを多角的に』

学校全体を一定期間、同じ場所、同じメンバーで掃除する。

- (1) 全校児童を、縦割りによる60班に編成し掃除を行う。
 - ① 1班の平均人数が9人（それぞれの学年で原則1～2名ずつ）
 - ② 各クラスとも20班に分ける。（4年生のみ30班）
- (2) 教職員1人が約3区域の児童（約27人）を指導する。
- (3) 年に1回、阿品台中学校の3年生がすべてのそうじ場所にそうじの指導をしに来てくれる。



阿品台中3年生 出前そうじ

取組の課題・創意工夫『キーワード 異学年の課題も』

担任がクラス内の児童を20班（4年生は30班）に分けるときに、指導上課題のある児童が重ならないように配慮しながらエクセルファイルに入力を行った。

入力は各組とも「6年生」→「5年生」→「4年生」→「3年生」
→「2年生」→「1年生」

の順に行う。指導上課題のある児童の配分のバランスを考えながら行う。

各組ごとに全学年の入力が終わったら、組会（1組、2組、3組）を設け、担任で20班の構成の最適化に努めた。



取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感』

すべての6年生が下学年から「班長さん」と呼ばれ頼られることで自己有用感を感じて活動している。また、清掃活動だけでなく体育委員会主催のレク大会なども通じて異学年の交流を深めている。5年生は副班長として6年生からバトンを受け取る準備を始めている。

今 後 の 展 開『キーワード リーダーに感謝』

卒業前の6年生のリーダーにお礼の手紙を縦割り班で書いたり、6年生に感謝の気持ちを表す活動も計画したい。



他教科との関わり『キーワード 楽しい活動もたて割りで』

この縦割り班を使って体育委員会の子どもたちが楽しくグループで遊ぶ活動（スポーツしまくり祭）を計画して、縦割り集団で楽しい活動もできた。



指定校番号	30009		学級活動	☐	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	-----------------------	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長	光廣 敏樹	生徒指導主事	前田 真一
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名		『縦班活動（縦班集体会の活動を通して）』									
取組における育てたい資質・能力											
人間関係形成		社会参画		自己実現							
「思いやり・関わり合い」	1	「主体性・創造性」	3	「感謝・認め合い」	2						
取組のねらい『キーワード 異年齢集団の繋がり』											
掃除や遊びを中心とした活動を異年齢集団で行い、日常的に関わりの場をもつことで、「思いやりの気持ち」や「導き合おうとする態度」を養う。											
取組の具体的内容『キーワード 肯定的評価活動と自治』											
①日常の清掃活動を、縦割り班ごとに役割を分担し、協力して行う。また、活動後に肯定的評価でお互いを認め合う。				 日々の清掃活動							
②5・6年生が企画・運営の中心となって1年生から6年生までが楽しむことのできる遊びを計画し、1ヶ月に一度、「縦班集体会」として行う。また、活動後に相互評価を行い、言葉を送りあう。											
取組の課題・創意工夫『キーワード 関わり合い・リーダーの継承』											
①1～6年生で10人ずつの班を作り、校内の清掃を分担して行う。6年生の班長を中心に役割分担し、お互いに教え合ったり、助け合ったりしながら掃除を行う。掃除の後に、各班で振り返りを行い、頑張った児童をMVPとして週ごとに選出し、讃えあう。											
②児童数約800人で80班という多くの班が同時に活動できるように、「縦班集体会」の場所を組集団別に運動場・体育館・教室の3箇所に分けてローテーションさせる。また天候も考慮し、屋外・室内と2通りの計画を立て、準備物も用意する。立案の時間は、代表委員会と重複させ、全ての班の5・6年生が班長、副班長として集まって、班の実態を考慮しながら話し合いを進めている。											
取組の成果（効果）『キーワード 思いやり・認め合い』											
①班の中で自分の役割をやりきろうとする児童が多い。上級生が掃除の仕方を教えたり、助け合ったりする中で、下級生は上級生に対して尊敬の気持ちを持ち、上級生は下級生に対して思いやりを持ったりして、つながりが深いものとなっている。											
②上級生が立案の段階で低学年でも楽しめるように、遊びの内容を考えたり、新しいルールを作ったりしている。また、下級生も活動の後に、感謝のメッセージを送るなどして、お互いを思いやり、認め合う気持ちが育っている。それらの気持ちが、日常の掃除時間や休憩時間に関わる際に、お互いのことを考えた関わり方に大きく役立っている。この活動を通して、児童自身が「成長した」「身に付いた」と感じている力は次の通りである。											
○児童へのアンケート結果より（複数回答） <table><tr><td>人を思いやる心…50.8%</td><td>協調する心…43.5%</td><td>物事を創造・計画する力…48%</td></tr><tr><td>責任感…54.4%</td><td>リーダー性…45.6%</td><td>広い視野で物事を見る力…44%</td></tr></table>						人を思いやる心…50.8%	協調する心…43.5%	物事を創造・計画する力…48%	責任感…54.4%	リーダー性…45.6%	広い視野で物事を見る力…44%
人を思いやる心…50.8%	協調する心…43.5%	物事を創造・計画する力…48%									
責任感…54.4%	リーダー性…45.6%	広い視野で物事を見る力…44%									



外での活動の様子



教室での活動の様子

活動後にお互いへの思いを表した
「ありがとうの木」



今 後 の 展 開『キーワード 横へのつながり』

学年を超えた縦のつながりができつつある中、今後は複数班や学年間による活動等、横のつながりを目指した活動を仕組んでいきたい。また、日常的な関わりが掃除時間に限られているので、学校行事や児童会行事で縦班を使った活動も取り入れ、かかわりの機会を増やしていきたい。来年度は学年間の学級数が異なることから、班編成の段階から学級を越えた柔軟な班作りが必要となってくる。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 適切な言葉の使用（国語）』

活動中や活動後の評価の中で、様々な言葉が児童の間で交わされる。相手の気持ちを思いやって適切な言葉をかけるために、豊かな語彙が必要となってくる。そのために、言葉の力を高めていく取組みを、国語科の授業の中で辞書を多用したり、作文活動を多く取り入れたりして行っている。

指定校番号	30016	○	学級活動		児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	---	------	--	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長	神田 秀浩	生徒指導主事	東 英治
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『異学年交流』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「主体性・積極性」	2	「自己存在感の育成」	3
取組のねらい『キーワード 人と関わる喜びを育む異学年交流』					
異学年交流での活動を通して、児童同士のつながりを深め、望ましい共感的な人間関係を育成する。高学年にはリーダーとして自覚を持たせ、低学年には、協力し合おうとする態度を育成する。					
取組の具体的内容『キーワード 異学年の交流活動』					
【6年生と1年生】 「清掃活動」 - 年間を通して6年生は1年生教室へ、1年生も6年生教室へ行き、一緒に掃除をすることで、6年生には責任感を持たせ、1年生は掃除の仕方を学ばせている。 「レクリエーション・本の読み語り」 - お互いに自己紹介をし、ふれ合いながら1年生が学校生活に慣れるように取り組んだ。 「6年生を送る会」（3月実施予定） - お世話になった6年生に、感謝の気持ちをこめてプレゼントを作成し、渡す。また、歌を言葉で6年生に気持ちを伝える。 【5年生と3年生】 「集団づくり」 「ボール渡し」「魔法のじゅうたん」等の活動を通して目標を達成させるために、思いやりの言葉をかけ合わせることで、共感的な人間関係を育成した。 【4年生と2年生】 「かべ新聞やリーフレットの紹介」 - 国語科で学習したことを生かし、4年生は、全学年に発表し紹介した。 【2年生と1年生】 「おもちゃ祭り」 2年生が生活科の学習で作った「おもちゃ」の使い方などを1年生に分かるように説明し、1年生が楽しむ活動になるように計画し準備した。 2年生児童は、1年生の感想や笑顔から達成感を味わうことができた。					
      					
取組の課題・創意工夫『キーワード 共感的人間関係の育成』					
- 上学年が主体となって交流する場では、下学年児童に分かりやすく説明することを心掛け準備した。 - 事前に学年間で連携し、活動後の振り返りに関して肯定的な評価を意識させ、リーダーとしての自覚や自信を持たせるようにした。					

取組の成果（効果）『キーワード 関わりの中で育つ』

- ・高学年はリーダーとしての意識が高まり，責任感を感じるようになった。また，下学年児童への声かけや関わり等が日常の生活の中で増えてきた。
- ・下学年の児童は，リーダーのことを慕い，積極的に関わろうとする様子が多く見られるようになった。

今 後 の 展 開『キーワード 異学年交流の継続』

- ・6年生は年度当初，1年生に掃除の仕方を伝え，3学期も，低学年の自立に向けて清掃活動に取り組んでいる。今後は，来年度に向けて年間を見通して，異学年交流を計画していく。
- ・児童の自己存在感や自己有用感の育成に向け，効果的な活動を仕組む。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 各教科の学びと関連付ける』

- ・各教科等で身に付けた資質や能力を，特別活動の実践に生かしていく。
- ・他者との会話，交流などを通して自己の考えを発展させていく。

指定校番号	30017		学級活動	○	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	---	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長	小田原 まゆみ	生徒指導主事	倉田 瑞穂
-----	-----------	----	---------	--------	-------

取組事例名 『自分を大切にし、他者を大切にする生徒指導』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感力」	1	「感謝の心」	3	「本気力」	2

取組のねらい『キーワード：自他を大切にする』

学級交流・異学年交流を通して、児童が主体的にかかわる中で、積極的な生徒指導の取組を行っていく。その取組を通して、自他の良さに気づき、認め合い、学び合える児童の育成を目指していく。

取組の具体的内容『キーワード 学級集団 異学年集団 ペア学年』

- I 構成的グループエンカウンター
月に1回、構成的グループエンカウンターを学級で行っている。
5月末に行うQ-Uの調査結果を基に、生徒指導主事を中心に学級や学年の実態に応じた内容を計画した。Q-Uの結果をもとに、自己肯定感や自己有能感、他者理解についての内容を中心に計画をし、また、児童の実態に応じてその時々課題に応じた内容に変更しながら行った。

- II 異学年交流（たてわり班活動）
社会性の基礎を培う為に、異学年交流（たてわり班）による活動を重視している。
「あんな6年生のようになりたい。」という憧れは、児童の自律的な成長を促すきっかけとなる。また、低学年に丁寧に説明し、お世話をする経験を通して、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができたというリーダーとしての自覚や自己有用感を感じることができる。同時にお世話される側は、感謝の心をもつことができる。

- ①たてわり集会（月1～2回）
- ②たてわり給食（年1回）
- ③たてわり掃除（毎日）
- ④たてわり遊び（年1回）
- ⑤たてわり6送会（年1回）



- III 異学年交流給食
学期に2回、ペア学級の2学級の異学年集団で給食時間を過ごしている。
給食委員会と給食係児童のつながりある活動で運営し、高学年のリーダーシップと低学年の高学年を手本とした成長を促す場となっている。会場の準備や司会進行、楽しむ場の設定（自己紹介・クイズ等）を通して、自分の役割や各自の出番のある時間を過ごすことにより、人と関わる喜びを感じられる時間を過ごすことができている。

取組の課題・創意工夫『キーワード：組織としての教職員集団』

- I 構成的グループエンカウンター
月に1回行う際に、生徒指導主事がTTとして担任と一緒に授業を行ったり、構成的グループエンカウターの資料を配布したりした。
- II たてわり班掃除
清掃指導担当の保健体育部とたてわり班担当の生徒指導部がそれぞれ役割分担を行い、主任・主事を中心に、各部内で実施計画を何度も練り合った。それぞれの部で話し合い教職員全員が計画に参加することで、全員が同じ方向性で取り組むことができた。また、初めての試みだったので、はじめの1ヶ月間は、何度も部内で集まり課題や改善策を話し合い柔軟に変更をしながら行った。

Ⅲ 異学年交流給食

交流にあたり、担任・担当（栄養教諭）間での事前打ち合わせを行うことにより、互いの学級の様子を話したり、取組によって他学年の児童の様子を知ったりする機会となっている。事前・事後指導の反省や児童のひとこと感想（班ごと）を踏まえて、異学年交流活動の在り方について校内で研究協議していくことが必要である。

取組の成果（効果）『キーワード：やってよかった』

I 構成的グループエンカウンター

2回目のQ-U調査を1月末に行うので、まだ数値としての結果は未定である。

【児童の振り返り】

- ・友達が自分の良いところをたくさん見つけてくれて嬉しかった。
- ・やっぱりこのクラスで良かった。
- ・友達の得意なことを知ることができておもしろかった。

これらの振り返りから、自己肯定感や他者理解が高まったと考えられる。

Ⅱ たてわり班掃除

6年生がリーダーとなり掃除をすることで、全校が一生懸命に掃除に取り組む姿が見られた。

【児童の振り返り】

- ・自分がリーダーとして、きちんと指導しないといけないし、見本となる行動を取らなければならないので、成長することができた。
- ・違う学年の子と仲良くなることができた。
- ・学級でやるより学校がきれいになった。
- ・6年生が掃除を教えてくれたのでうれしかった。



Ⅲ 交流給食

- ・高学年として低学年を引っ張る姿が見られた。
- ・リーダーとしての自覚や達成感を味わうことに繋がっている。
- ・来年は、自分たちがリーダー役をすることになるので、リーダーの姿を意識してみようとした。



今 後 の 展 開『キーワード：卒業してほしくない6年生、6年生0学期』

今年度も残り2ヶ月となり、それぞれ次の学年に進級する。6年生は、「卒業して欲しくない6年生」と言われるように最後の取組を行っていく。5年生は、6年生0学期として「6年生として何をしなければならないのか」「どんな6年生になりたいか」を考えながら取り組んでいく。

また、たてわり交流の集大成として、6年生を送る会の中で「たてわり給食」を行い、これまでの感謝の気持ちを6年生に伝える行事を行う。

他教科との関わり『キーワード：対話』

全ての教科で「教材との対話」「他者との対話」「自己との対話」を生み出す工夫をした授業を行い、段階的、効果的な場の設定をしている。

指定校番号	30020	学級活動	☐ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	-----------------------------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和小学校	校長	石川 順雄	生徒指導主事	高岡 和也
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『吉和チャレンジランキング大会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・協調性」	2	「自己肯定感」	1

取組のねらい『自発的かつ自主的・自治的活動』

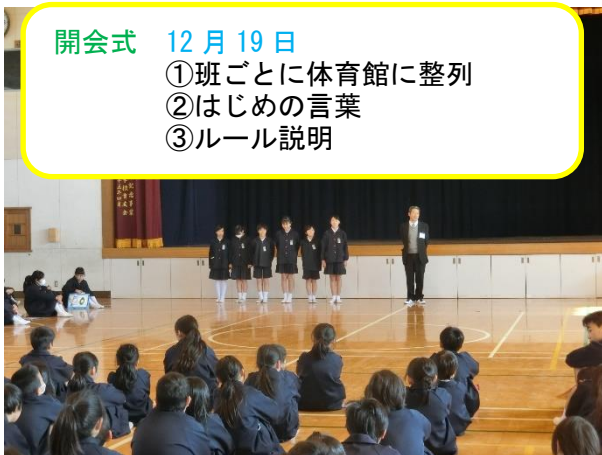
- 異学年児童と一緒に活動することで、互いに思いやる心や協力して活動しようとする意欲を育てる。
- 力を合わせて活動する中で、一人ひとりのよさを認め合う。

取組の具体的内容『異学年交流』

- 縦割り班（全20班）ごとに、校内オリエンテーリングを行う。

開会式 12月19日

- ①班ごとに体育館に整列
- ②はじめの言葉
- ③ルール説明



④オリエンテーリング

6年生の考えた10種類（イントロドン・宝探し・ポーリング・ジェスチャーゲーム・箱の中は何？・聖徳太子・どれだけ乗れるかな・カンジャム・ストラックアウト・バスケットボール）のゲームが用意されている教室を回り、得点を積み重ねていく。

どれだけ乗れるかな



ポーリング



箱の中は何？



⑤5年生を中心に、順番を静かに待つ



表彰集会 12月21日
⑥表彰（全班に各賞）

取組の課題・創意工夫『主体的な計画・準備・運営・振り返り』

○児童会・6年生が中心になって計画・準備・運営させる等、自主性を大切にする。

①児童会より「チャレンジランキング大会」について提案

児童会役員で決定→代表委員会

②児童会役員から6年生全員へ提起→係の決定

→ルール決定・準備物づくり

○5年生がオリエンテーリング時のサポートをする。

○児童自身が活動を評価し、手作りの賞状を各班に渡す。

○低・中学年が6年生に感謝の手紙やメッセージを書く。



取組の成果（効果）『自己肯定感の高まり』

○内容や役割分担、ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。

○一人ひとりの思いや願いを大切にして取り組んだことで、自己存在感を高めることができた。

○協力し助け合って取り組んだり、互いのよさを認め合ったりすることで、共感的な人間関係を育てることができた。

○高学年（6年生・5年生）一人ひとりが役割を分担し、協力して活動することができた。

○上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生をよい手本にしながら楽しい活動をすることができた。

○自分たちで決めたルールを守ることによって規範意識が高まった。

○高学年としての責任や自覚、リーダーシップ等を、6年生から5年生に引き継ぐことができた。

○自己肯定感が高まった。

チャレンジランキング大会後アンケート集計 6年・5年（71人）

1 そう思う 2 ややそう思う 3 ややそう思わない 4 そう思わない

項 目		1	2	3	4
①(6年生)先生の手をかりずに、自分たちで考え計画したチャレンジランキング大会をすることができた。(5年生)来年も、自分たちで考え計画して楽しいチャレンジランキング大会にしようと思った。	人数	52	16	2	1
	%	74	23	2	1
②一人一人の思いやねがいを大切にしたチャレンジランキング大会をすることができた。	人数	38	24	9	0
	%	53	34	13	0
③高学年（6年生・5年生）一人一人が役割を分担して、協力して活動することができた。	人数	43	19	8	1
	%	61	27	11	1
④高学年（6年生・5年生）が手本となり、低中学年（1～4年生）を思いやりながら活動することができた。	人数	33	29	9	0
	%	46	41	13	0
⑤チャレンジランキング大会中のルールは自分たちで決め、低中学年（1～4年生）に守らせることができた。	人数	25	34	11	1
	%	35	49	15	1
⑥高学年としての責任や自覚、リーダーシップを6年生から5年生に引きつぐことができた。	人数	38	24	9	0
	%	53	34	13	0
⑦チャレンジランキング大会後、あなた自身に達成感（やり切ったぞ）や満足感（やってよかった）がわいてきた。	人数	45	15	9	2
	%	63	21	13	3
⑧この大会を通して、あなた自身が成長したと思いますか。	人数	39	23	9	0
	%	55	32	13	0

今 後 の 展 開『繋げる』

○3学期、5年生中心の児童会活動（1月21日～31日：31年度前期児童会役員選挙運動、1月31日：前期児童会役員選挙、2月6日：児童会役員引継ぎ式、3月6日：6年生を送る会）に繋げる。

○児童会生活目標やあいさつ運動強化週間等の取組に生かす。例：2月の生活目標「他の学年に優しく声をかけ、元気なあいさつをしよう」

他教科との関わり『広げる』

○各教科・総合的な学習の時間・特別な教科「道徳」等の授業においても、主体的な学びを構成し、児童一人ひとりの自己肯定感を高めていく。

○本取組で培った資質・能力（主体性・協調性・自己肯定感等）を各教科で育成したい資質・能力（課題を設定する力・情報活用能力・論理的思考力等）に関連させ広げていく。

指定校番号	30031	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長	東 秀樹	生徒指導主事	望月 貢樹
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『縦割り運動会・文化祭・掃除』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思いやり」	3	「自律」	2	「主体性」	1

取組のねらい『キーワード：主体性・リーダーシップ』

○「縦割り活動を通して、3年生のリーダーシップを育成すれば、主体的で自律的な活動ができるであろう。」という仮説を設定して取り組むこととした。また、異学年交流をすることでお互いを認め合い、助け合う気持ちを育むことも目指した。

取組の具体的内容『キーワード：目標と振り返り・思いやり』

【清掃活動】

○今年度は縦割り清掃を仕組むこととした。1学期は担任が中心となって生徒の掃除場所の割り振りを行った。また、全校集会で、縦割り掃除の意義や目的、掃除の方法などを職員も含め説明し、確認後スタートした。3学期の新生徒会執行部体制は、生徒の主体性を尊重した新たな取組を行っている。具体的には、掃除スタートチェックに取り組んでいる。毎日、掃除の始まりの時間に掃除場所に来ていなかった生徒チェックして職員室前にチェック表を掲示している。



【運動会】

○縦割りの運動会は今年度で3年目となる。今までの経験を踏まえ、ソーランリーダー、組体操リーダー、実行委員などへの取組を行った。更に今年度は応援合戦を取り入れ、より多くの場面で3年生を中心とした取組を行った。そして、帰りの会で「楽しんで取り組む」「仲間と協力して」「目標を持って取り組み」「誇りを持って取り組む」の四項目の振り返りを行った。各自で振り返りを行うことで、自律を促すことができた。



【文化祭】

○昨年度から、文化祭（合唱コンクール）も縦割りで行っている。クラス合唱と縦割り合唱の取り組みを行っている。昨年度の課題は「他の人の発表を静かに聞くことができない」であった。その解決に向けて生徒会執行部が積極的に案を出したことが成果につながった。また、運動会に続き、文化祭でも毎日帰りの会で「楽しんで取り組む」「仲間と協力して」「目標を持って取り組み」「誇りを持って取り組む」の四項目の振り返りを行った。結果、すべての項目について90%程度の肯定的評価になっていた。

取組の課題・創意工夫『キーワード：配慮と支援』

- ①真剣に取り組めない生徒が固定化されていた。
- ②リーダーシップを発揮しにくい生徒がいる。

以上の解決に向けて次のような取組を行った。

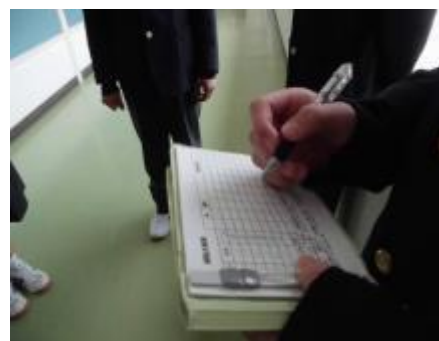
- ①積極的に活動できない生徒をリストアップし、具体的に対応・支援を協議し、より具体的な役割分担と仕事内容の明確化を行い、活動への参加を促していった。その結果多くの生徒に改善が見られた。
- ②担当教員にしっかり見てもらい、より丁寧な指導を行うことで改善が見られた。また、清掃活動については学期に1度のメンバーの再編成で配慮を行った。
- ③自己評価、他者評価を用い、各自の役割・目標を明確にした。

取組の成果（効果）『キーワード：つながり』

【清掃活動】

- 多くの掃除場所を担当の職員がいなくても、3年生を中心に清掃活動と振り返りまで行っている。
- 真剣に清掃活動に取り組んでいる生徒が増えている。
- 異学年交流が進み、人間関係の広がりや深まりが見られた。
(生徒の感想)

- ・掃除時間の自分の責任を感じて今まで以上に取り組んでいる。
- ・先輩がやさしく接してくれてうれしかった。
- ・学期を通して同じ掃除場所なので、自分の仕事のはっきりした。
- ・後輩の真面目に取り組む姿を見て、自分も頑張らないといけないと思った。



【運動会】

- ・新たな取組（応援合戦）も加わり、生徒の活躍の場が増えた。
- ・仲間と協力する大切さを感じさせることができた。

【文化祭】

- ・特に合唱コンクールは盛り上がり、今まで課題であった他のクラス、学年の発表を静かに聞くこともできた。
- ・毎日の振り返りを通して、自らの行動を見つめ、より良い行動をしようとする生徒が増えた



今 後 の 展 開『キーワード：自律』

- 数名の生徒が清掃活動に参加できていない状況がある。特別支援教育の視点も含め、すべての生徒が主体的に清掃活動に取り組めるようにしていきたい。そのために今後生徒会執行部とも連携しながら清掃活動のあるべき姿（見本）を示しながら定着を図っていきたい。具体的にはDVDを作成し、新入生・在校生に示していくことを考えている。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード：意図的』

- ※すべての教科・教育活動においては、意図的に縦割り活動（掃除）の意義・効果について触れていくようにしている。

【技術・家庭科】第1学年で整理整頓の必要性について学習をする。

【道徳】「主体性」の資質・能力に関わる授業を展開するときには、縦割りで行われる活動に絡めた話に触れていくようにしている。

【学活】教育センターのチャレンジサポート事業を受けて、「一人一人に思いをつなげる運動会・文化祭をつくり上げよう」という課題を設定し取り組んだ。

指定校番号	30033	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長	國崎 康裕	生徒指導主事	岡村 雄二
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『縦割り活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協働性」	1	「態度・価値観」	3	「課題発見・解決力」	2

取組のねらい『キーワード CHUO PRIDE』

○年間を通して縦割り活動を仕組むことで上級生には先輩としての自覚を持たせ、中央中学校の伝統を継承していくとともに、異学年の中で互いに活動していくことで共感的人間関係を育み、自己存在感を養っていく。また、活動を通して中央中の一員としての自覚と誇り（CHUO PRIDE）を持たせる。



取組の具体的内容『キーワード 生徒主体』

○新入生歓迎遠足

実施日が雨のため遠足は中止となったが生徒会が主体となり、生徒会レクリエーションを行った。学年・学級を超えた生徒相互の交流を実施することができた。



○体育大会

縦割りの体育大会になって4年目となった。生徒主体で練習内容やメンバーを決めていった。全校ダンスも縦割りによる練習を行い、学年を問わず生徒間で教えあったり指摘しあったりする姿が見られた。



○文化祭

合唱コンクールや「日本の歌『四季』」の発表に向けて3年生が1・2年生の指導していく流れができてきた。



○部活ボランティア（年２回）

各部活で場所や活動内容を話し合い、自分たちにできる事を考え実施した。



地域での花植え



ゴミ拾い



地域の公園清掃

取組の課題・創意工夫『キーワード PDCAサイクル』

○１年間を通しての縦割り活動が始まり３年目となった。ある程度、生徒会やリーダーとなる３年生の動きや流れができ、様々なアイデアが出るようになってきた。しかし、教員とリーダーとの打ち合わせや取組を行う時間の確保がなかなかできず、打ち合わせ等が直前になることも多かった。また、様々な取組を入れていくだけではやることばかりが増え、効果的な活動にならない。実態に合わせて改善していく必要がある。生徒の主体性を高め、より効果的な活動にしていくためには、よりしっかりとした計画が必要である。

取組の成果（効果）『キーワード 伝統』

○生徒を対象とした生活に関するアンケートでは「学校行事・生徒会行事に満足している」という質問に対して肯定的回答は９２.３％であった。また、「黙動流汗清掃の意義を理解し、無言で掃除している」９７.９％、「部活集合に遅れず集合し、充実した部活動ができています」９７.１％、「全校合唱日本の歌「四季」を自ら進んで取り組んでいる」９５.２％と肯定的な意見はどれも高い数値を示している。縦割り活動を通して先輩にあこがれを持ち、生徒会活動や学校行事にやりがいを持つ生徒が増加してきた。

今後の展開『キーワード 継承』

○生徒会が主体となり、自分たちで考え計画し、行っていくことで学校行事や生徒会行事にやりがいや自己肯定感が高まり、縦割りでの活動が中央中学校の伝統となりつつある。６５０名を超える生徒がいるため生徒の考えも多種多様である。その年度の生徒の実態等も考慮した縦割りの活動を仕組んでいかなければならない。

他教科との関わり『キーワード 課題発見・解決学習』

○各教科では『主体的・対話的で深い学び』のある授業の創造をテーマに授業を展開している。自ら考え判断する生徒、生徒の興味・関心を促しながら意欲的に学習する生徒を育成している。縦割り活動では目標に向かって自分たちのやるべきことを明確にし、課題解決に向けての取組が仕組まれている。グループやペア活動ではリーダーを中心に活動が活性化している。

指定校番号	30039	学級活動	☐ 生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------------------------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中緑ヶ丘中学校	校長	谷川 清二	生徒指導主事	河本 春彦
-----	--------------	----	-------	--------	-------

取組事例名『望ましい集団活動』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「聞く力・正確に伝える力」	2	「耐える力」	3	「自らへの自信」	1
取組のねらい『キーワード：生徒の主体性』					
・校区内の児童会、生徒会との連携や異年齢交流（縦割り活動、行事）、学習活動での話し合い活動への取組、人間関係づくりトレーニングの全学年での取組を通してコミュニケーション能力を高めることにより自主、自立の意識や能力を高める。					
取組の具体的内容『キーワード：小中連携』					
・定期的な小中連携において、校区内の小学校で授業観察や情報交換を行い、校区の児童の課題を明確にし、学習や生活面に関して今、どのような取組が必要なのかを協議し、小学校の段階から早期に手立てを行っている。また、今後異年齢交流の取組にもつなげていけるよう連携をしていく。					
取組の課題・創意工夫『キーワード：異学年交流』					
・体育祭や遠足及び校区内における小中での校区内清掃（クリーンキャンペーン）等の行事を縦割り活動や異年齢交流で取り組みを行い、生徒会活動やボランティア活動等を通して望ましい集団活動や豊かな人間性を培い、「生きる力」の育成に努めた。					
取組の成果（効果）『キーワード：より良い集団づくり』					
・年間での取組における行事や学習活動や特別活動での生徒、教師の活動の中で、生徒個々のコミュニケーション能力や人間関係の力を付けることにより、集団生活を送るうえで「望ましい集団生活」が送る力を養うことができた。					
今後の展開『キーワード：児童・生徒会活動の連携』					
・生徒の自治を育てるため、小中で連携した児童生徒会活動の取組を進め、学校全体を生徒自らの手で活動、運営していくために、児童・生徒会執行部が連携し、校内や地域への企画、参画ができるシステムを構築する。					

他教科との関わり『キーワード：主体的学習活動の充実』

・教師と生徒及び生徒相互の人間関係づくりをベースに各教科においても話し合い活動を通して互いに自分の考えを自由に表現できたり、認め合い高め合ったりすることにより人間関係を深め、学習の場においては、規律ある学習態度や自主的学習習慣を育てる。

指定校番号	30044	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第三中学校	校長	日名貞 秋典	生徒指導主事	西村 直朗
-----	-----------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『三中チャレンジカップ』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「課題発見・解決力」	2	「高い志・使命感」	3

取組のねらい『キーワード：競い合い・認め合い・励まし合い』

- 年間を通して縦割り集団で活動を仕組み、互いに競い合い、認め合い、励まし合う中で自治的集団をつくる。
- 生徒が目的意識を高め、様々な行事や授業、点検活動等に主体的に取り組むことができる。
- ピア・サポート活動をととして、課題解決する力をつけさせる。
- 3年生を中心に企画・運営をしていく中で、公正に、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなど、社会生活に必要な態度を養う。

取組の具体的内容『キーワード：年間を通して縦割り集団で活動』

本校の弱みは、生徒が熱しやすく冷めやすいところにある。学校行事では、様々なリーダーを中心に活発に取り組むことができる。しかし、リーダーを務めた生徒が、普段の生活に戻ると丁寧に授業に取り組めていない実態があった。普段の生活から上記「取組のねらい」を意識させ、目標の達成に向け、年間を通して取組を進めた。以下が取組内容である。

- 年間を通して縦割りの集団で、行事や点検活動に取り組む。
- 月ごとの全校集会（全校朝会または頭髪服装点検）で取り組む活動の詳細や結果を生徒会から発表し、活動を得点化する。



< 活動の様子 >

三中チャレンジカップ年間計画

実施時期	実施内容	担当する委員会 (教科)
4月	集団行動・校歌	保健体育科
5月	号令GP	生活委員会
6月	自主勉強ノートGP	生徒委員会
9月	運動会 靴そろえGP	保健体育科 美化委員会
10月	学習発表会（合唱）	生徒会執行部
11月	号令GP 自主勉強ノートGP	生活委員会 生徒委員会
1月	持久走GP	保健体育科

取組の課題・創意工夫『キーワード：教職員の取組に対する趣旨の共有』

上記の「三中チャレンジカップ年間計画」にある取組は、今年度、新たに始めた取組ではなく、昨年度まで各専門委員会や学校行事の中で実施してきたものである。昨年度との大きな違いは、全ての取組を縦割り集団で実施しているところにある。

年度初めの4月に縦割り集団で実施した「集団行動と校歌」の練習では、3年生はリーダーとしての自覚を、1・2年生は必死に指導してくれる3年生に応える姿勢を身に付けさせることを目的に取組を計画した。

号令 GP や自主勉強ノート GP は、学校行事が無く身近な目標が設定しづらい時期に計画をし、互いに競い合い・認め合い・励まし合うことを通して集団の力を高めていった。

このように、各取組の実施時期については、生徒の意欲付けにつながるため十分に議論する必要があった。また、運動に偏った取組にはせず、学習面で活躍できる生徒が輝けるよう内容にも配慮した。

現時点での「三中チャレンジカップ」を進めていくうえでの課題は、全教職員が取組の趣旨を理解し、同じベクトルで取組を進めることにありと感じている。

取組の成果（効果）『キーワード：年間の見通しを持って取組を考える』

初動の取組が1年間の取組の充実につながるということである。

年度初めに3年生には、「『三中を劇的に変える。』それだけの力を持っている。これからの三中のスタンダードとなしてほしい。」とたたき付けた。1・2年生を導く者としての自覚を持ち、指示するだけでなく、しっかりと関わりを持つよう指導した。

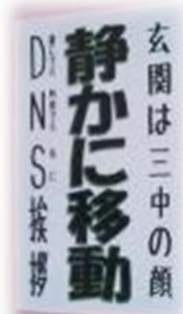
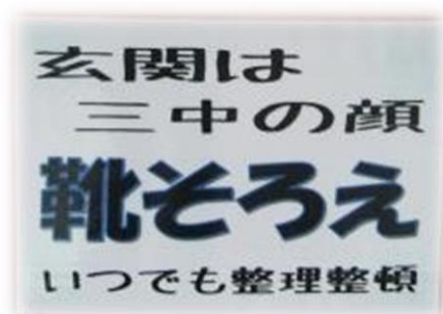
その結果、1・2年生の中に「3年生のために頑張らなければ。」という思いの醸成につながることができていると感じる。

今 後 の 展 開『キーワード：あらゆる活動につなげていく』

例年、運動会だけ行っていた縦割り集団の活動を、今年度はあらゆる活動に広げることができた。しかし、今年度「三中チャレンジカップ」をここまで進めることができたのは、生徒の力と主導した教職員の力に依るところが大きいと思われる。本取組の内容や効果を検証し、今後も継続して実施できるようシステム化を考えていく。

他教科との関わり『キーワード：取組後も継続して取り組ませる』

各教科との結びつきが多い取組であるため、取組期間中だけで終わらせるのでは意味がない。教職員が生徒に対し、どれだけ意識を持って行動させ続けるかが大切である。どんなに小さな取組でも、同じベクトルで指導し続けることが、校内の生徒指導体制の構築につながっていると考える。



平成30年度三中チャレンジカップ		
	11月 自主勉強グランプリ	1月 持久走グランプリ
現在	現在の合計	
赤団	40	390
青団	10	200
黄団	20	220
緑団	30	190

児童生徒が主体的に活動する
体育的・文化的行事

指定校番号	30014		学級活動		児童会活動		クラブ活動	○	学校行事
-------	-------	--	------	--	-------	--	-------	---	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長	林 文麿	生徒指導主事	田尾 佐智恵
-----	-------------	----	------	--------	--------

取組事例名 『児童が参画する学校行事～運動会での応援合戦～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「伝え合う力」	2	「課題発見力」	3	「自己肯定感」	1

取組のねらい『キーワード 児童参画』

学校行事において、自主的に活動できるところを創意工夫して取り組ませ、成就感を味わわせる。

取組の具体的内容『キーワード 高学年から全校へ』

今年度は、各行事で一部を児童に任せるということを明確にし、児童にも知らせ、取組を始めた。1年生歓迎遠足、運動会、マラソン大会、学習発表会で様々な形で児童が参画する行事となった。

中でも、運動会では、児童から「応援合戦をやりたい。」という声があがり、職員で協議し実施することにした。

1 6年生で運動会のテーマを決定する。

テーマ『絆～全力で熱く燃えろ～』

2 代表委員会で運動会を盛り上げる方法について話し合う。

代表委員会の話し合いで決まったことは、児童会本部からプリントにまとめて各学級に伝え、全校児童に周知を図った。

3 各担当で計画・準備する。

応援合戦については、応援リーダーを各組から選出し、準備・練習をしていった。



4 本番

当日は雨のため、体育館での実施となったが、初めての応援合戦を成功させることができた。



取組の課題・創意工夫『キーワード 流れを作る』

- ・昨年度までの学校行事は、自分たちで作り上げているという思いがもてるまでではなかったのですが、今年度は、年度当初から、学校行事の一部を児童に任せるということを明確にし、児童会本部で年間計画を立てるところからスタートした。1年生歓迎遠足では、「新1年生に加計小学校に来てよかったなと思ってもらい、加計小学校になじんでもらおう。」というめあてを掲げ、準備・計画をしてきた。めあてを自分たちで決めたことで、どの活動もめあてから逸れることなく、実施することができた。
- ・1年生歓迎遠足の成功が次の行事への意欲となり、運動会で応援合戦がしたいという声が出てきた。職員の計画では、全校競技を任せてみようかと計画していたが、児童からの声を優先し、実施することにした。
- ・応援合戦は初めての取組である。どんな応援をするのか、どんな流れでするのかなど、細かいことを児童だけでは決められないので、応援合戦担当の職員が支援をしながら取組を進めていった。全校児童の前には、高学年が立ち指導することで、自分たちでやっているという実感をもてていた。

取組の成果（効果）『キーワード 主体性』

- ・6年生の学校行事カード（運動会）の「自分から進んで取り組もうとした」という項目を見てみると、「よくできた」と評価した児童が、昨年度は73%だったが、今年度は93%に上昇していた。
- ・運動会後のマラソン大会や学習発表会について、児童会本部の話し合いや代表委員会で、昨年度までやっていなかった取組のアイデアを積極的に考えるようになってきた。自分達が学校行事に参画し、盛り上げるために、どんな工夫ができるかを主体的に考え、実行する力、評価する力、振り返る力がついてきた。

今後の展開『キーワード 継続』

- ・学校行事に児童が参画することを来年度からも続けていきたい。そのためには、職員の計画段階で、行事担当と児童会担当がしっかり連携をとり、全教職員で意識統一をして取り組んでいくことが重要である。また、今年度の取組を児童会本部でしっかり振り返り、新児童会役員に引き継げるようにしていきたい。

他教科との関わり『キーワード 話し合い』

- ・1つの行事について取組を考え、実行していくまでには、児童会本部、各学級、代表委員会、各係や担当など様々な集団で話し合いをしていく必要がある。折り合いをつける話し合いの仕方を身につけられるよう、学級活動（1）の話し合い活動を充実させていきたい。

指定校番号	30028	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立城東中学校	校長	羽原 靖明	生徒指導主事	小川 好美
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒主体の体育大会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「論理的思考力・表現力」	3	「協働性」	2	「課題発見・解決力」「自己指導力」	1

取組のねらい『キーワード 個々の成長』

- 縦割り集団での取組の中で企画・運営など自己決定の場を与え、リーダーの育成を図り、主体的に行動する態度を育む。
- 競技・応援・係の仕事等を通して、自己存在感と共感的人間関係を育む。

取組の具体的内容『キーワード 主体性』

- 色別の縦割り集団で各学年リーダーと3年生全員が中心となり校歌・行進・応援などの練習を行った。取組を通して「良き風土や社会性」（気持ちのいい挨拶、話は顔を上げて目と耳と心で聴く、正しい言葉遣い、服装・履き物を整える、手を抜かずにやりきる、仲間を見捨てない、準備・片づけが率先してできる 等）を身に付けることを目指した。
- 練習期間中は毎日リーダー会（全体・色別）を行い、教員やリーダー同士で互いの頑張りを認め合い、反省点は翌日以降の練習に生かした。



取組の課題・創意工夫『キーワード リーダーの育成』

- 3年生全員にリーダーとしての意識を持たせるため、3年生だけの練習を早期に開始し、結団式では1・2年生の前で、3年生全員による色別ソーランを披露した。
- 小集団での指導は、リーダー以外の3年生が指導に当たるようにした。
- 教職員は、リーダーに任せ見守る指導（「手をつけず、目を離さず」）を行った。

取組の成果（効果）『キーワード 成長』

- 3年生全員が全体や小集団のリーダーとなることで、3年生の責任感や自己有用感が高まった。
- 1年生は入学後すぐに縦割り集団の中で活動することで、集団の一員になっていることに気付くことができた。3年生と関わりながら成長し、練習や係の仕事で活躍する生徒もいた。
- 担任が、縦割り集団の中で生徒の日記などを紹介することで、生徒は、学年（立場）が違っても気持ちを共有できることに気付く、向上心を持って練習等に取り組むことができた。





〔体育大会後の生徒アンケート〕

項 目	質 問	肯定的評価 (%)
仲間の 良さの発見	仲間と励まし合い、協力することができた	83.6
	仲間の良さを発見することができた	85.8
自分の 良さの発見	チームのために貢献することができた	78.2
	自分の良さを発見することができた	59.5

今 後 の 展 開『キーワード 継続』

- 体育大会の取組で実感した一体感、達成感、充実感が、生徒のさらなる成長の源になるように、全授業が、体育大会と同じように、他者との学び合いや生徒自身が自分で考えて挑戦する「面白い」場となるようにする。教職員は、子ども同士の学び合いの中で、考えの広がりや深まりが生まれていることを意識して、「リーダーに任せ見守る指導」を日々の授業でも実践する。
- 縦割り集団で取り組む体育大会を通して、生徒は「良き風土や社会性」を育むことができた。それを日々の生活につなげ、「課題発見・解決力」や「自己指導力」の向上につなげるために、城東三訓「時を守り 場を清め 礼を正す」を柱に、学級活動や生徒会活動、部活動等に取り組む。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 道徳的实践力の育成』

生徒感想の中に、道徳的实践力の育成に係る次のような表現が見られた。

道徳の授業で関連する項目を扱うときには、体育大会の練習を想起する場面をつくり、体育大会での経験を踏まえて、道徳の課題を考えることができるようにする。

役割と責任の自覚

なかなかうまくみんなを引っ張っていけなくて、思いが伝わらなくて、練習がいやだな、もうリーダーやめたいな、など正直あきらめかけたことが何度もありました。けれど、横で一生懸命がむしゃらに頑張っている仲間を見て、「私が緑組のリーダーなんだから頑張らない」と思いそこから変わりました。失敗から自分たちはどうしていきべきか考えさせられ成長へとつながったと思います。協力することで、一人ではできないことができるようになります。私が最後までやり切れたのも、仲間がいたからだと思います。

理想の実現

友情

自己の向上

練習は一言でいうととても疲れました。初めてこんな厳しい練習をしたので、毎日筋肉痛でした。でも「あきらめず頑張ろう、もうちょっとやってみよう!」と思いながら活動しました。あの苦しいが最後は達成感に変わりました。先輩がどうしてあんなに厳しく教えてくれたのか、どうしてそこまでいいに分かりやすく説明してくれたのか、今になってようやく分かりました。先輩たちには本当に感謝しています。先輩が教えてくれたことをずーっと忘れず、私が3年生になった時に新しい後輩に伝えられるよう努力します。

愛校心

指定校番号	30030	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀中学校	校長	湊 和昭	生徒指導主事	平岩 弘文
-----	----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『阿賀中学校ソーランプロジェクト ～ともに伸びる～』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思いやり・感謝・貢献」	1	「主体性・積極性」	2	「自らへの自信」	3
取組のねらい『キーワード：受け継ぐ』					
○ 小中一貫教育の取組として、本年度は「ともに伸びる」をテーマとして、様々な場面で人間関係の形成と、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 ① 中学生はクラスのリーダーを中心に、合同練習や相互評価を通して、阿賀中学校の伝統を継承していく心構えと成長した自分の姿を確認させながら、当日の発表に結びつける。 ② 1年生は、小学校6年生の時に、現2年生からソーランの指導を受け、アガデミア*発表会に参加した。その時の生徒をリーダーとし、集団づくりの取組の中心にすえるとともに、上級生の迫力ある演技を見学することで、阿賀中ソーランの演技と情熱、心構えを継承させる。 ※「アガデミア」阿賀地区の7つの教育機関と地元自治会とで組織する「阿賀学園地域教育連携協議会」の愛称					
取組の具体的内容『キーワード：クラスの団結と縦のつながり』					
① 体育館での習得練習（評価のポイントの提示、ビデオの活用、相互評価の実施） ② 体育大会当日の演技場所を決定するオーデションの実施（校長が審査） ③ 体育大会での演舞評価（学年対抗だけでなく縦割り評価をプラスし、学年を超えて応援させる。） ④ 1学年：基本演舞「阿賀中ソーラン」 2学年：地元阿賀の伝説に創作を加えた「お漕ぎ船伝説Ⅱ」 3年生：阿賀中独自の演舞「YAMATO 魂」に加え、総踊りの実施（部活動の先輩が後輩に踊り方を指導、学年を超えて、当日は地域の方や卒業生も加わって踊る） ⑤ 体育大会後の取組（小中で連携した取組） ア 小学校の運動会での演舞（1年生有志が小学校でソーランを披露） イ アガデミア発表会における小学生とコラボした演舞発表（1年生が小学生を指導する）					
取組の課題・創意工夫『キーワード：リーダーの育成』					
① 演舞指導は伝統芸能部の生徒を中心とするが、男女の配置や隊形移動、演技のキレなどについて、相互評価をすることで、より良い演技となるようにしている。 ② クラスや学年を超えて、教職員がリーダーへの指導を丁寧に行うことで、学校全体でリーダーを励まし、取組の充実を図っている。 ③ 体育大会で中心となって取り組んだ生徒を、今後の学級活動や行事の中で活躍させることはもちろん、普段の生活や学習でのリーダーとして育成していかなければならない。					
取組の成果（効果）『キーワード：自らへの自信』					
① 学年が上がるにつれ、上級生としてこれまでの最高の踊りを見せようという意識が高まり、アドバイスを素直に聞き入れることができるようになる。そのことがより良い演技や自信につながっている。下級生も「来年は自分たちの番だ」という意識を強くしている。					

- ② 小学校の運動会やアガデミア文化発表会での交流を通して、先輩への憧れや中学校に上がったら、ソーランを頑張って踊りたいという意識が芽生えている。

今 後 の 展 開『キーワード：良き伝統と貢献』

- ① 3学期には、来年度の体育大会発表に向けて、2年生の演技「お漕ぎ船伝説Ⅱ」、3年生の演技「YAMATO魂」の練習に取り組むが、阿賀中ソーランの先駆者「YAMATO呉人」の指導者だけでなく、卒業する3年生も高校入学まで後輩の指導にあたることで、新2・3年生が伝統を引き継いでいくために見通しをもって取組をすすめる。
- ② 現6年生は、入学後、希望者を対象として上級生がソーラン講習会を開いて踊りを指導する。この講習会に参加した生徒が中心となって体育大会に向けた学年練習等をすすめる取組を、クラスづくりに結びつけていく。(平成30年度は、新入生の1／3以上の参加があった。)

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード：ともに伸びる』

- 本年度は生徒指導の三機能（自己決定の場、共感的人間関係、自己存在感）を生かした授業づくり、生活づくりをテーマとして、小中一貫教育研究会を行った。
- 「返事は大きくはっきり」「相手を見て」「小グループによる教え合いや意見交換」等、各教科の特徴を生かした授業展開を工夫すること、阿賀中スタンダード認定を有効に活用し、褒めて伸ばす機会を多くすることで、生徒の学習意欲向上や他者の良いところを認め、良好な人間関係を築いていくことにつながっており、落ちついた校内環境で日々生活できている。

授業公開研修の一場面



1年生による小学生へのソーラン指導
(研究会、アガデミア発表会へ向け)



体育大会 2年生「お漕ぎ船伝説Ⅱ」



体育大会 3年生「YAMATO 魂」



指定校番号	30040	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	大田 稔	生徒指導主事	小田 一治
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名		『体育祭』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「先輩と後輩の良好な関係」 「学級の団結力」	2	「主体性・積極性・責任感」	3	「自己肯定感」	1
取組のねらい『体育祭から学ぶ。』					
体育祭に主体的に参加することによって，３年生は「リーダー学年としての意識」，２年生は「先輩として１年生に見せるべき姿」，１年生は「海田中学生としてのあり方」を学ぶ場とする。					
取組の具体的内容『リーダーを中心とした運営』					
体育祭で行う入場行進，応援演技などを３年生の団長や応援リーダーが中心となり，１・２年生に指導した。また，学年の競技に関しては各クラスのリーダーが中心となり，学級の生徒をリードした。それぞれの練習の前後に教員とのミーティングを密に行い，より効果的な練習を行うことができた。また，３年生は全体練習にかかわる道具の準備なども積極的に行った。					
					
					
取組の課題・創意工夫『リーダーと教員の連携』					
生徒に様々な取組を任せる上で，演技の内容が全校生徒にとって難しすぎたり，簡単になりすぎたりしないように保健体育科，３学年の担任を中心に，リーダーとして活動する生徒たちと連携を取り合った。その結果，体育祭の各練習は生徒のやる気を引き出す，非常に充実したものとなった。生徒の実態を把握した上での教員の生徒の関わりによって，生徒が上手く流れに乗り，生徒，教員ともに前向きに練習に取り組むことができた。					

取組の成果（効果）『一体感』

本校では、育てたい資質・能力の育成を測る一つの指標として、全校生徒を対象とした意識調査アンケートを行っている。このアンケートの項目の一つに、「自分にはよいところがあります」の項目があるが、生徒の肯定的な評価の割合が、平成29年12月の調査では66.6%であったが、平成30年12月の調査では77.0%となり、10.4ポイント上昇した。

同様に、教職員にもアンケート調査を行ったが、「(生徒が)行事に積極的に取り組んだと思います」の項目における肯定的な評価が83.0%と高い割合であった。

体育祭を終えた後、1・2年生の感想からは、リーダーとして取り組んだ先輩に対する感謝の声が多くあげられた。また、教職員も体育祭に向けたたくさんの場面で生徒との一体感を感じることができ、体育祭に向けた取組は、学校全体のあたたかい雰囲気づくりにつながったと考える。このような活動を通して芽生えた雰囲気は、その後の学級や学年での取組を挟みながら、文化祭での学級の取組にも生かされ、現在もさらなる好循環につながっている。

アンケート結果や感想は、あくまで育てたい資質・能力の育成を測るための指標の一つではあるが、これまで自分に自信を持てていなかった生徒の中にも、体育祭をはじめとする今年度の取組から、本校が最も力を入れて育成を目指している自己肯定感の高まりにつながっているという手ごたえを感じている。



今 後 の 展 開『型ができたからこそその進化』

体育祭での応援演技は、生徒が3年生を中心に主体的に活動する場として位置付けている。昨年度までは応援演技のあり方が練習期間の短さから定まらず、大きな課題であった。しかし、今年度の取組で生徒が応援演技で主体的に活動するための型は作ることができたと考える。その型をもとに、より発展した体育祭の取組を行っていきたい。

他 教 科 と の 関 わ り『時間厳守』

本校の体育祭は5月に開催される。その練習の取組で時間を守ることや話を聞く態度などのルールやきまりに対する意識を、リーダーを中心に生徒主体で高めることができた。これは、現在も日常の授業に生きており、特に時間を守る意識に関しては生徒の方から声上がることも少なくない。このような部分が整ったことは生徒の授業での様子によい影響を与えている。

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第五中学校	校長	岡野 哲朗	生徒指導主事	比舎 宏哉
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『運動会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「主体性・積極性」	2	「思考力・判断力・表現力」	3

取組のねらい『キーワード リーダー育成』

1年生から3年生を縦割りに分けて行う唯一の学校行事。各学年のリーダーを決めて、3年生を中心に練習を進めた。リーダー選出はやる気のある生徒自らの立候補により決めている。リーダー会を開き、ミーティングを行い確認しながら練習を進めた。その練習では、全体の指示は教員が出すが、その後は色別に分かれてリーダーを中心に自分たちで考えて練習を進めた。



取組の具体的内容『キーワード 縦割り集団』

縦割り集団では、リーダーを中心に練習を行った。本校では、運動会時期になると、朝練習を生徒が企画し、各学年のリーダーを中心に大縄跳びや行進、校歌の練習などを行っている。教員は3年生のリーダーに指示を出し、下級生へは3年生が指導するという形ができており、下級生への伝統の継承が運動会の練習において進みつつある。

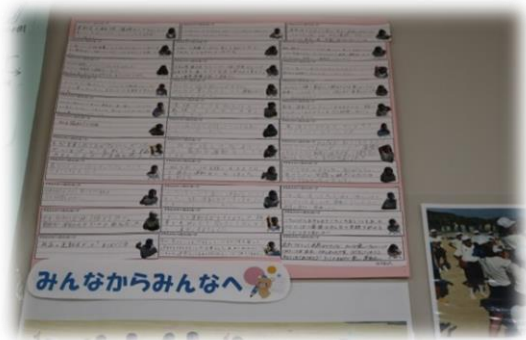
課題は、縦割りの取組が「運動会だけになっている」ことである。この縦割りの取組を運動会だけでなく、他の行事等につなげていきたい。



取組の課題・創意工夫『キーワード 人間関係づくり』

運動会に向けての決意をメッセージカードに書いて意欲向上を図ったり、「みんなからみんなへ」メッセージを送ったりと、縦だけではなく横のつながりも大事にして取り組んだ。縦割り集団は縦だけでなく、横もクラスを越えての活動になるので、学校全体で考えていく必要がある。

メッセージカードは、「安心の雰囲気」をつくるすべての人間関係づくりの取組である。生徒の心の居場所づくりを日々工夫していく必要がある。



取組の成果（効果）『キーワード 生徒の繋がり』

メッセージカードの取組を通して、生徒と生徒を繋ぐことができた。お互いの良い言動を取り上げ、生徒の自己肯定感や自己存在感を高められた。メッセージをもらった生徒は、照れと喜びが混じったようないい顔をしていた。

また、生徒自らが運営することで、ルールを守ろうとする生徒が増え、生徒間で注意し合う姿が見られた。終了後には多くの生徒が「やりきった」という達成感を味わうこともできた。

今後の展開『キーワード いろいろな活動につなげていく』

運動会では、リーダーを中心に活発に取り組むことができる。運動会のようにリーダーを育成し、主体的な学校行事、特別活動ができるように学校全体で活動の場を広げていきたい。

今回の取組で異年齢集団の繋がりができたので、学級内の人間関係を今よりさらに良好な関係にできるように、学級の雰囲気づくりにも取り組んでいきたい。

他教科との関わり『キーワード 道徳』

本校では、運動会と関連付けた道徳の授業を実施している。運動会実施後に、内容項目【B（6）感謝】を扱う道徳授業を設定し、その終末において、運動会でお世話になった人に感謝を伝えるメッセージを書いた。1・2学年は先輩への感謝、3学年は同級生リーダーの良い所を挙げ、感謝の思いを表現した。



指定校番号	30048	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長	瀬戸 智	生徒指導主事	濱原 光伸
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『吉中太鼓』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「地域貢献」	3	「自己存在感」	1

取組のねらい『自己存在感を高める』

吉中太鼓は今から32年前、「荒れた学校の立て直し」と居場所を無くした生徒の学校への定着」を念じて生まれたものである。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒を学校に位置付かせ、生徒の居場所づくりを目的として誕生しました。その後、自己存在感を高めることを目標に、全生徒を対象として、総合的な学習の時間を利用し、太鼓を聴いてくれる多くの人たちを感動させるような「心で打つ太鼓」を目指しています。



取組の具体的内容『主体的な学び』

太鼓の練習は、総合的な学習の時間を利用し、6月から3月(12月は無し)まで、毎週1～2時間(11月まで3年生は2時間、1月から2年生は2時間)、学年に応じた練習を行っている。文化祭やバチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表している。また、3年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加し、今やそれぞれのイベントの中心的役割を果たしている。

吉和こども祭り(8月)	運動会(9月)	吉和地区敬老会(9月)
吉和町民フェスティバル(11月)	文化祭(11月)	尾道青少年健全育成大会(11月)
バチの受け渡し式(3月)		



発表の場をいくつか設定することで、1・2年生は、3年生の太鼓を目標に、3年生は今回の演奏よりは次回の演奏と、録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り、自ら考え課題を持って練習に励んでいる。

取組の課題・創意工夫『継承』

現在の3年生が32期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっている。しかし、誰もが指導できるわけでは無く、長年太鼓の指導に関わってきた職員の異動に伴い、昨年度より若手の職員が中心的な指導を行っている。取組を継続させるにも、次の指導者を計画的に育成していくことも大切である。生徒については、毎年3月に「バチの受け渡し式」を通じ、現在の太鼓の頭(リーダー)が次の頭に「頭バチ」を引き継ぐことで、次のリーダーを育てる取組につながっている。



取組の成果(効果)『太鼓が人を変える』

3年生になり、人前での発表が増える頃になると、3年生の意識が変わり、人に見てもらうためには何をしないといけないのかを考えるようになり、リーダーを中心に、集団としての意識が高まる。

更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけでなく、生徒会執行部や運動会の応援リーダー等、各行事においてリーダーとして大きく成長している。その姿は、吉和中学校に在籍する、すべての生徒のあこがれとなっている。



今後の展開『吉和で学んでよかった』

ここ数年、本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感をたかめ、「吉和で学んで良かった」と言える生徒を多く輩出していきたい。



他教科との関わり『課題設定』

課題を設定し、聴いてくださる人々に感動を与えられる太鼓を演奏するためには、何が必要か、今の自分たちに足りないものは何かについて考え、目標を設定し解決に向かわせるため、各教科と結びつけた学習を行う。体育「体づくり運動」、音楽「和楽器の特徴を知る」、社会「身近な地域調査」道徳「向上心・個性の伸長」との関連を想起させることで、更なる深い学びを創造する。

指定校番号	30049	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長	利田 亨次	生徒指導主事	土生 和之
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『自主的な活動（体育大会）』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「自主性・主体性」	1	「判断力・表現力」	2

取組のねらい 『キーワード：リーダー育成』

- （1）生徒の自主性を養い、多くの人の前でも堂々とした態度で臨むことができる。
- （2）異年齢集団のなかで、相手に合わせたコミュニケーションをとることができる。

取組の具体的内容 『キーワード：共通認識』

- （1）縦割にした取組のねらいに対する教員の意識や指導方法をそろえる。
- （2）教員の役割分担を明確にする。
- （3）担当教員と各リーダーとの打ち合わせや準備をていねいに行う。
- （4）その日ごとに反省会を行い、改善点や次の練習内容を確認する。
- （5）生徒を中心にしてやらせる内容を年々増やしていく。

取組の課題・創意工夫 『キーワード：生徒が主役』

- （1）リーダーに慣れていない生徒もいるが、教員はすぐに出て行かない。
- （2）課題や対策を自分たちで考え、生徒の力でやりきらせる。
- （3）肯定的な評価を中心に行い、全体の前でリーダーを褒める。
- （4）案を検討する校内の実行委員会の段階から、生徒代表が参加できるとよい。
- （5）事前のリーダー会をていねいに行い、大きな声を出すなどの心構えや練習をしておく。



生徒会による全体集会の様子



リーダーによる縦割チームの反省会

取組の成果（効果） 『キーワード：笑顔』

- （1）練習の雰囲気が明るく、とても楽しそうである。（共感的な人間関係）
- （2）自分たちで練習内容を考え、工夫しながらやり切った。（自己決定）
- （3）リーダーとしての全体を引っ張って行くことで、周りの生徒から認められる。（自己存在感）
- （4）競技中も、自然に他学年を応援するなどの一体感が生まれてきた。
- （5）リーダーがひとつの手本となり、次の年へ繋がっていくようになってきた。
- （6）行事後のアンケートで、満足度は92%と高かった。



教室に別れてダンスリーダーによる練習



リーダーの指示による縦割り種目の練習



異年齢がひとつになって行っている競技



他学年でもみんなで応援

今 後 の 展 開 『キーワード：繋ぐ』

- (1) いろいろな行事のなかへ、実行委員（リーダー）を中心とした動きをする場面をつくっていく。
- (2) 他の活動のなかにも、縦割を取り入れ、異年齢の交流の場を増やしていく。
- (3) 縦割り種目以外の競技についても、生徒の意見を取り入れ、リーダーを育成していく。

他 教 科 と の 関 わ り 『キーワード：主体性』

- (1) 学習においても、課題に対して解決策を生徒同士で議論して進めていく。
- (2) クラスに温かい雰囲気をつくり、自分の意見を堂々と言え、他の人を尊重できる。
- (3) 上級生が、下級生に教える場面ができるとよい。

指定校番号	30050	学級活動	生徒会活動	☐ 学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	----------------------------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立向東中学校	校長	吉用 和弘	生徒指導主事	村本 壮充
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『体育大会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「協調性」	1	「自己表現」	2

取組のねらい『キーワード：互いに協力して、責任を果たす態度を養い、高め合う集団』

競争や協働の経験を通して、お互いに協力して、責任を果たす態度を養い、高め合う。

取組の具体的内容『キーワード：仲間と高め合う』

- ・ 紅組・白組の団長を中心に3年生が手本になり行う行進。
- ・ 上級生が下級生の手本となり、創り上げる表現活動。
- ・ 各係の分担内容を、リーダーを中心に互いに協力して責任を果たす。



取組の課題・創意工夫『キーワード：リーダーの育成』

多くの場面で、リーダーとして活躍する場を設ける。
自主的な声かけや励ましができる場を設定する。

取組の成果（効果）『キーワード：協力して責任を果たし共に高まる』

- ・ 3年生が意欲的に一致団結した行進に取り組み下級生の手本になり、下級生も負けずと共に高まろうとする雰囲気ができあがっていった。
- ・ 組み体操・ダンスでは、下級生に意欲的に声かけを行い手本となると共に、温かい言葉かけでアドバイスを行う。

今 後 の 展 開『キーワード：継続』

体育大会では、各組のリーダーが中心となって、下級生を引っ張り、お互いに高まり合おうという雰囲気の中で体育大会を成功に導けた。体育大会のみならず、部活動や生徒会の委員会活動・合唱・掃除などについても、学校が1つのチームとして取り組めるように、行事毎に評価をして、次の活動につなげていく。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード：コミュニケーション』

集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成する。
各学級担任と保健体育科の教員とのコミュニケーションを大切にしていく。

指定校番号	30053	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長	定宗 譲二	生徒指導主事	小田 昌滋
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『合唱祭』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感力」	1	「協調性・柔軟性」	3	「高い志・使命感」	2

取組のねらい『キーワード 自己肯定感』

本校は、これまで生徒の自己肯定感の低さが、問題行動や不登校の原因になっていた。そこで、生徒の自己肯定感を高めるために、合唱祭を計画した。生徒主体で活動することが成功体験になり、生徒の自己肯定感を向上させ、学校生活全体へのやる気に繋がると考えている。また、意欲の向上が問題行動や不登校の減少に繋がると期待している。

取組の具体的内容『キーワード 共感できる異学年交流』

合唱祭に向けての具体的な取組として、約1カ月前から指揮者、伴奏者、スピーチ、めくり作成、パートリーダーなど役割分担をして事前の取組を行っている。合唱祭当日に向けての練習では、各クラスのパートリーダーが中心となって練習の計画を考え指示を出し練習を行っている。また、クラス内での練習だけでなく縦割り練習として各学年の1組が集まるなどの異学年交流を行っている。縦割り練習の際は、3学年が司会をするなどして全体の進行を行っている。

また、合唱祭当日の表彰の際は、めくり賞やスピーチ賞、指揮者賞の発表があり、各クラスの担当者は入賞が出来るよう様々な工夫をし、表彰がある事が、役割のある生徒の活動意欲の向上につながっている。



(合唱祭の「めくり」は合唱祭後に校内に掲示しています。)

取組の課題・創意工夫『キーワード メッセージカード』

学年練習や縦割り練習の際には、お互いの良い点・改善点を「メッセージカード」に記入させ「見える化」を図っている。記入されたカードは各クラスに掲示するなどして、書いてある改善点などをその後の練習の参考にしている。また、肯定的なアドバイスは、生徒のやる気にも繋がっている。

また、合唱祭終了後は振り返りを行っている。これから何を目標にどのようなことをがんばるかワークシートにまとめるなどして、合唱祭の取組による自己肯定感の高まりを、今後の生活に活かせるようまとめさせた。各自が記入したものは廊下に掲示するなどしている。



(合唱祭後は個人で振り返りを行っています。)

取組の成果（効果）『キーワード 高い志・使命感』

合唱祭に向けての練習では、様々な生徒間の課題を解決しながら、合唱祭のステージに向けて、クラス全員が一つになる事ができた。合唱祭当日の達成感は、これからの学級の大きな力になったと考えている。自分たちで、創意工夫を行い、仲間と共に同じ目標に向かう努力をしたことは大きな成果であった。また、特に1学年は、2・3学年の迫力を目のあたりにして自分たちも頑張ろうと目標がもてた。3学年は、1・2学年の模範になるよう意識し歌声だけでなく、ステージ上での態度も意識して取り組む事ができた。

今後の展開『キーワード 生徒会活動の活性化』

合唱祭では生徒会執行部が中心となり当日の運営や準備を行った。生徒自ら意欲をもって取り組むことができたことも生徒会執行部の存在が大きかったと考える。今後も、生徒会が前面に出て全校をリードしていく流れを作っていきたい。

他教科との関わり『キーワード 向上心』

合唱祭では審査員による審査が行われ、順位が決定する。審査内容は声の大きさに加え、ハーモニーや各パートのバランスなど細かな審査が行われる。そのため、音楽の授業では、専門的な指導やアドバイスをを行っている。

校番	031	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	松永高等学校	校長	山垣内 俊行	生徒指導主事	山田 和弘
-----	--------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『運動会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性・表現力」	3	「責任感・連帯感」	1	「使命感」	2

取組のねらい『全力演技』

年次対抗により、集団意識及び所属意識を高め、個々の持っている能力を出し合い、認め合うことで団結心と連帯感を養う。

取組の具体的内容『年次対抗戦』

入場行進、準備体操をはじめ、ほとんどの競技種目において年次対抗で争った。年次の一クラスずつが受け持つ競技種目の設定や、クラス対抗リレーでは、年次での予選を勝ち上がったクラスが決勝に出場する形式を設定するなどして、クラスの集団意識を高め、さらに、年次の集団意識を高めていくという内容としている。



取組の課題・創意工夫『生徒の心に火をつける』

事前準備におけるグラウンド整備について、環境保健部からの提案により、年次対抗で草取りを競争形式で行った。また、部活動の生徒を使い、サッカーゴールを埋め込んで、横断幕に「入場門」「退場門」と書いて掲げ、入退場門を設置した。環境を整えることで雰囲気を作り、生徒のやる気を出させるための取組を進めた。



取組の成果（効果）『次年度へ向けて』

生徒によるアンケート結果では、運動会について「大変よかった」「よかった」と肯定的に答えた割合が、昨年度より4.2ポイント減少している。しかし、「入場行進はどうだったか」、「準備体操はできたか」などの項目に対して、肯定的に答えた割合は、昨年度より増加している。また、応援団がない代わりに盛り上げたいとダンス部が昼休憩に踊ったり、アンケートの自由記述欄には競技種目の変更希望についての意見や来年度への意気込みが書かれていたりするなど、運動会をより良いものにしていこうという前向きな様子が伺える。



今 後 の 展 開『主体性ある生徒の育成』

今回の行事をステップにし、校内のつながりにとどまることなく、保護者及び地域の方にも楽しんでもいただけるような内容へレベルアップしていきたい。そのためにも、応援団の発足や企画の立案など、生徒主体の取組が進められるような集団を育てていきたい。



他 教 科 と の 関 わ り『集団意識の向上』

保健体育科と連携し、授業での集団行動を継続的に行うことで集団意識を高めるための取組を進めていく。

校番	032		ホームルーム活動		生徒会活動	☐	学校行事	別紙様式
----	-----	--	----------	--	-------	-----------------------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	沼南高等学校	校長	沖井 信	生徒指導主事	松浦 祐子
-----	--------	----	------	--------	-------

取組事例名 『沼南祭でのクラス発表』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「お互いを認め合う力」	1	「主体的に行動する力」	3	「目標に向けて前進する力」	2

取組のねらい『全員参加』

○全クラスが体育館で行う発表に向けて、話し合い、準備、本番とクラス全員が役割を担って作り上げることができる。

取組の具体的内容『自分達にできること』

○過去のクラス発表の映像などを参考にしながら、受け継いでいくべき内容と自分達の個性を出せる内容を話し合い、生徒主体で発表内容を決めていった。

○発表内容がかぶらないよう、クラスから出された案の段階で、文化祭実行委員会で調整するようにした。(実際には調整の必要はなかった)

取組の課題・創意工夫『意見の相違と対話』

【課題】クラス内で意見が合わず、険悪なムードになるクラスが毎年あること。

⇒準備を進めていく中で、生徒同士の意見の違いや人間関係の変化について教員が情報共有を密に行い、必要に応じて生徒に助言する等、トラブルにつながらないよう留意した。

【課題】行事そのものに参加したくない生徒がいること。

⇒その状況を教員が早めに把握し、どの役割ならできるかをリサーチする等、トラブルになる前に、生徒間の調整を図った。

取組の成果（効果）『達成感』

○体育館でのリハーサルや当日の本番では可能な限り生徒に運営を任せ、教員の指示を最小限にしたことで、クラスや学年の枠を超えて協力する場面が見られた。

○沼南祭後の生徒アンケートの結果より

「目的に向かって協力し、やり遂げることができたか」→「できた」「ややできた」79%

「担当した役割をきちんと行えたか」→「できた」「ややできた」75%

「(自分のクラス行事について) みんなで協力してできたか」→「できた」「ややできた」90%

「(自分のクラス行事について) 充実感があったか」→「あった」「ややあった」77%

今後の展開『次は何する?』

○生徒一人一人が役割を担い、責任を持って仕事をしたことで感じた「やればできる」「自分は必要とされている」という気持ちを、日々の学校生活でも感じられるよう、クラス内での役割を与え、全うさせる等の仕掛けを図る。

○クラスごとの取組である沼南祭のステージ発表で得た充実感や達成感が、規模の大きい「学年ごと」や「学科ごと」の取組（修学旅行、学科別発表会等）でも得られるよう、生徒が主体となって動く場面を増やしていく。

他教科との関わり『科ごとの特色ある発表』

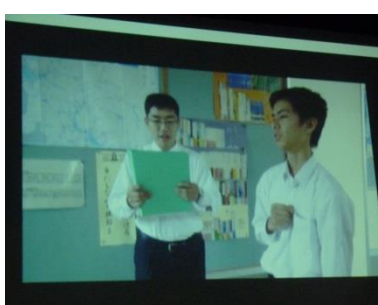
○普通科は、ここ数年英語科の全面協力を受けながら英語劇に取り組んでいる。1年は昨年度の映像を参考にしながら自分達なりの味付けをした作品を、2年はセリフや発音がレベルアップし、ユーモア要素も取り入れた作品を披露した。



○家政科は、毎年圧倒的に多い女子生徒が中心となって発表内容を工夫している。今年は1年がダンス、2年は「いじめ」問題を取りあげて作ったオリジナル脚本の劇に取り組み、熱演した。3年はファッションショーを行い、プログラムだけでなくBGMや照明プランも生徒が考えることで、家政科で学んだ3年間の集大成としての華やかなステージを作り上げた。



○園芸デザイン科は、1年は「FFJの歌（日本学校農業クラブ連盟歌）」を振り付きで発表、2年は学校や農場を舞台にしたチャレンジ動画を作成、3年は農場での生活の一コマを寸劇にする等、農業科で学ぶ意味と自分たちが果たすべき役割について考えた内容の発表となった。



校番	050	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	河内高等学校	校長	栗田 正弘	生徒指導主事	川原 栄治
-----	--------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『全校写真コンテスト』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「他者理解・共感力」	1	「課題発見・解決力」	3	「自己理解・表現力」	2

取組のねらい『伝える力・受け取る力』

自分の気持ちを伝えることができ、人の気持ちを感じ取ることができれば、望ましい人間関係を築くことが容易になる。そのため『伝える力・受け取る力』を様々な機会を通じて育み、他者を受け入れ尊重する態度を養うことにより、よりよく生きる力を身につける。

取組の具体的内容『表現する・感じ取る』

今年度は「百花繚乱～花は散れどもさらに咲く～」という文化祭のテーマに向けて、生徒一人一人が写真を撮影し、作品にタイトルをつけて文化祭当日に展示した。展示を見た人の反応も考慮に入れながら、校内選考委員会によって受賞作品を決め、文化祭閉会式において優秀作品の表彰を行った。

取組の課題・創意工夫『見る側を意識して表現する』

コンテスト前に写真教室を開き、技術的な指導に加え、『伝えたいことを表現するにはどうすればよいのか』を生徒に考えさせ、見る側が感じとってくれて初めて『伝わる』が成立するのだから、『見る側を意識して表現する』ように指導した。

コンテストの要項に、人を中傷するもの、いたずらやいじめにつながるもの、肖像権やプライバシーを侵害するものや他者が撮影したものを出品してはいけないという注意事項を記し、丁寧に説明した。

提出方法は、写真のデータが入ったメディアを学校へ持参する方法と、写真のデータをメールに添付して河内高校のアドレスに送る方法のどちらかとしたが、ほとんどの生徒はメールで提出した。

作品は2L版に印刷しそれぞれを額に入れて、最も人通りの多いところにクラスごとにパネル展示した。表彰を行う際にはパワーポイントを用いて受賞作品をスクリーンに映し出して紹介した。

取組の成果（効果）『他者理解』

本校では特別支援の視点から、『生徒に伝わらないことがあれば、それは生徒の側の問題ではなく、上手く伝えることができていない教員側に問題があるのではないか。』という基本認識に立ち「伝える」ことを意識して授業や指導を行っている。そして、できていることを認めてほめることや、否定的な表現を使わず、「○○すれば○○できる」といった肯定的な表現を使うなど多くの取組を継続的にを行っている。また、写真コンテストだけでなく写生大会（1年生）や短歌コンテストなど自己表現の場と表彰される機会を多く設け自己肯定感の醸成と、他者を認め、容認する心の育成へとつなげている。

そういった学校全体の取組が背景にあって、コンテストに出品された作品の中に、人を中傷するものやいたずらやいじめにつながるものなどは一切なかった。文化祭当日、展示された作品に関して、自分と異なる視点に驚く声や、称賛する声があちこちで聞かれた。よくトラブルを起こす生徒にありがちな、自分と異なるものを否定したり非難したりする姿は全く見られなかった。

生徒はこの取組を通じて、人の感性に触れることに喜びを感じたり、伝えることの難しさを実感したりすると共に、受け取る側が正しく受け取ってくれて初めて「伝わる」のだというコミュニケーションの基本的なことを実感することができたと思われる。

生徒指導部が実施している生活満足度アンケートにおいて、学校生活に満足しているかという問いに肯定的な回答をしている生徒の割合（１・２年生）は、H27 年度 70.8% H28 年度 77.3% H29 年度 80.0% H30 年度 82.1%と増加している。

大賞「運命」



優秀賞「ゆうひ」



優秀賞「夕方」



今 後 の 展 開『主体的な深い学びへ』

今回は、生徒にも受賞作品の選考に関わらせ、また、コンテスト終了後に良かったと思う作品とその理由をグループ内で話し合い、それぞれの感想を共有する時間を設けることにより、取組の効果を高めたい。

また、6回目を迎えた全校写真コンテストだが、実施時期や内容を生徒に決めさせるなど、生徒が主体的に行うコンテストへと取組を深化させていく必要がある。

他 教 科 と の 関 わ り『対話的・協働的な学び』

すでに述べたように、本校では全ての教育活動において教職員自らが『伝える』ことを意識して取り組んでおり、各教科のグループワーク等による協働的な学びの場においても生徒に対して、伝えることを意識して考えをまとめ、相手の意見をできるだけ正確に理解し、異なる意見を尊重するよう、積極的な姿勢で取組に参加するよう指導している。

校番	95	ホームルーム活動	生徒会活動	☐ 学校行事	別紙様式
----	----	----------	-------	----------------------------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山商業高等学校	校長	田玄 和司	生徒指導主事	井手之上 訓芳
-----	----------	----	-------	--------	---------

取組事例名 『体育祭』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性」	1	「自主的、実践的な態度」	2	「思考力・判断力・表現力」	3

取組のねらい『規律ある集団行動の体得』

体育祭を通して、運動に親しみながら、学校への所属感や連帯感を深める。クラスの仲間と協力して競技に参加し、体育祭を成功させようとする自主的、実践的な態度の育成。集団行動の体得と責任感の醸成。

取組の具体的内容『責任感、連帯感の育成』

本校では初となる『第1回 体育祭』を開催した。年度初め、クラス役員に「体育祭実行委員」を新設し、体育祭開催に向けて定期的に委員会を開く。生徒会と教員、PTA役員が協力・連携して会議を重ねながら、本校の規模に見合った競技種目の選定、用器具の準備、プログラムの作成等を行った。

開催日一週間前には、学年ごとの体育祭練習時間を設け、行進や学年特有の競技の練習を行った。臨時時間割を組むことで、該当学年団の教員も学年練習に参加して生徒の指導に当たった。学年団の教員が練習に参加することで、生徒に指導が行き届きやすく、競技ごとの入退場の流れや競技方法、注意事項などを生徒全体に周知徹底した。

クラス対抗種目や色別対抗種目等を取り入れ、生徒個々の頑張りが所属チームの得点アップに貢献できることを強く意識させた。



取組の課題・創意工夫『行事に参画する』

工夫

- ・ 体育の授業において、4月当初から小集団を指定してスポーツに取り組ませたり、行進・集合を繰り返し練習させたりして、集団行動の時間を多めに確保した。
- ・ 生徒会執行部とPTA役員合同の会議を開き、保護者参加型競技や体育祭準備等の協議を行った。

課題

- ・ 各競技中の応援の仕方、色別対抗競技中の団旗を使用した応援のやり方を生徒が分からず、色別で団結し盛り上がる応援場面が見られなかった。
- ・ 団長がリーダーシップを発揮する場面が少なかった。団長が率先して応援を行う等の事前指導を充実させる。

取組の成果（効果）『学校への所属意識を高める』

- ・ 「来年もやりたい」「〇〇の競技をやってみたい」「応援団を結成したい」といった行事に対する前向きな発言が多く聞かれた。
- ・ クラスメイトと協力して競技に打ち込むことで、クラスへの所属意識と連帯感を高めることができた。また、協力してよりよい学校生活を過ごそうとする意識が高まった。
- ・ 運動部に所属している生徒が活躍する場面が多くあった。本校では部活動への加入率が低いという課題があり、その中で部活動の生徒に自己存在感を与える場として高い効果があった。

今 後 の 展 開『学校行事の充実』

- ・ 競技内容や、実施方法を見直して、次年度以降に向けプログラム内容を改善する。
- ・ 生徒会活動の活性化、各委員会活動や部活動の充実を図る。
- ・ 文化祭で文化部が作品発表を行うように、体育祭を運動部活動の発表の場とすることを検討する。

他教科との関わり『協働』

- ・ 国語や芸術の時間に、学校行事をテーマにした取組（ポスター制作や標語づくり等）を行う。

学校や地域への愛着を深める
ボランティア活動

指定校番号	30001		学級活動	○	児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	--	------	---	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀小学校	校長	山下 伸一	生徒指導主事	堀江 大志
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『阿賀小児童ボランティア隊（ＡＪＶ）活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思いやり・感謝」	2	「貢献」	1	「自らへの自信」	3

取組のねらい『キーワード 課題に気付く』

- ・ボランティア活動を通し、学校環境の美化等を主体的に行うことで、学校への愛着を高める。
- ・ボランティア活動を通し、学級や学年を超えて児童が相互にふれ合う中で、新しい人間関係を築いたり、自他のよさに気付いたりする。また、学校生活を見直し、自分たちの周りにある課題を見つけ、自ら取り組み解決しようとする実践的態度を育てる。

以上のことを通し、全児童のボランティア活動に対する意識を高め、思いやりの心を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 望ましい高学年児童の育成』

- ・阿賀小児童ボランティア隊（ＡＪＶ）を作り、入隊児童を募集する。（高学年児童対象）
- ・ボランティアに参加した児童に、ボランティアカードを配付する。
- ・「阿賀小きれいにし隊」（始業前のボランティアそうじ）のボランティアに参加した児童のカードに、１回ごとに押印する。
- ・２０回参加した児童は「正隊員認定式」を行い認定証、バッジを授与され、正隊員に認定される。
- ・１００回参加した児童を経験や人物を考慮してリーダーに選任し、ボランティア活動の認定（カードへの押印）を任せる。また、リーダー会議を通して話し合ったことをもとに呼びかけ等を行う。
- ・隊員を高学年限定とすることで下学年からは「あこがれの高学年」、高学年にとってはリーダーとしての意欲や責任感を育てている。



認定式

取組の課題・創意工夫『キーワード リーダー性の発揮』

- ・ＡＪＶ活動運営上の課題を解決するため、リーダー（１００回以上参加の児童）会議を実施した。
- ・リーダー会議の中で「そうじの態度」「活動時間」「参加人数の減少」などが課題として出された。
- ・「そうじの態度」の課題については、望ましい態度について例示し、周知させた後、不適切なそうじ態度であった児童には、押印をしないことにした。
- ・「活動時間」の課題については、「参加はしたいが、事情があり活動時間に間に合わない児童」がいたので、活動終了時刻を延長することにした。



リーダー会議

- ・「参加人数の減少」の課題については、参加の多かった学級を表彰するなど、見える形で児童の主体性を認め、参加を促していった。
- ・リーダー（１００回以上参加）の活動へのモチベーションを高めるため、押印の仕事だけでなく、参加人数の集計、そうじ場所の決定など教員が行っていた仕事内容を委譲し、達成感、充実感をもたせる工夫を行った。
- ・２００回参加児童を表彰するためのゴールドバッジを作成した。



A J Vのぼり



A J Vバッジ

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感の獲得』

平成３０年１２月現在、正隊員（参加２０回以上）の児童は２３０名。リーダー（参加１００回以上）の児童は４７名。ゴールドリーダー（参加２００回以上）の児童は、１８名。参加３００回以上の児童は８名いる。これらの児童は全て学校長より認定証が渡され、リーダーについては、認定式を全校朝会で行った。認定式を通じ、教職員、児童から認められる体験をさせた。

本校ではアセス（学校環境適応感尺度）を年２回実施している。その中で教師から認められていると感じている指標「教師サポート」（偏差値）の学校平均は、平成２７年７月の５４．５に対し、直近の結果は、６１．８と７ポイント以上の向上が見られた。学校で自分のよさが認められているという思いは、高い水準にあると考えられる。

今 後 の 展 開『キーワード 持続可能な取組』

A J V活動立ち上げから４年経ち、A J V活動を学校の伝統と捉える児童が多くなった。当初、参加人数が１人だけの日もあったが、現在では常に２０名から３０名の児童が集まり、活発に活動している。平成２９年度には、阿賀小オアシス隊を新たに立ち上げ、全校児童の参加により、朝や帰りのあいさつ、授業時のあいさつが校内や地域で響くことを目指している。教職員も活動に参加することが多く、A J V活動がしっかりと学校に位置付いていると考えられる。今後、A J V活動を継続するとともにさらに発展させていくためには、児童主体の取組にしていくための工夫等、取組のさらなる工夫改善が必要である。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 豊かな体験の充実』

児童の内面に根ざした道徳性を育成するためには、学校の教育活動全体において豊かな体験を積み重ねることが必要である。A J V活動は、道徳科の授業で学んだことと有機的に関連し、道徳性を高めていく上で非常に有効な実践の場である。これらのことから、A J V活動は道徳教育の基盤の一つであると考えられる。

指定校番号	30043		学級活動	○	生徒会活動		学校行事	別紙様式
-------	-------	--	------	---	-------	--	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷中学校	校長	大畑 文信	生徒指導主事	大西康晃
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『生徒会を中心としたボランティア活動の充実』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性」	1	「自らへの自信」	3

取組のねらい『キーワード：自主的にやりきれるボランティア活動』

- ・生徒会執行部を中心として、日々校内で行える短時間ボランティア活動を実行する。
- ・グループを作り曜日ごと、または日にちを指定して活動する。
- ・ボランティア活動を通して、他者から評価され自己肯定感を育てる。
- ・ボランティア活動をやりきることで、充実感・達成感を得る。

取組の具体的内容『キーワード：毎日自主的に、3年生が責任感を持って』

- ・朝掃除ボランティア
- ・挨拶ボランティア
- ・旗揚げボランティア
- ・フラワーボランティア
- ・環境ボランティア
- ・献血ボランティア
- ・募金ボランティア

取組の課題・創意工夫『キーワード：日々短時間で行える』

- ・各ボランティア活動に生徒会執行部で担当者を割り当てる。
- ・各学期はじめに、全校生徒に各ボランティア活動募集をする。
- ・募集後、各ボランティアのグループを縦割り班で構成する。
- ・各活動時には、3年生がリーダーとして出欠や振り返り等を行う。
- ・献血ボランティアについては、日本赤十字社と連携し5月、12月の年2回実施。町内スーパー駐車場にて1日行う。
- ・献血ボランティアは、報道機関に取材依頼し、新聞・CATV等で活動報道をしていただく。
- ・学期ごとにボランティア活動を選ぶことができるので、様々な経験ができる。
- ・学校外でのボランティア活動の案内も行い、活動・参加の視野を広げる。
- ・年々ボランティア参加生徒は増えているが、100%達成には至っていない。

取組の成果（効果）『キーワード：参加者が認められ評価されることで次につながる』

- ・日々短時間で行うことができるので、継続して活動できる。
- ・校内での活動が主になるので、教員側も肯定的な声かけができ、HR等で他の生徒にも伝えることもでき評価の場面が増える。
- ・献血ボランティアは、報道機関等で取り上げられることにより、校外の方々に活動が知られ評価されることが増える。
- ・活動内容、風景の校内掲示等も行い、評価の場面を増やす。
- ・以上の様な評価場面が増えることで、生徒の次のやる気につながり、徐々に参加者も増えている。
- ・夏の豪雨災害の町内復旧作業時に、町内のいたる所で中学生がボランティア活動をする姿が見られた。
- ・自宅が全壊や半壊、床上浸水等で被災した生徒自身も、自宅以外のボランティア活動に自主的に協力していた。
- ・ボランティア活動をすることが当たり前になっている状況の生徒が多数いるように感じる。

今 後 の 展 開『キーワード：他者から褒められることで自己肯定感を育てる』

- ・ボランティア活動を通して、認められる喜びを味わう機会が増え、自己肯定感が育てられる。
- ・自己肯定感が育つことにより、精神状態も落ち着き、人間関係も安定しトラブルも減少してきている。また、対象生徒も全体に広がることなく、特定の生徒に限られるようになる。
- ・この取組を継続する事が、積極的生徒指導につながる。
- ・活動を評価すること、学校便り等で紹介する事等も含めて、様々な情報発信を継続する。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード：課題解決能力の育成につなげる』

- ・自己肯定感が育つことで前向きに授業に取り組むことになり、各授業で課題解決に向けてよりよい方法を選択し、自ら進んで取り組む力が育つ。また、未知なるものにチャレンジし、自分の持っている考えを的確に伝えることができ、相手の考えも肯定的に受け止め、自分の考えに生かすことができるようになる。学力の向上・進路実現につながる。

指定校番号	30051	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次中学校	校長	迫田 隆範	生徒指導主事	平本 敏明
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『一斉ボランティア活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・協調性」	1	「自己の良さ」	2

取組のねらい『キーワード：自覚と責任・自己有用感・連帯感』

- 一斉ボランティア活動を通し生徒会執行部の自覚と責任を持たせるとともに力量を高め、三次中学校生徒会活動を活発にする。
- 小中学校で連携して一斉ボランティア活動に取り組むことにより、児童生徒に地域社会の一員としての自覚と郷土を大切にする気持ちを育てるとともに、自己有用感を高める。
- 部活動単位で活動することにより、上級生の指導力や部員同士の連帯感を強める。

取組の具体的内容『キーワード：縦割り集団（校区内小中学校、部活動）』

○生徒会執行部による各小学校児童会への説明【小中】

○執行部と部長の打ち合わせ会【中】

○グループ打ち合わせ会【中】

- ・執行部からの説明
- ・グループ（部活動）ごとに分かれて打ち合わせ
個人の目標、発表、グループ目標決め、評価項目決め、
当日の動きの確認（清掃の仕方など）、持参物、掃除道具など準備物の確認



生徒会執行部による
小学校児童会への説明

○当日の動き

- ・開会式【小中】
校長先生挨拶、生徒会長挨拶、各部（掃除場所）でのグループ目標発表（9グループ）
グループ別最終打ち合わせ
- ・ボランティア活動実施【小中】
- ・閉会式【中】
- ・グループ（部活動）別反省会【中】
グループ（部活動）ごとに反省会を行う。
自己評価、友だちからの評価、感想文



開会式

○学級活動【中】

- ・グループ（部活動）別反省会で書いた感想文を学級班でリレーコメントをしながら、良かった点や頑張った点を評価し合う。その中から学んだことや気づいたことなどを記入する。



巴橋の清掃

※ 【小中】：小中学校合同での取組，【中】：中学校のみの取組

取組の課題・創意工夫『キーワード：小中連携』

【課題】

- ・ 三次中学校区内の小中学校の日程をそろえることが難しい。特に、小学校1校は中学校から距離的にも遠いため、当日の時間調整においても難しい面がある。
- ・ 当日までの取組が各小中学校であり、小中（生徒会・児童会）のつながりが弱いと感じる。

【創意工夫】

- ・ みよし学園生徒指導部会が中心となり企画立案する中で日程の調整を行った。
- ・ 生徒会執行部が各小学校へ出向き、児童会へ「ボランティア活動についての説明・協力をお願い」を行い、つながりをもつことができた。また、生徒会執行部の生徒は先輩としての意識を高めることができた。

取組の成果（効果）『キーワード：つながり』

- ・ ボランティア活動の活性化については、みよし学園一斉ボランティアを5月1日（火）に、三次小学校5・6年生、河内小学校児童と合同で地域の清掃活動、福祉施設訪問等を行った。生徒会を中心に計画し、部活動単位での縦割り集団で、欠席した生徒を除く、全校生徒が取り組むことができた。
- ・ 【学校生活アンケート（7月）より】

項目	生徒	保護者	教職員
ボランティア活動に積極的に取り組んでいる	84.9%	74.0%	89.5%
生徒会活動や学校行事に積極的に取り組んでいる	91.8%	79.7%	100.0%

- ・ 当日は、生徒児童だけでなく保護者、地域の方も参加していただいた。また、ケーブルテレビや新聞にも取り上げていただき、取材に対して、巴橋の歩道のゴミ拾いや水をまいてのブラッシングをした生徒は「地域の人が気持ちよく歩けるようにしたいと思ってブラシをかけた。」という感想を述べていた。

今 後 の 展 開『キーワード：継続・改善・発展』

- ・ 三次市立三次中学校独自で「全校ボランティア」を始めて17年になる。これを小学校と同一日に行う取組へと発展させ、さらに小学生と中学生が協働するようになって4年になる。今年度、新たな取組として中学校生徒会執行部が事前に各小学校へ出向き、取組の説明を行う事ができた。今後はボランティア活動での一層の関わりを深めていく。また、今年度初めて、生徒会・児童会共同で「より良い学校生活を送るための標語募集」を行った。これらをもとに、小中での児童生徒の関わりを量・質ともに高めていく。

他教科との関わり『キーワード：地域貢献』

- ・ 道徳の時間（勤労・奉仕、社会の一員、郷土愛）
ボランティアの意義を考えるとともに、郷土を大切に思う気持ちを高める。
- ・ 国語（言語活動）
頑張ろうと思うことや個人目標を自分のことばで相手にきちんと伝えられるようにする。
600字～800字にまとめて感想を書き、自分の考えを整理する。
- ・ 総合的な学習の時間（ふるさと貢献）
グループの目標や個人目標を決定することを通して、ボランティアに対する気持ちを高める。
奉仕の気持ちを持ち、目標達成に向けて活動する。

校番	16	ホームルーム活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
----	----	----------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立大竹高等学校	校長	見村眞由美	生徒指導主事	岡本茂生
-----	------------	----	-------	--------	------

取組事例名 『社会奉仕活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性」	2	「主体性」	1	「自己肯定感」	3

取組のねらい『地域貢献』

- 生徒会を中心に計画をし、自ら考え判断し行動できる。
- 環境美化に対する意識を高める。
- 地域で唯一の高等学校であることから、自分自身がより良い地域社会をつくる担い手であることを自覚する。

取組の具体的内容『美化活動・清掃活動』

- 地域清掃活動・・・生徒会執行部、美化委員により全校生徒へ地域清掃活動の実施をHRにより周知した。
各運動部・文化部の顧問や部長にもボランティア活動へ積極的参加を促すアプローチを行った。
大竹高等学校敷地内から大竹駅までの登校ルートおよび地域の主要幹線道路や公共施設等へ2グループに分けた清掃活動を展開した。
積極的に地域の方々へ挨拶を行い、コミュニケーションを図った。
- 緑化活動・・・学校行事として花いっぱい運動を実施し、花の生育に必要な水やり等を長期休業中においても生徒会・美化委員を中心として計画的に行い、その成果として育てた花を地域の保育所・駅等へ贈る。
- 校内外清掃活動・・・生徒、PTA、教職員参加により夏休み期間中に実施した。

取組の課題・創意工夫『生徒の主体的活動』

- 生徒会で作ったジャンバーを着用し、チーム大竹で活動していることを地域の方々へ知ってもらう。
- 清掃活動中にも積極的に挨拶を行いコミュニケーションの場とする。
- 生徒会行事として年間計画を作成することが課題である。実施をした後の生徒へのアプローチが必要だと考える。
- 感謝の気持ちの醸成（事前学習）



取組の成果（効果）『 帰属意識・自己肯定感の向上 』

- 地域からの苦情の減少
- 活動参加生徒の増加 ・ ・ ・ ・ 昨年度 ８０名 今年度 ９２名
- 地域から感謝の気持ちを多くいただいた。
- アンケートによって、参加生徒の９５％が「やってよかった」「地域の方に声をかけてもらいうれしかった」「来年も参加したい」など、活動に肯定的な意見が多数上がった。

今 後 の 展 開『 生徒の力 』

- 生徒主体で継続した環境整備活動の計画 ・ ・ ・ ・ 生徒会活動行事として位置づけ、年間計画を立てる取り組み。
- 生徒自身による学習環境整備への意識向上 ・ ・ ・ ・ 学習の場である学校内、特に使用教室内の環境整備への意識の向上。
- 生徒会による地域とＰＴＡとの連携 ・ ・ ・ ・ 挨拶運動も含めもっと積極的に地域での活動に参加する。
- 自主的な参加生徒の拡大 ・ ・ ・ ・ 教員の声掛けではなく、生徒間で声を掛け合い、ボランティア活動の拡大を目指す。

他 教 科 と の 関 わ り『 連携 』

- 生徒会だけの取り組みだけにとどまらず、関係・関連教科とのつながりを求めていく必要がある。教科や部活動において地域の方々と連携を行っているが、それぞれどんな関連性があるかは集約できていない。連携することによって次年度の取り組みが進化する可能性があると考えられる。

校番	062	ホームルーム活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立安西高等学校	校長	馬屋原 幸孝	生徒指導主事	志村 祐
-----	------------	----	--------	--------	------

取組事例名 『花いっぱい運動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「高い志・使命感」	1	「課題発見・解決力」	3

取組のねらい『キーワード：社会とつながる』

公共の場である校内環境の美化に努めるとともに、自然を愛し生命を尊ぶ精神を培い、地域社会の一員としての自覚を持ち、公德心及び社会連帯の意識を高めていく。



私たちが育てています



～社会につながる学びを大切にする～

安西高等学校 生徒会・生活委員会

取組の具体的内容『キーワード：地域貢献』

年2回、生徒会執行部と生活委員会を中心に、プランターに植花し、校内へ設置する。また、安西幼稚園と連携し、植花したプランターを設置させてもらい、水やりや花の手入れを園児と生徒で協力して行う。



取組の課題・創意工夫『キーワード：連携』

幼稚園を訪問するのは放課後となるため、園児は帰宅してしまっていて、高校生と触れ合う機会がない。生徒の活動用様子をポスターにして掲示してもらったり、生徒の取り組む姿を園児へ投影してもらうため、生徒と幼稚園教諭のやり取りを通じて、幼稚園教諭から安西高校生の姿を伝えてもらう。



幼稚園を訪問した際、幼稚園教諭と

取組の成果（効果）『キーワード：感謝』

連携・訪問した際の生徒の対応に、感謝とお褒めの言葉をいただいた。また２月８日に安西幼稚園の園児が本校を訪問し、生徒会執行部等に、活動に対する感謝を伝えてくれる。

今 後 の 展 開『キーワード：取り組みの発展・連携の拡大』

地域に愛される学校として、また地域の園児・児童・生徒の憧れと目標であることを目指し、連携先を広げ、地域社会へ貢献する活動、ボランティア活動を拡充していく。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード：自己の形成』

現代社会「現代社会と自己のかかわり，人間としての在り方生き方」

高い志を育成する取組

指定校番号	30036	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台中学校	校長	津田 和也	生徒指導主事	柳川 紀美江
取組事例名『徳地宿泊体験学習の取組』					
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「自己理解・協同的態度」	2	「コミュニケーション能力」	3	「主体性・行動力」	1
取組のねらい『キーワード なりたい自分になる』					
- 様々な体験活動を通じて、自己の生き方を見つめる機会とする。これまでの自分を振り返り、自己評価能力を高め、これからの生き方を考える。 - 宿泊体験学習に向けて取組を進める中で、計画(P)、実施(D)、検証(C)、改善(A)のサイクルを身につける。 - 仲間と宿泊を伴う校外での生活を通して、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら仲間とのコミュニケーションを図り、協力・協働して様々なことに取り組む体験を積み、相互理解を深める。					
取組の具体的内容『キーワード 人として、より質の高い人間に成長する』					
【すべての発問について、個人で考えさせ、班やクラスで交流させた。】 ●探究テーマ決め● ①「自分はどんな人になりたいか、なれるといいか。」 生徒『最後までやり切れる人。人の意見を積極的に取り入れる人』『相手の気持ちを考えて行動できる人。みんなの為に動ける人』『大らかな人』等の意見が出た。 ②「こうなりたい」自分になるために、必要なことは何か。 生徒『勉強をしっかりとやる・資格を取る・何事も前向きに頑張る』『すぐに大人に頼らず、自分で考えてから行動する。』 ③徳地宿泊研修の探究テーマの質をどんどん上げていくためには、自分はどのようなことをしていくよと思うか。 生徒『冷静に判断する。空気をよんでから話す。みんなの意見を聞いてから自分の意見を言う。』『人が嫌がる仕事でも進んでやっていく。困っている人がいたら一緒に困難を乗り越えていく』 ④徳地合宿では具体的にどんな行動をしていくとよいか。 生徒『時間を守る。(遅刻しない。)先を考えて行動する。友達と協力して動く。』『班長の言うことをよく聞く(協力する)。自分の役割(係り活動)をしっかりと果たす。』 【みんなで考えた理想の自分になれるよう、実際に徳地に行って頑張ってみよう】と出発した。					
取組の課題・創意工夫『キーワード 自分の言動に責任を持つ』					
責任を持って役割を果たそうとする気持ちを高めるために、事前の係会で具体的な目標を設定させた。 ●活動の質の向上●(各係会の目標) 班長会 広い視野を持ち一歩先を考え、一人ひとりが個性を出せるような雰囲気を作り、常に一歩先を考えて行動する。 副班長会 班長・班員のサポートをし、みんなをまとめていく。 生活係 聞く・切りかえる・守る・自分から動く。 保健係 仕事を忘れず、全力で頑張る。					

徳地宿泊体験学習の流れ

内 容
○徳地宿泊体験学習の説明(ガイダンス)
●探究テーマ決め
○「体験学習の中で、目指す自分の姿に近づくために、どのような動きをしていくか」
●活動の質の向上(係会)生活の基盤を追求する。
「目標とする姿に近づくために、係としてどのように動いていくか」
○具体的な役割分担
○しおり原稿づくり
○結団式・解団式の準備
○しおり学習
○結団式(前日)・解団式(当日)
●TAP①(その後、ファシリテーターと分析)・ナイトウォーク(副班長)
●TAP②(その後、ファシリテーターと分析)
●プレスト(徳地のまとめ)
○解団式

●徳地アドベンチャー教育プログラム (TAP) ●

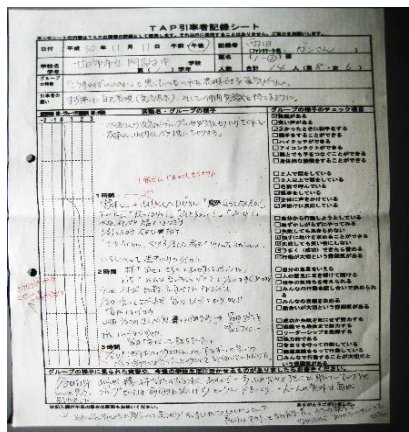
自然の中で、体験学習サイクルを生かした個人と集団の成長を促すプログラムを実施した。 11月11日(日)・12日(月) 1泊2日

【活動プログラムへ向けて目標】

活動プログラムを通して、協力することの大切さと望ましい人間関係を築く。

- ・ファシリテーターと教員が共同で集団の高まりについて、表に記して分析を行った。

●ファシリテーターと分析● →



取組の成果(効果)『キーワード 前向きに取組もうとする意欲』

- ・生徒が自らの探究課題を設定し、取組んだことで個々に自らの変容を具体的に捉えさせることができた。また、次への新たな課題を設定することもできた。
- ・仲間に対して、自然な形で素直に応援や拍手が起こるようになり、プログラムを達成した本人も自己肯定感を高めることができた。



●ブレストの様子(まとめ)



生徒 『今までより諦めずにやり遂げようと言う気持ちが強くなった。率先して周りの雰囲気を見ながらやるべき事と今はやるべきではない事が判断できた。』
『色々な立場の目線から自分は何をすればいいか、考えることができた。』

今 後 の 展 開『キーワード 誇れる自分になる』

- ・探究テーマの質を上げていくため今の自分に何が必要かを考え、実行に移していく。
- ・自分や周りの成長を肌で感じ、さらに自分を鍛えていこうとする姿勢を持たせる。
- ・人とのかかわりを大切にし、ともに高まり合う学年・学校にしていく。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 自分の将来の生き方について考えを深める』

- ・『美術』 感じたことを話し合おう。(鑑賞)
- ・『保健体育(保健分野)』 心身の発達と心の成長
- ・『国語』 話し合いで理解を深めよう。

・『道徳』・2-(5)多様な価値観「みんなでとんだ」

生徒

『生徒全員が1つになるためにみんなで跳ぶから、矢部ちゃんがうまく跳べなくても、結果が残せなくても、みんなで跳んだ事に価値がある。』



指定校番号	30046	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長	井上 一男	生徒指導主事	向井 大
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『良いものにふれ、心を耕す』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性」	3	「主体性・積極性」	2	「高い志・自信」	1

取組のねらい『キーワード：心を耕す』

本校の学校教育目標は「一生懸命がすばらしい～夢と志を抱き、仲間とともに、生き抜く力を身に付けた子どもの育成～」である。しかし、様々な活動の中で周囲の目を気にして自己の力を出し切れなかったり、高い目標や志がなかったりするため、一生懸命に活動する生徒は少ない。また、仲間の頑張りを認めて応援する雰囲気もありない。このような現状から、自己の意識や学校の雰囲気を変えるために、一生懸命に何かに取り組んでいる人を見たり、高い目標や志を持っている人の話を聞いたりするなど良いものにふれ、心を耕す活動を取り入れた。



取組の具体的内容『キーワード：良いものにふれる』

①尾道北高等学校体育祭の応援合戦の見学

尾道北高等学校の体育祭の応援合戦は伝統があり、毎年盛り上がっている。高校生のレベルの高い応援合戦を間近で見ることができ、最後に尾道北高等学校の3年生からエールをいただいた。

②関西大学応援団のパフォーマンスと講話

パフォーマンスでは一生懸命に応援する姿や本校の校歌を全力で歌う姿を見せていただいた。講話では一生懸命に頑張ることのすばらしさや頑張れという言葉の重みについて熱く語っていただいた。



③広陵高等学校野球部の河端利晶選手の講話

河端選手は尾道市内の中学校出身であり、高い目標を持って頑張っている。講話では感謝の気持ちを持つことの大切さについて熱く語っていただいた。

取組の課題・創意工夫『キーワード：身近な先輩』

○課題

この取組では、本物を見て良いものにふれる段階で終わっているため、生徒が感じたことを生かして表現する場面をすぐに設定する方がより効果的な取組になる。

○創意工夫

可能な限り身近な人材を活用するようにした。講話等の内容が本校の課題とずれないように事前打ち合わせを丁寧に行った。



取組の成果（効果）『キーワード：心の変化』

《生徒の感想》

①尾道北高等学校体育祭の応援合戦の見学

- ・みんなが一生懸命でカッコよかった。これが「一致団結」というものだった。来年度の体育大会は「一致団結」を意識して、みんなで一生懸命に頑張りたい。
- ・みんなが笑顔で本気で演技をしていた。手を抜いている人は1人もいなくて、みんなの声、動き、気持ちさがそろっていた。また、演技を見ている人も応援して盛り上げていた。これからの学校生活では、本気でやっている人が認められる雰囲気をつくりたい。

②関西大学応援団のパフォーマンスと講話

- ・本物の「一生懸命」を見ることができました。自分のため、人のために一生懸命になることのすばらしさを感じた。
- ・一生懸命に何かを頑張っている人に心から「頑張れ」と応援できる人になりたいと思った。
- ・応援団の人たちは自分たちの応援に誇りを持っていた。来年度の体育大会や文化祭では、全力で一生懸命に取り組んで誇りに思えるようにしたい。

今 後 の 展 開『キーワード：自己や学校の活動に生かす』

この取組は主に1・2年生を対象に行ったので、良いものにふれて感じたことを、来年度の日々の活動や体育大会・文化祭等の行事で生かすことができるかが重要である。そのため、各活動の前にこの取組の振り返りを行うとともに目指すべき姿を明確にして各活動にのぞませる。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード：表現力・価値観・学びに向かう力』

国語科と関連して、共感したり想像したりする力や伝え合う力が身につくとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。また、すべての教科に関連して、学びに向かう力を養うことができる。

校番	4 4	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
----	-----	----------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長	慶徳 克二	生徒指導主事	河野 浩規
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『70周年記念式典への取組』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・積極性」	1	「自己有用感・自己肯定感」	3

取組のねらい『記念式典の成功による達成感の共有』

黒瀬高校創立70周年記念式典の成功という目標に向かって、学校全体が細かな分担の下に計画的に取り組むことで、式典の成功に自分たちが関わることができたという達成感と学校関係者でその達成感を共有するというねらいがある。

取組の具体的内容『式典参列者へのおもてなしと式典の円滑な進行』

式典参列者へのおもてなしを重視した運営を生徒が主体となって取り組み成功させることを目標に掲げた。具体的には、参列者が校門を入られてから式場に進まれ式後に校門を出られるまでの間、心地よく過ごしていただくために各担当生徒が笑顔で接するという取組である。



取組の課題・創意工夫『役割分担と準備計画』

<前日までの準備>

- ① 記念品（ペーパーウェイト、せんべい、クリアファイル）及び記念のロゴのデザイン制作
：美術部及び美術選択者
- ② 校内美化：美化レンジャー
- ③ 花植え：花レンジャー
- ④ 他の校内清掃：担当クラス

<前日の準備>

- ① 会場準備：1年1・2組
- ② 来賓・PTA 受付準備：福祉科
- ③ 来賓靴置き場の準備：1年3組
- ④ 予行演習進行・校歌斉唱練習指導：担当教諭
- ⑤ 駐車場準備：3年2組男子

<当日の役割担当>

- ① 司会：放送部
- ② 舞台準備：新旧生徒会役員
- ③ 来賓誘導 A（校長室・小会議室→体育館）：3年有志
- ④ 来賓誘導 B（食堂→体育館）：3年1組女子8名
- ⑤ 来校者誘導（駐車場係）（正門→駐車場→受付テント）：3年2組男子10名
- ⑥ 来校者誘導（受付テントから各所へ）：福祉科生徒

講師誘導：新旧執行部2名及び教員年度当初から、「11月の70周年記念式典を成功させよう。」という意識付けを校長講話や各HRでの取組の中で生徒に発信するとともに役割ごとに生徒と教職員が本番を想定しながら準備を進めたことで満足のいく結果となった。しかし、生徒主体で行うという目標を掲げ、主体的に力を発揮してくれた生徒も多かった半面、消極的な参加に終わってしまった生徒もある程度いたという現実もある。取組の課題としては、消極的な姿勢の生徒に対しての役割分担ややる気を起こさせる取組が不十分だったことが挙げられる。

取組の成果（効果）『参列者からの評価及び自己評価』

取組後のアンケートはとっていない。参列者の方々からは、「立派な式典だった。」「生徒主体の運営も素晴らしかった。」「誘導してくれた生徒たちが親切だった。」「駐車場係の生徒たちの挨拶や笑顔が良かった。」などの声をたくさんいただいたと校長・教頭から聞いている。また、毎月発行している「黒高だより11月号」で記念式典の様子を伝える中での生徒からの感想には次のようなものが掲載されていた。

○1年女子：70周年という節目の年に参加できたことがとても嬉しかったです。私は和太鼓部なのでお客様の接待とかすることはできなかったけど、掃除などをして学校が綺麗にでき良かったです。お客様と会ったときに、自分から自然な笑顔で挨拶をすることができ、お客様からも挨拶を返してもらえたので嬉しかったです。

○2年女子：黒瀬高校70周年記念行事に参加させていただき、誘導係をしました。笑顔が良いと褒めていただきました。式では、シンガーソングライターのあどRun太さんに来ていただき、命の大切さ、人間が普通でいることの素晴らしさを学ばせていただき、自分も人の気持ちがわかる思いやりがある人になろうと思いました。

○2年女子：今日は、黒瀬高校70周年記念行事に参加することができて、とても良い日になりました。あどRun太さんのトーク&コンサートでは、自分の夢に向かい、諦めずに過ごすというのを聞いて、私も自分の夢に向かい頑張っていこうと思います。また、卒業して胸を張ってこの学校の生徒だといえるようにあと1年半を過ごしていきたいです。

○3年女子：70周年記念行事に参加して、70年も続いていて、今日参加できたことをとても嬉しく思いました。今日のためにお茶出しや記念品を手渡す準備も頑張ってきたので最後まで無事に終わられて良かったです。あどRun太さんの話や歌を聴いて歌の持っている力はすごいなと思いました。残り少ない高校生活を今まで以上に楽しく頑張っていきたいと思いました。

今後の展開『本校生徒としての自覚と責任感の育成』

本校生徒の多くは、学校行事を自分たちの力で楽しく活発に進めていく力を持っていると思う。しかし、日頃の学校生活で学習すること、各生徒の学校生活を守るための生徒指導規程を守ることから逃げている生徒も多くいる中で、「黒瀬高校の生徒としての自覚と責任感の育成」を目指すためには、すべての学校行事を行う前に関係生徒全員にその行事の趣旨を説明する場を設け、その説明の中で繰り返し本校生徒としての自覚を促し、責任感の育成に努めるという取組を続けていくことが必要と考える。

他教科との関わり『適時な声掛け・指導注意・連携』

日常の授業内での指導、注意及びやる気を出させる適時な声掛けが必要になってくる。また、生徒個々の状況を教科内・学年会などで連携・共有する機会を今以上に持たなければならないと思う。その点についてまだまだ不十分であり課題の一つである。

校番	65	○	ホームルーム活動		生徒会活動		学校行事	別紙様式
----	----	---	----------	--	-------	--	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	校長	小迫 孝太郎	生徒指導主事	富島 俊宏
-----	-------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『教職員講話』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「共感的理解」	1	「多様性に対する適応力」	3	「自己理解・進路実現」	2

取組のねらい『キーワード 心のスイッチを入れる』

本校の実態として、人の話が聴けない、人の気持ちに気付けない、言葉の選び方・表現方法が悪いなどが原因で、人間関係がうまく築けない生徒が出る。これらの問題が、暴力行為やいじめに発展する場合もある。また、自己肯定感が低く、目的意識も低いため、その時々で頑張ることが苦手な生徒が多い。その結果、学校の指導が入らない、授業をしっかりと受けられないなど、教職員との関係も向上していないことも生じている。

これらを改善するため、日頃接することの少ない教職員も含め、様々な角度、人などから話を聴く機会を多く与えることで、人間関係形成や自己実現に対する生徒の内発的動機付けを行う。

取組の具体的内容『キーワード フリートーク』

- 教職員の講話を聴き、ワークシートに振り返らせ、まとめた。
- 講話のテーマは、「生徒のために」という視点で、教職員の自由な形態とした。以下のような、個人的なテーマから本校の現状を踏まえたテーマなどがあった。
 - ・12月末には、6名が「今年を振り返って成長したと思うこと」、「来年挑戦したいこと」など
 - ・1月末には、12名が「3学年の先生から1・2年生の生徒へ」、「退職するにあたり」など

取組の課題・創意工夫『キーワード 一体感』

- 多くの人の話が聴けるように、一人当たり5分程度の持ち時間とした。
- 生徒の椅子を話し手に向け、生徒と教職員の顔が良く見えるようにし、距離を縮めた。



○生徒が話を聴きやすいよう、生徒に動作を取り入れたり、ICTの活用（パワーポイントや動画）をした。



- 教職員同士が打合せをする時間がなく、内容が重複する場合が生じた。
- 生徒達が意見を言ったり、生徒同士で議論したりという場面がほとんどなかった。

取組の成果（効果）『キーワード 前進』

生徒・教職員にアンケート（振り返り）を行い、以下のような意見が出た。

○生徒と教職員の距離が縮まった。

- ・授業で関わりのない教職員・生徒と関わるきっかけとなった。
- ・教職員の本音を聴くことができた。
- ・生徒へ指導しやすくなった。

○自分の生活・態度を見直した。

- ・ルールや時間を守ることの大切さを感じ、日々意識したい。
- ・周りの人に迷惑をかけないように、コミュニケーションを図りたい。
- ・諦めないで挑戦していきたい。
- ・思ったことを生徒にぶつけていこうと思った。

○将来について考えた。

- ・後悔しないよう、今のうちからしっかり勉強しておきたい。
- ・進路について、早く目標を決めて、努力し実現していきたい。
- ・進路のことにに関して、生徒自らが考えるようになり、質問してくることが増えた。

今 後 の 展 開『キーワード 発展』

○年度始めなど、定期的にこのような機会を設け、人間関係形成に役立てたい。

○授業以外の式や集会など、特定の教職員が話すことが多いが、いろいろな教職員が話す機会を与えていきたい。

○生徒が発言したり、意思表示のしやすい方法を考えていきたい。

他 教 科 と の 関 わ り『キーワード 関係』

○進路実現に向け、学習意欲の向上につなげたい。

○教職員と生徒の人間関係形成から、教科指導や規範意識の醸成につなげたい。

いのちの大切さを理解させる
防災教育

指定校番号	30012	○	学級活動		児童会活動		クラブ活動		学校行事
-------	-------	---	------	--	-------	--	-------	--	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長	竹下比登美	生徒指導主事	林寛
-----	-----------	----	-------	--------	----

取組事例名 『5年生総合的な学習の時間と連動した取組』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「協調性・協働性」	1	「自己肯定感・自己有用感」	2

取組のねらい『根っこを育てよう』

各教科や総合的な学習の時間とつなぎ、「いのち」をテーマに単元開発を行うことで、集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『いのちの教育』

- ・防災教育に西日本豪雨の内容を追加して学びを深めた。



- ゲストティーチャーとして小屋浦小 PTA 会長の宮崎さんを招聘し、消防団員として体験された災害時の活動の様子や被害を受けた子どもたちに対するケアについて講話をしていただいた。

- ・防災学習の成果をより多くの人々に伝える取組



- 校区内にある大型ショッピングモールで開催された町主催の防災イベント、『ふちゅう防災王国 ～身につけよう 防災のちから～』に16名の有志が学年を代表して参加し、地域の方々に向けて防災

学習の取組を報告した。(左)

→ 『防災学ぼう会』を PTA とともに開催し、多くの保護者や 3 年生の児童の前で防災王国の校内報告を行った。さらに各ブースに分かれてグループごとに学習の成果を披露した。この日は中国新聞の取材もあり、児童の取組が紙面で紹介された。(右)

創意工夫 『いのちの本棚』

・課題発見や課題解決の学習ができる情報センターとして、1F オープンスペースに『いのちの本棚』を開設した。今後は、各階の図書コーナーや『いのちの本棚』が、「情報センター」であると同時に「児童の心の居場所」になるように図書ボランティアの保護者と連携し充実を図っていく。



取組の成果（効果） 『情報発信』

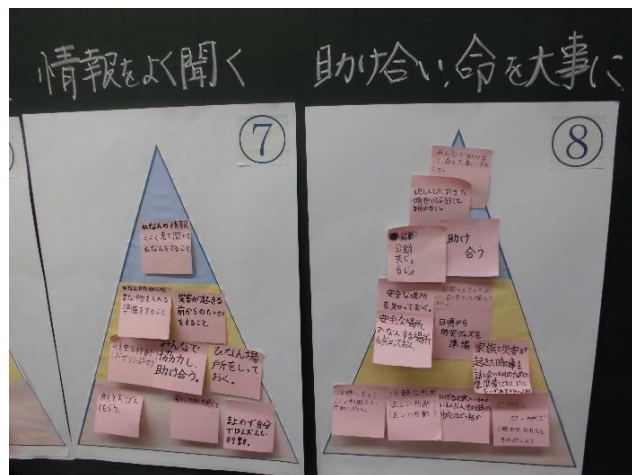
- ・さまざまな機会を通じて生命尊重の大切さについて学んできた成果を、同学年の友達に、他学年のなかまたちに、さらに地域の方々に向けて発信する機会をもつことができた。
- ・自分たちの活動が新聞に取り上げられ、児童にとっても達成感を感じることもあった。
- ・この学年の児童にとって苦手とされてきたコミュニケーション能力が少しずつ高まってきた。

今後の展開 『わたしがわたしになる学校』

・この1年間で学んだ生命尊重の理念を今後の教育目標に反映させ、自分の理想とする姿や志について自分の言葉で語り、その実現に向けた努力を続けていく。

他教科との関わり 『出合いとつながり』

・総合的な学習の時間「いのちを守り、生きていく」と連動して学習を深めてきた。



指定校番号	30034	学級活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-------	---	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	枝廣 泰知	生徒指導主事	濱田 真司
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『津波を想定した避難訓練』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「集団行動」	3	「主体性・積極性」	2	「生命尊重・知識・情報」	1

取組のねらい『実践的な訓練』

地震・津波発生時に適切に行動できるよう、避難経路及び安全で迅速な行動について理解し、実践的な訓練を行うことで体得する。

取組の具体的内容『地震・津波想定』

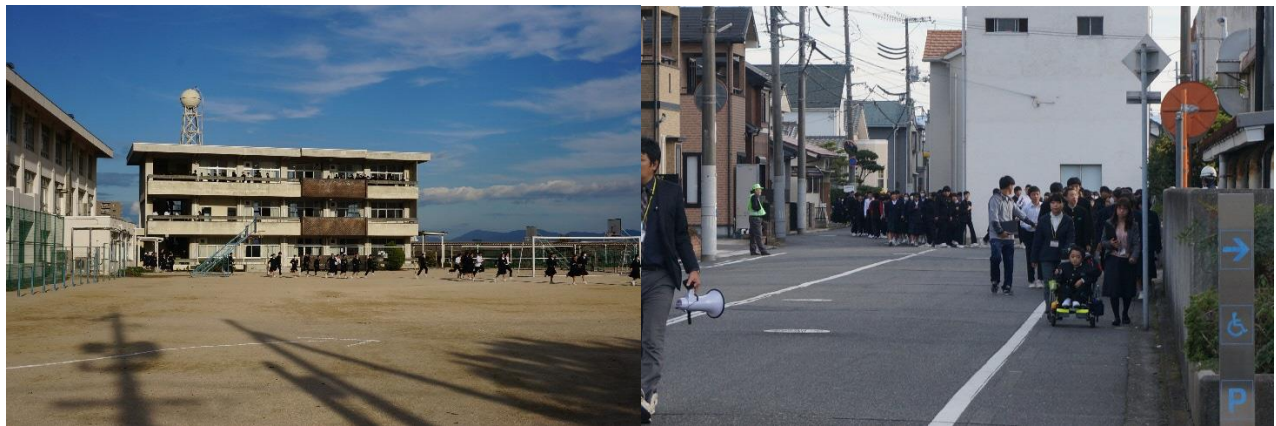
地震発生後に津波が来るという想定で行った。地震に対して身を守る対応の後に、グラウンドに避難。避難が完了した学級から近隣の高台にある公園に避難を開始する。公園で避難行動についての評価や意義等の訓話を行う。その後全員で学校に戻る。

取組の課題・創意工夫『生徒主体』

学校として初めて実施した訓練であったため、不安材料も多かった。職員の気づきや反省の中にも生徒の主体性について事前指導の不足を指摘する声があった。生徒が自分のこととして緊張感をもって訓練に参加できるような工夫が今後必要となる。

取組の成果（効果）『防災意識』

想定していた30分を大きく上回り、避難開始から16分58秒で全校生徒514名の避難が完了した。夏の集中豪雨災害を経験し、生徒の防災意識の高まりを感じることができた。また、訓練に関わって、立哨指導など多くの地域の方にボランティアとして御協力いただいたことや、その方々に生徒の避難行動や避難後の話を聞く態度について良い評価をいただくことができた。また、肢体不自由学級の生徒の避難や安全確保に関わるスタッフの動きについて、危機管理の視点から考えることのできる良い機会となった。





今 後 の 展 開『防災教育』

社会情勢の観点からも防災教育の重要性は年々高まっており、毎年実施すべきだという意見も職員からでている。今回初めて実施したことで多くの課題や改善点が見えてきた。生徒の主体性がそれを今後の自然災害や火災に対する訓練に活かしていきたい。

他 教 科 と の 関 わ り『知識・理解』

保健体育科：環境と健康

理科：地学分野・地震発生メカニズムとその影響

社会：日本の地理的特徴と自然災害